



Information Technology

第13回情報科学技術フォーラム

プログラム

FIT2014実行委員長・プログラム委員長ご挨拶	1
インフォメーション	2
交通案内図	3
キャンパス図・会場図	4
避難場所	8
各種イベントのご案内	9
プログラム(タイムテーブル)	10
会場別スケジュール	14
イベント企画概要	17
講演論文集の内容	45
展示会のご案内	46
査読付き論文について	48
一般講演プログラム	49
論文査読者一覧	66
FIT委員名簿	67

平成26年9月3日(水)~5日(金)
筑波大学 筑波キャンパス

懇親会 9月4日(木) 18:00より
筑波大学 2B棟1F 第二エリア食堂

FIT2014本部 筑波大学 筑波キャンパス 3B棟2F 3B210
臨時電話 090-4001-0001 (会期中のみ通話可能)

【主催】



一般社団法人 電子情報通信学会

The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

情報・システムソサイエティ (ISS) ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
Information and Systems Society Human Communication Group



一般社団法人 情報処理学会

Information Processing Society of Japan

【共催】

国立大学法人筑波大学

FIT2014 実行委員長・プログラム委員長 ご挨拶



FIT2014 実行委員会 委員長

坂井 修一

東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授



FIT2014 プログラム委員会 委員長

安本 慶一

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授

今回、第13回目を迎えるFIT2014は、初めて学研都市、筑波大学での開催となります。

FIT2014は船井業績賞受賞記念講演、研究会等からの意欲的な提案による17件のイベント企画セッション、査読付き論文・一般論文からなる一般講演セッションで構成されています。なお、査読付き論文を含む一般講演数は501件を数えます。

本年度の船井業績賞は、計算言語学・自然言語処理分野における国際的なリーダーとして当該学術分野の発展に多大な貢献を行い、2010年には紫綬褒章を受賞された、マイクロソフトリサーチアジア首席研究員 辻井潤一氏に贈呈することになり、受賞記念講演をして頂きます。船井業績賞受賞記念講演については、一般の方々にも広く聴講いただきたいという主旨で、無料公開講演としております。

一般講演セッションのプログラム編成には、情報処理学会各研究会、電子情報通信学会情報・システムソサイエティ、および、ヒューマンコミュニケーショングループ各研究専門委員会のご協力を頂きました。ここにFIT2014開催に関するご協力に深く感謝いたします。

最後になりますが、会場をご提供下さいました筑波大学様、並びに、開催準備と運営に多大なご尽力をいただきました現地実行委員会の皆様に深く御礼申し上げます。

インフォメーション

■総合受付（インフォメーションコーナー）[筑波大学 3B 棟 2F エントランス]

受付時間：3日（水）8:30-16:30 4日（木）8:30-16:30 5日（金）8:30-15:00
各種受付、講演論文集・DVD-ROM 販売、問合せ窓口

■FIT2014 本部・手荷物預かり [筑波大学 3B 棟 2F 3B210]

臨時電話（携帯）090-4001-0001（会期中のみ）

■聴講参加費 [プログラム・参加章・DVD-ROM 付き]（税込）

正会員：10,000 円 一般非会員：20,000 円 学生：無料（プログラム・参加章のみ）
無料公開講演（参加章のみ）：4日（木）船井業績賞受賞記念講演

■講演論文集・DVD-ROM（税込）

講演論文集セット（全論文集・DVD-ROM・カバー付き）：個人購入・法人購入共 57,000 円
講演論文集各分冊：個人購入 12,000 円 / 法人購入 15,000 円
講演論文集 DVD-ROM：個人購入 8,000 円 / 法人購入 55,000 円 / 学割会場販売：4,000 円
※DVD-ROM には一般講演全論文とプログラム収録

■懇親会

日時：9月4日（木）18:00-20:00
会場：筑波大学 2B 棟 1F 第二エリア食堂
参加費（税込）：一般（正会員・非会員）5,000 円 学生 2,000 円 座長または査読者 3,000 円

■お知らせ事項

[連絡掲示板]

FIT に関する周知および伝言等は、総合受付前に設置する「連絡掲示板」に掲示しますのでご注意ください。
各会場への個別の連絡や館内アナウンス等は致しません。

[インターネット接続コーナー（無線 LAN）]

ご利用方法は総合受付までお訊ね下さい。なお電源の提供はしておりませんのでご了承下さい。

[食堂]

3A 棟 1F 第三エリア食堂 10:30-14:00
フードコート：パスタ、パン 11:00-14:00 ラーメン 11:00-18:00
そば 11:00-18:00 カレー 10:00-14:00
和食 10:00-14:00
2B 棟 1F 第二エリア食堂 10:00-18:00

[売店]

3A 棟 1F 9:00-18:00

[書籍・文具]

3A 棟 1F

[休憩所]

3A 棟 1F エントランスホール、ラウンジ
3B 棟 2F 3B202

[喫煙について]

大学構内は指定の場所以外は禁煙です。喫煙は 3B 棟 1F の喫煙コーナーをご利用下さい。

[駐車場について]

一般参加者用の駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。
会場へは、公共交通機関等をご利用のうえ、お越し下さいますようお願い致します。

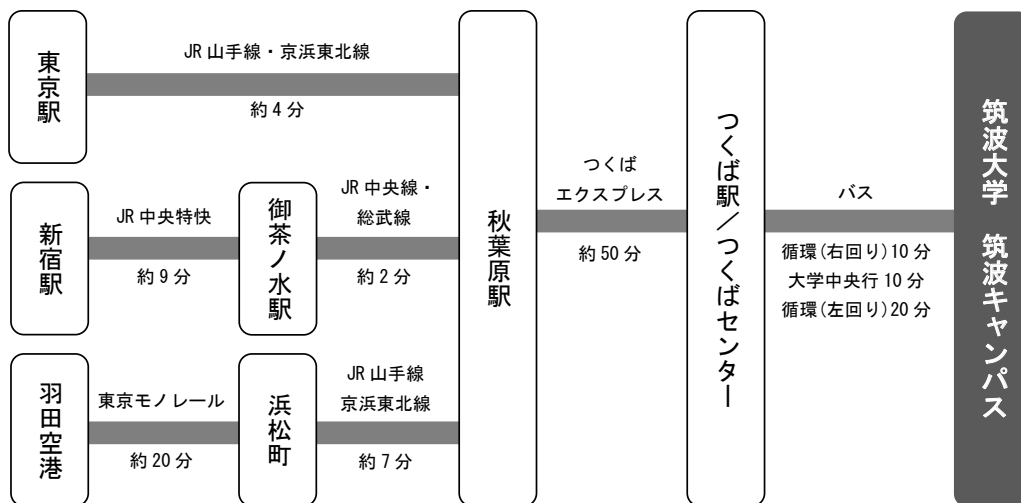
[会場（筑波大学）までの交通]

- ・つくばエクスプレス「つくば駅」下車、つくばセンターから「筑波大学中央」行きバスあるいは「筑波大学循環バス（右回り）」で約 10 分、「第三エリア前」下車。
- ・タクシー会社：大曾根タクシー 0120-000-302、松見タクシー 029-851-1432/ 約 7 分 1,500 円位

■今後の FIT・大会情報

- ・FIT2015 第 14 回情報科学技術フォーラム
会期：2015 年 9 月 15 日（火）～ 17 日（木） 会場：愛媛大学 城北キャンパス
- ・電子情報通信学会 2015 年総合大会
会期：2015 年 3 月 10 日（火）～ 13 日（金） 会場：立命館大学
- ・情報処理学会 第 77 回全国大会
会期：2015 年 3 月 17 日（火）～ 19 日（木） 会場：京都大学 吉田キャンパス

交通案内図



バス案内

つくばセンター〈つくば駅〉 → 第三エリア前〈FIT会場〉

〈バス時刻表〉

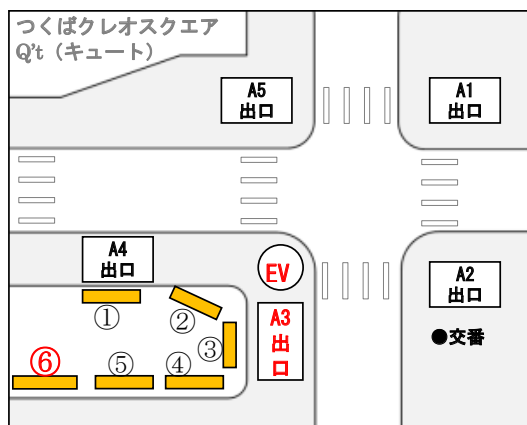
所要時間 約 10 分 270 円

※PASMO、SUICA などの IC カード利用不可

行先	筑波大学中央	筑波大学循環 (右回り)
8	0 4 12 20 20 27 28 35 40 45 45 55	
9	0 8 12 14 20 23 38 40 45 53 56	
10	0 8 20 23 40 43	
11	0 3 20 23 40 43	
12	0 3 20 23 40 43	
13	0 3 20 23 40 43	
14	0 3 20 23 40 43	
15	0 3 20 23 33 40 53	
16	0 8 20 23 38 40 53	

〈バス停〉

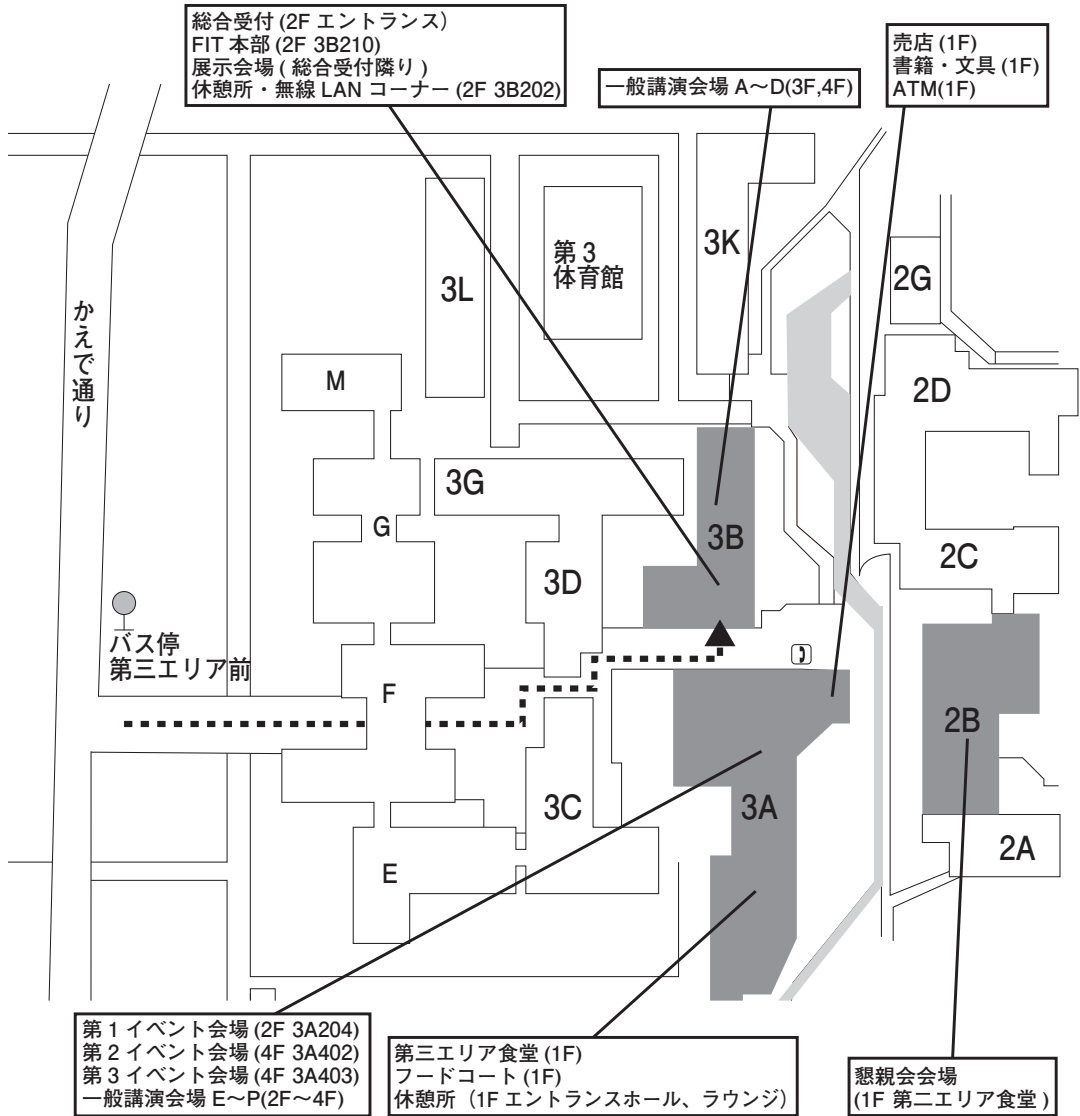
つくば駅 A3 出口を出て⑥番のりば



※タクシーご利用の場合：約 7 分、1,500 円位

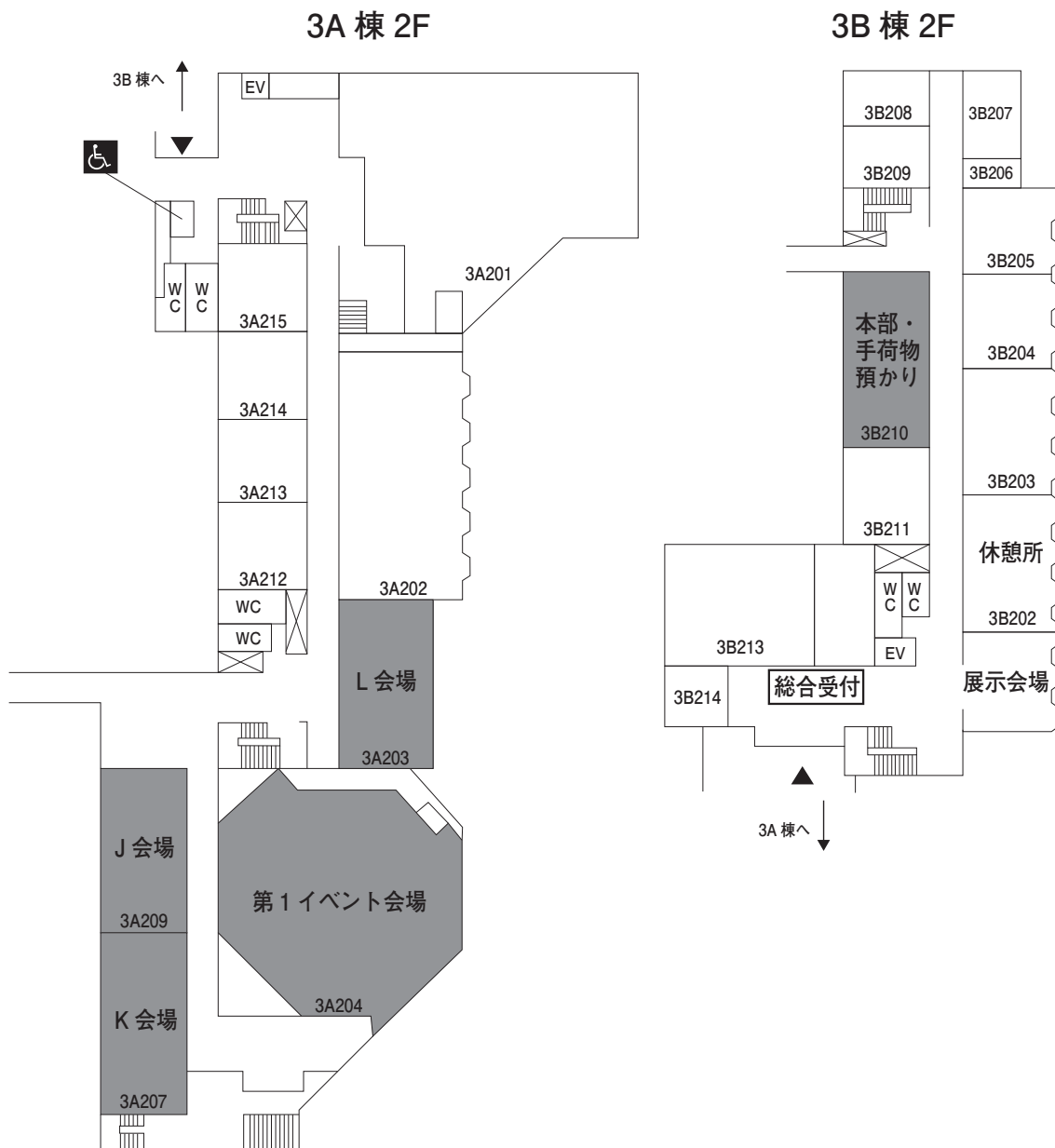
大曾根タクシー 0120-000-302、松見タクシー 029-851-1432

筑波大学キャンパス図



※ 車いすの方も点線の経路で3B棟1Fからエレベータで総合受付・各会場へご来場いただけます。
障害者トイレは3B棟1F（上の図の矢印入ってすぐ）と3A棟2Fの3B棟寄りにございます。

2F フロアー図

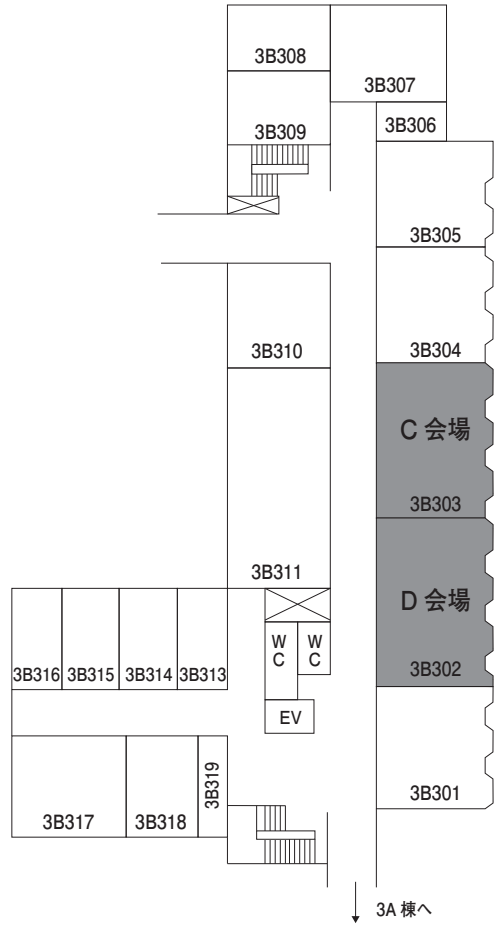


3F フローアー図

3A 棟 3F

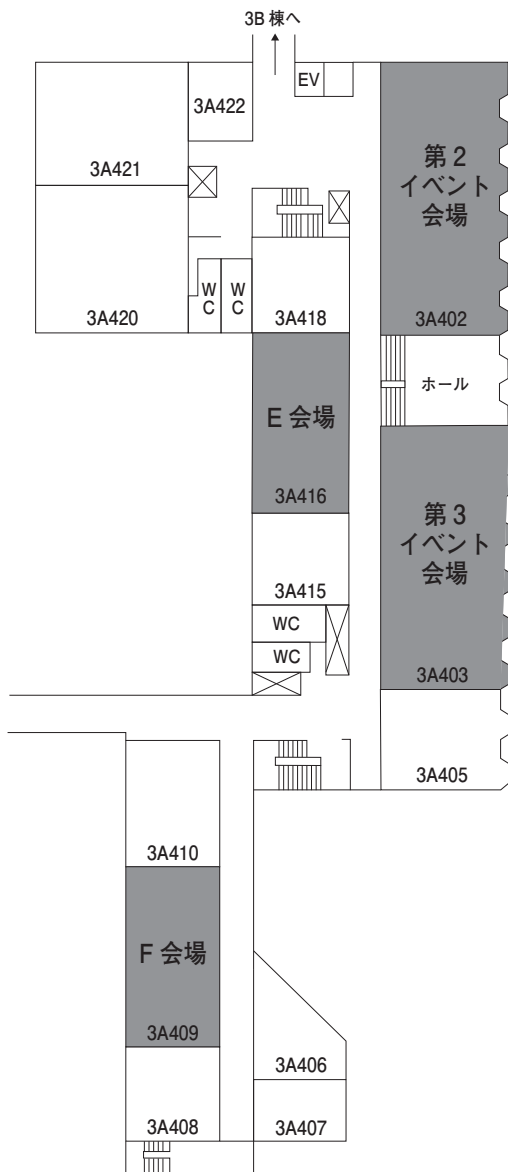


3B 棟 3F

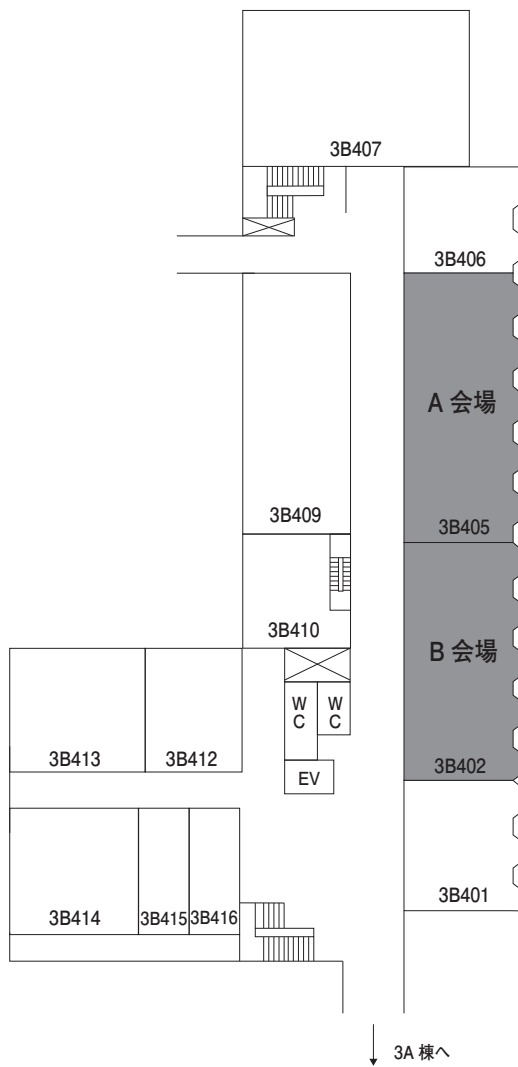


4F フロアー図

3A 棟 4F



3B 棟 4F



大規模地震発生時における避難場所

筑波大学

1 注意事項

- (1) 地震発生時（第1次）：大きな地震の揺れが収まった後に速やかに屋外へ避難する。
- (2) 屋外避難（第2次）：揺れが収まったが避難前の建物に戻ることが危険と思われる場合は、屋外の指定場所に避難する。
- (3) 屋内避難（第3次）：屋外避難が長期にわたると思われる場合、雨天等や夜間になるなど屋内避難が適切であると思われる場合は、指定する避難場所へ避難する。（入る前に該当建物の安全を確認すること）

2 エリアごとの避難場所（原則） ※避難経路は各自安全な経路を選択すること

(1) 第二エリア

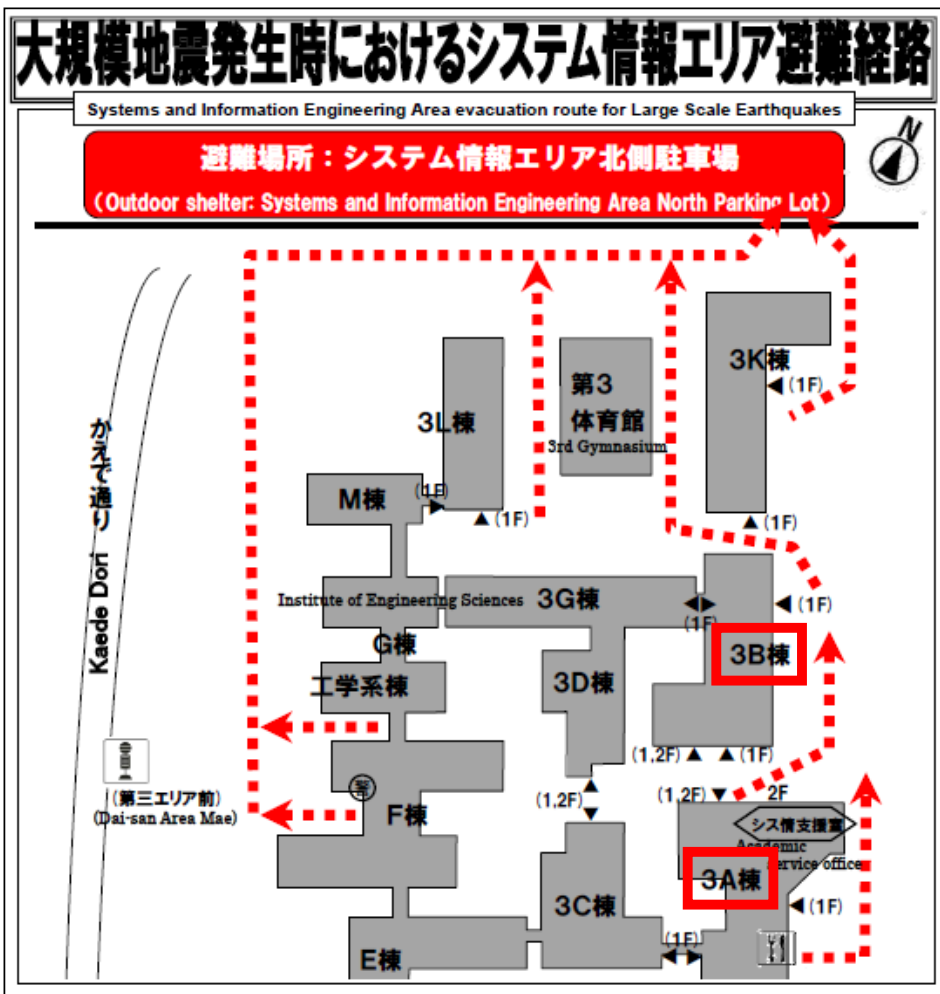
屋外：第三エリア北側駐車場、本部棟北側駐車場（避難後に虹の広場へ移動）

屋内：第1体育館

(2) 第三エリア

屋外：第三エリア北側駐車場（ここが利用できない場合は虹の広場）

屋内：第3体育館



各種イベントのご案内

■船井業績賞受賞記念講演 4日(木) 14:00-15:15

【無料公開】

第1 イベント会場 (3A 棟 2F 3A204)

「日本を離れて研究をするために」

辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア 首席研究員)

■FIT 学術賞表彰式 4日(木) 13:00-13:50

第1 イベント会場 (3A 棟 2F 3A204)

FIT2014 船井業績賞・船井ベストペーパー賞・論文賞 / FIT2013 ヤングリサーチャー賞

■イベント企画

第1 イベント会場 (3A 棟 2F 3A204)

- ・3日 13:00-15:00 大学発ベンチャーの現在：東大・情報理工学系研究科を起点として
- ・3日 15:30-17:30 エクサスケールコンピューティング時代の大学スパコンセンターの役割
- ・4日 15:30-17:30 新しい時代の情報保護と情報利活用 ―セキュリティ技術、法律、マネジメント―
- ・5日 9:30-12:00 情報の流れに着目した実時間分散処理基盤
―IoT とクラウドソーシングの観点から―
- ・5日 13:00-16:00 2020年のサイバーセキュリティ戦略
～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～

第2 イベント会場 (3A 棟 4F 3A402)

- ・3日 10:00-12:00 会誌「情報処理」編集委員会女子部 ～番外編！～
- ・3日 13:00-15:00 映像符号化・配信技術の最新標準化動向
- ・3日 15:30-17:30 DTN 最前線 ～時空間を超えてデバイスを紡ぐ新しい情報基盤へ～
- ・4日 9:30-12:00 自然計算研究の最前線とその将来
- ・4日 15:30-17:30 電子ポイント (仮想通貨や企業ポイント) について語る
- ・5日 13:00-16:00 CPS (サイバーフィジカルシステム) 最前線
―実世界のビッグデータはどのように活用されているか―

第3 イベント会場 (3A 棟 4F 3A403)

- ・3日 13:00-15:00 移行工学改め引退工学
- ・3日 15:30-17:30 新しい個人情報保護の枠組みとパーソナルデータの匿名化措置はどうか？
- ・4日 9:30-12:00 時空間を制限したプライバシー情報保護活用のための社会基盤の構築に向けて
- ・4日 15:30-17:30 イノベーションを生み出すビジネスモデルに直結した情報システムを構築するには
- ・5日 10:00-12:00 コミュニティによるものづくりとサイバーワールド
- ・5日 13:00-16:00 The 2nd ARC/CPSY/RECONF High-Performance Computer System Design Contest (第2回 高性能コンピュータシステム設計コンテスト)

■展示会

展示会場：3B 棟 2F ラウンジ (総合受付隣り)

展示期間：3日(水) 9:30～17:00 4日(木) 9:30～17:00 5日(金) 9:30～15:00

出展企業・団体 (五十音順)

- ・岩淵技術商事株式会社 東京デバイス事業部
- ・株式会社インフォテック・サーブ
- ・株式会社エスペラントシステム
- ・独立行政法人 科学技術振興機構
- ・KEEPAD JAPAN 株式会社
- ・Springer
- ・ソニービジネスソリューション株式会社
- ・ファイア・アイ株式会社
- ・ローグウェア ソフトウェア ジャパン株式会社

■懇親会 4日(木) 18:00-20:00

会場：筑波大学 筑波キャンパス 2B 棟 1F 第二エリア食堂

会場 日時	第1イベント会場 3A 棟 2F 3A204	第2イベント会場 3A 棟 4F 3A402	第3イベント会場 3A 棟 4F 3A403	展示会場 3B 棟 2F ラウンジ (総合受付隣り)	
9 月 3 日 (水)	9:30	/	10:00 ~ 12:00 会誌「情報処理」編集委員 会女子部 ~番外編!~	展示会 9:30 ~ 17:00	
	12:00		P. 26		
	13:00	大学発ベンチャーの現在： 東大・情報理工学系研究科 を起点として	映像符号化・配信技術の 最新標準化動向		移行工学改め引退工学
	15:00	P. 17	P. 27		P. 36
9 月 4 日 (木)	15:30	/	DTN 最前線 ~時空間を超えてデバイス を紡ぐ新しい情報基盤へ~	展示会 9:30 ~ 17:00	
	17:30		P. 19		P. 29
	9:30	/	自然計算研究の最前線と その将来		時空間を制限したプライバ シー情報保護活用のための 社会基盤の構築に向けて
	12:00		P. 30		P. 38
13:00 13:50	FIT 学術賞 表彰式	/	/	展示会 9:30 ~ 17:00	
14:00	【無料公開】 FIT2014 船井業績賞 受賞記念講演 「日本を離れて 研究をするために」 辻井 潤一 (マイクロソフ トリサーチアジア)				第1 イベント会場を 中継予定
15:15	P. 17				
15:30	新しい時代の情報保護と 情報利活用 -セキュリティ技術、法律、 マネジメント-	電子ポイント (仮想通貨や 企業ポイント) について 語る	イノベーションを生み出す ビジネスモデルに 直結した情報システムを 構築するには		
17:30	P. 20	P. 33	P. 41	P. 46	
18:00 - 20:00 懇 親 会 (筑波大学 2B 棟 1F 第二エリア食堂)					
9 月 5 日 (金)	9:30	/	10:00 ~ 12:00 コミュニティによる ものづくりと サイバーワールド	展示会 9:30 ~ 15:00	
	12:00		P. 22		P. 42
	13:00	2020 年の サイバーセキュリティ戦略 ~東京オリンピック・ パラリンピックに向けて~	CPS (サイバーフィジカル システム) 最前線 -実世界のビッグデータは どのように活用されているか-		The 2nd ARC/CPSY/ RECONF High-Performance Computer System Design Contest (第2回 高性能 コンピュータシステム 設計コンテスト)
16:00	P. 24	P. 34	P. 43	P. 46	

※ 右下の数字は当プログラム冊子の掲載ページ番号です。

A 3B棟 4F 3B405	B 3B棟 4F 3B402	C 3B棟 3F 3B303	D 3B棟 3F 3B302	E 3A棟 4F 3A416
/		データベースと検索 陳 漢雄 (筑波大) D分野 P. 52	データベース応用 (1) 古瀬 一隆 (筑波大) D分野 P. 52	/
/		LSI 設計技術 瀬戸 謙修 (東京都市大) C分野 P. 50	情報アクセスと基礎 (1) 森 辰則 (横浜国大) D分野 P. 52	バイオ サイバネティクス 高山 祐三 (産総研) G分野 P. 55
/		システム応用設計・ 評価技術 勝 康夫 (日立) C分野 P. 50	情報アクセスと基礎 (2) 横野 光 (NII) D分野 P. 52	神経イメージングと 医用画像 滝沢 穂高 (筑波大) G分野 P. 55
数理モデル化と問題解決 庄野 逸 (電通大) A分野 P. 49	ソフトウェア開発支援 柿元 健 (香川高専) B分野 P. 49	分散システムおよび 仮想化 中島 康彦 (奈良先端大) C分野 P. 50	ストリーム処理 山口 実靖 (工学院大) D分野 P. 52	自然言語処理・基礎 乾 孝司 (筑波大) E分野 P. 53
第1イベント会場で 「FIT 学術賞表彰式」及び「FIT2014 船井業績賞受賞記念講演」を開催				
アルゴリズム基礎 (1) 亀井 清華 (広島大) A分野 P. 49	ソフトウェア工学一般 菊地 奈穂美 (OKI) B分野 P. 50	組み込みアプリケーション 佐藤 健哉 (同志社大) C分野 P. 51	データベースシステム 渡辺 知恵美 (筑波大) D分野 P. 52	自然言語処理と Web 酒井 哲也 (早大) E分野 P. 53
18:00 - 20:00 懇 親 会 (筑波大学 2B棟 1F 第二エリア食堂)				
アルゴリズム基礎 (2) 白井 康之 (北大/JST) A分野 P. 49	高性能計算 建部 修見 (筑波大) B分野 P. 50	コンピュータシステムと 専用回路 東條 信明 (東芝) C分野 P. 51	データベース応用 (2) 新谷 隆彦 (電通大) D分野 P. 53	自然言語処理・応用 津川 翔 (筑波大) E分野 P. 53
アルゴリズム応用 南出 靖彦 (筑波大) A分野 P. 49	モデル・形式手法 小林 隆志 (東工大) B分野 P. 50	組み込み OS 早川 栄一 (拓大) C分野 P. 51	情報アクセスと基礎 (3) 荒牧 英治 (京大) D分野 P. 53	音楽・音声情報処理 松原 正樹 (筑波大) E分野 P. 54

会場		F	G	H	J	
日時		3A棟4F 3A409	3A棟3F 3A312	3A棟3F 3A308	3A棟2F 3A209	
9月3日 (水)	9:30	1	シーン認識 黄瀬 浩一 (大阪府大) H分野	イラスト・CG 三谷 純 (筑波大) I分野	ユーザの状態推定 加藤 昇平 (名工大) J分野	
	12:00		P. 56	P. 57	P. 58	
	13:00	2	シミュレーション 服部 宏充 (立命館大) F分野	モデリング、VR/AR/MR 大石 岳史 (東大) H分野	三次元映像 高橋 光輝 (デジタルハリウッド大) I分野	スマートデバイス 中野 有紀子 (成蹊大) J分野
	15:00	P. 54	P. 56	P. 57	P. 58	
9月4日 (木)	15:30	3	データマイニング 八槿 博史 (電機大) F分野	実シーン応用 岡部 孝弘 (九工大) H分野	画像特徴・検出(1) 内藤 整 (KDDI 研) I分野	対話・視線・ジェスチャ 安藤 ハル (日立) J分野
	17:30	P. 54	P. 56	P. 57	P. 58	
	9:30	4	ネットワーク情報処理 松原 繁夫 (京大) F分野	映像解析・行動認識(1) 今岡 仁 (NEC) H分野	画像特徴・検出(2) 原 健二 (九大) I分野	行動分析・モデル化(1) 田中 貴紘 (名大) J分野
	12:00	P. 54	P. 56	P. 57	P. 59	
9月4日 (木)	13:00	第1イベント会場で 「FIT 学術賞表彰式」及び「FIT2014 船井業績賞受賞記念講演」を開催				
	14:00					
	15:15	5	エージェント 菅原 俊治 (早大) F分野	追跡 岩元 浩太 (NEC) H分野	映像符号化・画像復元 関口 俊一 (三菱) I分野	行動分析・モデル化(2) 寺田 和憲 (岐阜大) J分野
	17:30	P. 54	P. 56	P. 57	P. 59	
9月5日 (金)	9:30	6	知的システム 櫻井 祐子 (九大) F分野	映像解析・行動認識(2) 梅澤 猛 (千葉大) H分野	HEVC 石川 孝明 (早大) I分野	人の状態把握とその応用 伊藤 昌毅 (東大) J分野
	12:00	P. 54	P. 56	P. 58	P. 59	
	13:00	7	最適化 山下 晃弘 (東京工業高専) F分野	検査・識別 阿部 亨 (東北大) H分野	AVM・画像表現 加藤 晴久 (KDDI 研) I分野	支援システム 板井 志郎 (早大) J分野
	16:00	P. 55	P. 57	P. 58	P. 59	

K 3A棟 2F 3A207	L 3A棟 2F 3A203	M 3A棟 3F 3A306	N 3A棟 3F 3A304	P 3A棟 3F 3A301
教育学 (1) 小尻 智子 (関西大) K 分野 P. 60	/	/	/	安全・安心 井ノ口 宗成 (新潟大) O 分野 P. 64
教育学 (2) 小西 達裕 (静岡大) K 分野 P. 60	ITSと スマートコミュニティ 屋代 智之 (千葉工大) M 分野 P. 63	運用システム 今泉 貴史 (千葉大) L 分野 P. 62	SNSおよび ビッグデータ 鳥羽 美奈子 (日立) O 分野 P. 64	情報システムと社会 富澤 眞樹 (前橋工大) O 分野 P. 65
教育学 (3) 岡崎 泰久 (佐賀大) K 分野 P. 60	/	プロトコル 下川 俊彦 (九産大) L 分野 P. 62	センシングと セキュリティ 西 宏之 (崇城大) O 分野 P. 64	情報システムの運用管理 荻野 紫穂 (武蔵大) O 分野 P. 65
福祉情報工学 (視覚障害) 関 喜一 (産総研) K 分野 P. 60	人の状態観察・推定 新井田 統 (KDDI 研) J 分野 P. 59	セキュリティ基盤 岡本 健 (筑波技術大) L 分野 P. 62	ユビキタス コンピューティング 大内 一成 (東芝) M 分野 P. 63	ビジネスモデルと 情報システム 丸山 文宏 (富士通研) O 分野 P. 65
第1イベント会場で 「FIT 学術賞表彰式」及び「FIT2014 船井業績賞受賞記念講演」を開催				
福祉情報工学 (センシング) 梶谷 勇 (産総研) K 分野 P. 60	高性能マルチメディア 栗林 稔 (神戸大) K 分野 P. 61	認証 山口 利恵 (東大) L 分野 P. 62	ネットワーク・ アプリケーション 藤井 章博 (法大) M 分野 P. 63	スマートホーム関連技術 茂木 学 (NTT) O 分野 P. 65
18:00 - 20:00 懇 親 会 (筑波大学 2B 棟 1F 第二エリア食堂)				
福祉情報工学 (介護・ケア) 布川 清彦 (東京国際大) K 分野 P. 61	教育システムの設計・ 開発・実証 中平 勝子 (長岡技術大) N 分野 P. 63	運用管理とセキュリティ 加藤 雅彦 (インターネット イニシアティブ) L 分野 P. 62	/	推薦・情報サービス 石川 冬樹 (NII) O 分野 P. 65
MVE/CW 蔵田 武志 (産総研) K 分野 P. 61	情報技術の社会・ 教育への応用 長 慎也 (明星大) N 分野 P. 64	サイバー攻撃対策 白石 善明 (神戸大) L 分野 P. 62	センサ・ネットワークと 省電力 稲村 浩 (NTT ドコモ) M 分野 P. 63	センシングと 情報システム 児玉 公信 (情報システム総研) O 分野 P. 65

会場別スケジュール

第1 イベント会場 (3A 棟 2F 3A204)		
日	時間	内容
9月3日(水)	大学発ベンチャーの現在：東大・情報理工学系研究科を起点として	
	13:00-13:05	「東京大学大学院情報理工学系研究科の紹介」 浅見徹 (東大)
	13:05-13:20	講演1「銀ナノインクによる電子回路のラビッドプロトタイピングとそのマーケット」 川原圭博 (東大/AgIC Inc.)
	13:20-13:35	講演2「ビッグデータ処理技術の進化とエッジヘビーコンピューティング」 西川徹 (Preferred Infrastructure)
	13:35-13:50	講演3「モルフォが取り組む画像処理技術とその応用(仮)」 平賀督基 (モルフォ)
	13:50-14:05	講演4「日本を変えるオンライン英会話サービス」 中村岳 (レアジョブ)
	14:05-15:00	パネル討論「大学発ベンチャー：選択肢としての起業へ」 パネリスト：浅見徹 (東大), 川原圭博 (東大/AgIC Inc.), 西川徹 (Preferred Infrastructure), 平賀督基 (モルフォ), 中村岳 (レアジョブ)
	エクサスケールコンピューティング時代の大学スパコンセンターの役割	
	15:30-16:30	講演1「大学スパコンセンターにおけるシステム導入とその役割」 朴泰祐 (筑波大)
	16:30-17:30	講演2「次世代計算科学の新展開」 梅村雅之 (筑波大)
9月4日(木)	FIT 学術賞 表彰式	
	13:00-13:50	FIT 運営委員長 挨拶
		FIT2013 ヤングリサーチャー賞 表彰式
		FIT2014 論文賞 表彰式
		公益財団法人 船井情報科学振興財団 挨拶
		FIT2014 船井ベストペーパー賞 表彰式
		FIT2014 船井業績賞 表彰式
	FIT2014 船井業績賞 受賞挨拶	
	FIT2014 船井業績賞 受賞記念講演 [無料公開]	
	14:00-15:15	「日本を離れて研究をするために」 辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア首席研究員)
新しい時代の情報保護と情報利活用 -セキュリティ技術、法律、マネジメント-		
15:30-15:50	講演1「個人情報保護法改正の動向」 鈴木正朝 (新潟大)	
15:50-16:10	講演2「安全・安心社会を実現するセキュリティ基盤」 宮地充子 (北陸先端大)	
16:10-16:30	講演3「マイナンバー制度に向けた動向とマネジメント」 須藤修 (東大)	
16:30-17:30	パネル討論 司 会：柴山悦哉 (東大) パネリスト：鈴木正朝 (新潟大), 須藤修 (東大), 岩野和生 (三菱商事)	
9月5日(金)	情報の流れに着目した実時間分散処理基盤 -IoTとクラウドソーシングの観点から-	
	9:30-9:45	講演1「情報流とは/本イベントの趣旨説明」 安本慶一 (奈良先端大)
	9:45-10:30	講演2「IoTとクラウドの融合 ~スマートシティの構築に向けて~」 徳田英幸 (慶大)
	10:30-12:00	パネル討論「情報流 × IoT」
		司 会：重野寛 (慶大) パネリスト：岡部寿男 (京大), 河口信夫 (名大), 塚本昌彦 (神戸大), 徳田英幸 (慶大)
	2020年のサイバーセキュリティ戦略 ~東京オリンピック・パラリンピックに向けて~	
	13:10-13:50	講演1「強靱なセキュリティの構築：2012年のロンドン大会から得た教訓」 Phillip Morris (プリティッシュテレコムジャパン)
	13:50-14:30	講演2「日本の企業文化とサイバーセキュリティ」 齋藤ウィリアム浩幸 (インテカー)
	14:30-16:00	パネル討論
		司 会：徳田英幸 (慶大) パネリスト：Phillip Morris (プリティッシュテレコムジャパン), 齋藤ウィリアム浩幸 (インテカー), 宮川 晋 (NTT), 井上友二 (トヨタ), 村瀬一郎 (三菱総研), 武田圭史 (慶大), 後藤厚宏 (情報セキュリティ大学院大)
第2 イベント会場 (3A 棟 4F 3A402)		
9月3日(水)	会誌「情報処理」編集委員会女子部 ~番外編!~ [パネルセッション]	
	10:00-12:00	司 会：加藤由花 (東京女子大)
		パネリスト：五十嵐悠紀 (筑波大), 高岡詠子 (上智大), 辻田眸 (シンクフェーズ), 土井千章 (NTTドコモ), 坊農 真弓 (NII)
	映像符号化・配信技術の最新標準化動向	
	13:00-13:25	講演1「HEVC RExtの最新標準化動向」 河村圭 (KDDI研)
	13:25-13:50	講演2「SHVC: HEVC 階層符号化拡張」 山本智幸 (シャープ)
	13:50-14:15	講演3「デブスマップベース三次元映像符号化方式の国際標準化動向」 志水信哉 (NTT)
	14:15-14:35	講演4「MPEG-H MMTとスーパーハイビジョン放送システム」 青木秀一 (NHK放送技研)
	14:35-14:55	講演5「次世代メディア伝送規格MMTのAL-FEC技術」 仲地孝之 (NTT)

第2 イベント会場 (3A 棟 4F 3A402)		
日	時間	内容
9月3日 (水)	DTN 最前線	～時空間を超えてデバイスを紡ぐ新しい情報基盤へ～ [パネルセッション]
	15:30-17:30	司 会：安本慶一 (奈良先端大) パネリスト：鶴正人 (九工大), 井上真杉 (NICT), 榎原茂 (奈良先端大), 西山大樹 (東北大), 山口弘純 (阪大), 高井峰生 (Space-Time Engineering)
9月4日 (木)	自然計算研究の最前線とその将来	
	9:30-9:55	講演 1「自然計算とは」 横森貴 (早大) 萩谷昌己 (東大)
	9:55-10:20	講演 2「合成生物学」 山村雅幸 (東工大) 木賀大介 (東工大)
	10:20-10:45	講演 3「セル計算とナノ計算」 磯川梯次郎 (兵庫県大) Ferdinand Peper (NICT)
	10:45-11:10	講演 4「細胞膜計算」 西田泰伸 (富山県大)
	11:10-11:35	講演 5「量子力学から量子計算へ」 角谷良彦 (東大) 本多健太郎 (東大)
	11:35-12:00	講演 6「自然計算の将来」 小林聡 (電通大) 横森貴 (早大) 萩谷昌己 (東大)
9月5日 (金)	電子ポイント (仮想通貨や企業ポイント) について語る [パネルセッション]	
	15:30-17:30	司 会：須川賢洋 (新潟大) パネリスト：山崎重一郎 (近畿大), 岡田仁志 (NII), 小川央 (フェリカネットワークス), 秋山謙二 (トーマツ)
9月5日 (金)	CPS(サイバーフィジカルシステム)最前線 -実世界のビッグデータはどのように活用されているか-	
	13:00-13:40	講演 1「ICT とビッグデータを活用した、安全で快適なモビリティ社会を目指して」 今井武 (本田技研)
	13:40-14:20	講演 2「社会・産業の発展に寄与する「モバイル空間統計」」 岡島一郎 (NTT ドコモ)
	14:20-15:00	講演 3「人流・交通流ビッグデータを活用した次世代都市経営について」 森岡道雄 (日立)
9月5日 (金)	15:00-16:00	パネル討論「実世界のビッグデータの活用である CPS に求められる技術と今後の課題」 司 会：木俣豊 (NICT) パネリスト：今井武 (本田技研), 岡島一郎 (NTT ドコモ), 森岡道雄 (日立), 是津耕司 (NICT)
	第3 イベント会場 (3A 棟 4F 3A403)	
9月3日 (水)	移行工学改め引退工学 [パネルセッション]	
	13:00-15:00	司 会：島岡政基 (セコム) パネリスト：新誠一 (電通大), 小川隆一 (NEC), 高橋正和 (日本マイクロソフト), 神武直彦 (慶大)
9月3日 (水)	新しい個人情報保護の枠組みとパーソナルデータの匿名化措置はどうなるか? [パネルセッション]	
	15:30-17:30	司 会：菊池浩明 (明大) パネリスト：森亮二 (英知法律事務所), 高木浩光 (産総研), 石井夏生利 (筑波大), 矢野敏樹 (アジアインターネット日本連盟)
9月4日 (木)	時空間を制限したプライバシー情報保護活用のための社会基盤の構築に向けて	
	9:30-9:40	オープニング
	9:40-9:50	講演 1「話題提供と ID データcommonsの可能性」 曾根原登 (NII)
	9:50-10:00	講演 2「公的統計データとオープンデータの活用」 椿広計 (統計数理研)
	10:00-10:10	講演 3「政府・自治体における個人データの「時効」とアーカイブ」 古賀崇 (天理大)
	10:10-10:20	講演 4「救急医療における個人情報管理」 倉本秋 (高知医療再生機構)
	10:20-10:30	講演 5「空間軸を限定したプライバシー情報保護活用基盤」 馬場口登 (阪大)
	10:30-10:40	講演 6「プライバシー情報の保護と活用を両立させる技術基盤」 高橋克己 (NTT)
	10:40-10:50	休憩
	10:50-11:50	パネル討論 パネリスト：曾根原登 (NII), 椿広計 (統計数理研), 古賀崇 (天理大), 倉本秋 (高知医療再生機構), 馬場口登 (阪大), 高橋克己 (NTT)
9月4日 (木)	11:50-12:00	クロージング
	イノベーションを生み出すビジネスモデルに直結した情報システムを構築するには	
	15:30-16:00	講演「ビジネスモデルの最新動向とプラットフォームビジネス」 浜屋敏 (富士通総研)
9月4日 (木)	16:00-17:30	パネル討論 パネリスト：浜屋敏 (富士通総研), 片岡信弘 (元東海大), 児玉公信 (情報システム総研)
	コミュニティによるものづくりとサイバーワールド	
9月5日 (金)	10:00-11:00	講演 1「ニコニコ学会 β にみる共創プラットフォームの形成」 江渡浩一郎 (産総研)
	11:00-12:00	講演 2「ウェブを、確かなものに。」～セキュリティとオープンコラボレーション」 岡田良太郎 (アスタリスク・リサーチ)
9月5日 (金)	The 2nd ARC/CPSY/RECONF High-Performance Computer System Design Contest (第2回 高性能コンピュータシステム設計コンテスト)	
	13:00-13:20	趣旨説明・予選結果報告 大川猛 (宇都宮大)
	13:20-14:30	ポスターセッション 座長：佐藤幸紀 (北陸先端大)
	14:30-15:10	プロセッサ部門決勝戦 司会：塩谷亮太 (名大)
	15:10-15:50	コンピュータシステム部門決勝戦 司会：谷川一哉 (広島市大)
9月5日 (金)	15:50-16:00	表彰式・クロージング 司会：大川猛 (宇都宮大)

一般講演会場 A～P会場 (3A棟2, 3, 4F 3B棟3, 4F)
3日(水) 9:30～12:00, 13:00～17:30 4日(木) 9:30～12:00, 15:30～17:30
5日(金) 9:30～12:00, 13:00～16:00

展示会会場 (3B棟2Fラウンジ)
3日(水) 9:30～17:00 4日(木) 9:30～17:00 5日(金) 9:30～15:00

懇親会会場 (筑波大学 2B棟 1F 第二エリア食堂)
4日(木) 18:00～20:00

イベント企画概要

FIT2014 船井業績賞受賞記念講演 日本を離れて研究をするために 9月4日(木) 14:00-15:15 [第1 イベント会場 (3A棟 2F 3A204)]

[講演概要]

フランスで1年、英国で7年、中国で3年と日本以外で研究を進める経験をしてきました。また、英国から帰国後も、マンチェスター大学の国立テキストマイニングセンターの設立にかかわり、2005年からは7年間、東大との併任でそのセンター長も務めました。研究分野も自然言語処理という、地域性の強い研究分野でしたから、日本と海外で研究を行うことの差を切実に感じてきました。現在の所属は、マイクロソフト研究所で、大学と企業の研究のあり方の差も感じています。立場、年齢、地域、大学と企業、個々の研究グループの特殊性など、さまざまな要因があり、「日本」との対比で「海外」と一般化することは出来なと思っていますが、この講演では、個人的な経験の集積で感じていることを話せたら、と思います。



辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア 首席研究員)

1949年生まれ、京都大学大学院修士課程修了後、同大学助手、助教授を経て、1988年英国マンチェスター大学(UMIST)教授、1995年東京大学教授。2011年東京大学退職、マイクロソフト研究所首席研究員で現在に至る。この間、フランス CNRS 招聘上級研究員 (1981年)、マンチェスター大学教授を併任 (2005年-2011年)。

大学発ベンチャーの現在：東大・情報理工学系研究科を起点として 9月3日(水) 13:00-15:00 [第1 イベント会場 (3A棟 2F 3A204)]

[セッション概要]

国家としての持続的な発展には、イノベーションによる新たな事業の創出が不可欠である。特に先端技術を核とする大学発ベンチャーへの期待は大きい。本パネルセッションでは、東京大学情報理工学系研究科に縁のある企業関係者を招き、情報通信産業を取り巻く新技術、そして新たなビジネス創出に向けた現状と課題をご講演いただき、産と学、そして学会のあり方についてパネル討論を行う。



司会：浅見 徹 (東大)

1974年京大・工・電子卒業、1976年同大学院修士課程修了。同年国際電信電話株式会社(KDDI)に入社。UNIX通信、ネットワーク障害診断、xDSLの実証実験等に従事。博士(情報理工学)。2001年(株)KDDI研究所代表取締役所長。2006年4月東大・大学院情報理工学系研究科教授。現在に至る。1997年度前島賞。IEEE、電子情報通信学会各会員。電子情報通信学会フェロー。

● [13:00-13:05] 「東京大学大学院情報理工学系研究科の紹介」

[講演概要]

2001年4月に設立された東京大学大学院情報理工学系研究科は、基礎領域の深化と基盤の広範な充実を図り、旧来の学問領域の枠を越えて新しい考え方や科学技術を産み出して産業を先導することを目指している。このため、産業界と連携して教育を行う連携講座等により、教育・研究の成果を社会へ還元することのできる開かれた研究科をめざしている。ここでは、簡単な研究紹介を含め、研究科の概要を紹介する。

浅見 徹 (東大)

写真および略歴は「大学発ベンチャーの現在：東大・情報理工学系研究科を起点として」司会紹介を参照。

● [13:05-13:20] 講演 (1) 「銀ナノインクによる電子回路のラピッドプロトタイピングとそのマーケット」

【講演概要】

熱焼成が不要な銀ナノインクを用いて電子回路を紙の上に即座に作るすることができます。ナノサイズの粒子を含むインクはインクジェットプリンタとの相性も良く、3Dプリンタやレーザ加工機に次ぐ第三のラピッドプロトタイピングツールとして期待できます。



川原 圭博 (東大 / AgIC Inc.)

2005年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。博士(情報理工学)。2005年同助手。2013年より同准教授。ジョージア工科大学客員研究員およびMIT Media Lab客員教員。

● [13:20-13:35] 講演 (2) 「ビッグデータ処理技術の進化とエッジヘビーコンピューティング」

【講演概要】

機械学習・情報検索技術は、多様かつ大規模なデータを処理するために重要な技術である。そして、データの価値が商業的にも広く見いだされていくにつれ、データの取得から活用までの時間をいかに短くするかということが技術的に大きなチャレンジとなっている。本講演では、機械学習・情報検索の2つの技術を融合・リアルタイム化することによって実現されるビッグデータ活用の世界を提示する。

また、データの価値を最大限に高め活用するため、クラウドにすべてのデータを集め分析するという現在のアプローチでは限界がある。我々は「エッジヘビーコンピューティング」という、自律分散的に高度な分析処理を行うコンピューティングを提唱している。エッジヘビーコンピューティングのコンセプトと、我々がどのようにエッジヘビーコンピューティングの実現を目指すか展望を紹介する。



西川 徹 (Preferred Infrastructure)

2006年大学院に在学中に、ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM/ICPC)の世界大会に出場したメンバーとPFIを設立。情報検索、自然言語処理、機械学習、分散システムなどの技術を用いた製品・研究開発を行ってきた。ビジョンとして「最先端の技術を最短路で実用化する」ことを掲げ、大規模データをより深く、より速く分析する技術の実現を目指している。2007年東京大学大学院修了。IPA未踏ソフトウェア創造事業、1テーマ採択。第30回ACM/ICPC世界大会19位。2013年情報処理学会ソフトウェアジャパンアワード受賞。

● [13:35-13:50] 講演 (3) 「モルフォが取り組む画像処理技術とその応用」

【講演概要】

1990年代からはじまったモバイルカメラ向けのデジタル画像処理は2000年以降急激に進歩し、今ではスマートフォンの普及に伴い欠かせない技術の一つとなっている。特に画像補正技術の進歩は著しく、スマートフォンのカメラはコンパクトデジタルカメラの画質に匹敵するまでになっている。2004年に創業したモルフォは、そうしたモバイルイメージングの技術開発で常に先端を走り、世界的に認められつつあるベンチャー企業である。近年はイメージセンサーの高画素化やCPU・GPUのハードウェアの進化もあり、画像補正技術のみならず、コンピューショナルフォトグラフィや画像認識技術にも取り組んでおり、それら技術の紹介を通してモバイルイメージングの最新の動向を述べる。



平賀 督基 (モルフォ)

株式会社モルフォ代表取締役社長。1974年東京都生まれ。1997年に東京大学理学部情報科学科を卒業。2002年、東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻(博士課程)修了。博士(理学)。2004年5月、画像処理技術の研究開発や製品開発を行う株式会社モルフォを設立。モルフォの画像処理ソフトウェアは2006年6月にNEC製携帯電話端末に搭載されたのを皮切りに、国内外の携帯電話端末メーカーに幅広く採用されている。2011年7月、モルフォは東京証券取引所マザーズ市場に上場。

● [13:50-14:05] 講演 (4) 「日本を変えるオンライン英会話サービス」

【講演概要】

日本人は英語を話せる人が少ない。それは英語を話す機会が圧倒的に少ないからではないだろうか。それならば、英語を大量に話せる機会をつくれば、日本人の英語力は飛躍的に伸びるのではないだろうか。そんな思いから、2007年に株式会社レアジョブを設立し、Skypeを利用したオンライン英会話サービスをスタートさせた。25分129円〜と安いから続けられる、フィリピンにいる講師陣と楽しくレッスンできるから続けられる、そんなサービスによって会員数は増えていき、累積会員数は23万人を突破している。レアジョブ英会話によって日本人1,000万人を英語が話せるようにして、日本を変える。ここまでの経緯、想い、今後について講演する。



中村 岳 (レアジョブ)

2005年東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻修了。NTTドコモ研究所を経て、2007年中学校の同級生とともに株式会社レアジョブを設立。「日本人1,000万人を英語が話せるようにする」をミッションに、Skypeを利用したオンライン英会話事業を行う。2014年東証マザーズ上場。

● [14:05-15:00] パネル討論 「大学発ベンチャー：選択肢としての起業へ」

パネリスト：浅見 徹 (東大)

写真および略歴は「大学発ベンチャーの現在：東大・情報理工学系研究科を起点として」司会紹介を参照。

パネリスト：川原 圭博 (東大 / AgIC Inc.)

写真および略歴は「講演 (1) 銀ナノインクによる電子回路のラピッドプロトタイピングとそのマーケット」を参照。

パネリスト：西川 徹 (Preferred Infrastructure)

写真および略歴は「講演 (2) ビッグデータ処理技術の進化とエッジヘビーコンピューティング」を参照。

パネリスト：平賀 督基 (モルフォ)

写真および略歴は「講演 (3) モルフォが取り組む画像処理技術とその応用」を参照。

パネリスト：中村 岳 (レアジョブ)

写真および略歴は「講演 (4) 日本を変えるオンライン英会話サービス」を参照。

エクサスケールコンピューティング時代の大学スパコンセンターの役割
9月3日(水) 15:30-17:30 [第1イベント会場 (3A棟 2F 3A204)]

【セッション概要】

文部科学省は10PFLOPSの国内最高性能スーパーコンピュータである「京」の成功に続き、次世代のNational Flagship Supercomputerとしてエクサスケールコンピュータの開発を2014年度より開始することを決めた。この規模のシステムはおそらく国内で1台しか建造できないが、文科省HPCI計画では、Flagship Systemを持つだけでなく、これを底支える一つ下の階層のスーパーコンピュータを大学スパコンセンターや研究機関に配備し、国内のHPC需要を支えることが示されている。こういった背景において、次世代の国内スパコンの配備・利用に関して大学スパコンセンターの果たすべき役割と位置づけについて述べる。例として筑波大学計算科学研究センターにおけるスパコンの導入・運用の歴史と今後の計画を示し、エクサスケールシステムとの関係を様々な角度から論じる。

● [15:30-16:30] 講演 (1) 「大学スパコンセンターにおけるシステム導入とその役割」

【講演概要】

ピーク性能 10PFLOPS の国内最高性能スーパーコンピュータである「京」が稼働して以来、次の国家プロジェクトとしてエクサスケールコンピュータの開発が開始された。このようなフラッグシップマシンの開発と平行して、国立大学の計算センター（いわゆるスパコンセンター）では定期的に各種アーキテクチャのスーパーコンピュータの導入が続いている。これまでは国家プロジェクトとしてのスパコン開発と大学計算センターにおけるシステム導入は独立に進められてきた。しかし、今後は日本におけるスーパーコンピュータの開発と計算センターにおける配備は、HPCI (High Performance Computing Infrastructure) の仕組みの下である程度戦略的に進める必要がある。こういった背景の下、筑波大学計算科学研究センターは全国共同利用施設としてスーパーコンピュータの運営を行うだけでなく、これまで独自技術による超並列システムの開発を続けてきた。本講演では、これからの大学計算センターの役割とシステム導入、さらにシステム開発の在り方について論じる。



朴 泰祐 (筑波大)

慶應義塾大学工学部電気工学科卒業、同大学院理工学研究科電気工学専攻後期博士課程修了。工学博士。慶應義塾大学理工学部物理学助手、筑波大学電子・情報工学系講師、助教授を経て現在同大学院システム情報工学研究科教授。筑波大学計算科学研究センターにおいて、超並列計算機 CP-PACS、PACS-CS、HA-PACS 等の研究開発に従事。2002 年度および 2003 年度情報処理学会論文賞受賞。2011 年 ACM ゴードンベル賞受賞。情報処理学会、IEEE CS、ACM 各会員。

● [16:30-17:30] 講演 (2) 「次世代計算科学の新展開」

【講演概要】

次世代スパコンの基盤技術開拓を大学で行い、これによって計算科学を推し進めることは、アプリケーション・ドリブンな我が国の将来のスパコン開発において、重要な意味をもつ。本講演では、筑波大学計算科学研究センターが進めている計画として、エクサスケール・スパコン開発に向けた次世代計算機技術を先行下方展開することで実証計算機システムを開発・制作し、これを用いて次世代計算機科学と最先端計算科学の学際的研究を融合させた新たな計算科学を創出する試みを紹介する。特に、HPCI 戦略プログラムとして実績のある素粒子・原子核・宇宙の基礎物理分野が連携する「計算基礎科学連携拠点」と、異分野間連携による新たな取組みとして、宇宙・惑星・生命分野間の「宇宙生命計算科学連携拠点」計画を中心に、筑波大学における計算科学推進の戦略について論じる。



梅村 雅之 (筑波大)

1987 年北海道大学大学院博士課程修了。理学博士。1988 年国立天文台助手。1993 年筑波大学計算物理学研究センター助教授。2002 年同教授。2004 年から現職。2013 年 4 月より、計算科学研究センター長。専門は、計算宇宙物理学。宇宙放射流体力学による宇宙第一世代天体形成、銀河形成、巨大ブラックホール形成、宇宙生命計算科学の研究に従事。2007 年に宇宙シミュレータ FIRST を開発・製作。

新しい時代の情報保護と情報活用 —セキュリティ技術、法律、マネジメント—
9月4日(木) 15:30-17:30 [第1イベント会場 (3A棟 2F 3A204)]

【セッション概要】

急速に進歩・発展する情報技術により、情報の取得・蓄積・流通・解析などが日々容易かつ効率的となりつつある。そして、高度な統合利活用の可能性がより一層拓かれようとしている。一方でその副作用として、パーソナルデータや機密情報の漏洩、情報システムへの攻撃など、社会にとっての脅威も増大している。そのため、情報の利活用の推進と情報や情報システムの保護の両立が強く求められている。しかし、この問題に簡単な解決方法はなく、技術、法律、マネジメントなどの幅広い観点からの地道な取り組みが必要である。そこで、本イベント企画では、日本学術会議 安全・安心社会と情報技術分科会メンバーを中心に、さまざまな分野で指導的立場にある方々による現状分析と将来展望に関する講演・パネル討論を行う。



司会：柴山 悦哉 (東大)

1981 年京都大学理学部卒。1983 年同大学院理学研究科修士課程修了。同年、東京工業大学理学部助手。その後、龍谷大学理工学部、東京工業大学理学部、同大学院情報理工学研究科を経て 2008 年より東京大学情報基盤センター教授。理学博士。日本ソフトウェア科学会理事長、情報処理学会理事及び論文誌編集委員長などを歴任。現在、日本学術会議特任連携会員、科学技術振興機構「ビッグデータ統合利活用のための次世代基盤技術の創出・体系化」副研究総括。

● [15:30-15:50] 講演 (1) 「個人情報保護法改正の動向」

【講演概要】

個人情報保護法改正について、政府 IT 総合戦略本部パーソナルデータに関する検討会での大綱とりまとめにかかる議論を踏まえながら、法改正に至る背景、改正法案の論点、積み残しの課題について説明する。

Suica の履歴データ販売等がネット等で炎上したことなどに端を発して、現行法上の個人情報の定義及び第三者提供についての解釈論上の議論が巻き起こるとともに、ビッグデータ時代に向けての産業振興上の観点及び本人保護の観点から立法論的解決に向けて大きく転換したということである。「特定個人の識別情報」を保護することでどのような個人の権利利益を保護しているのか、特定個人を識別できずとも個人の権利利益を侵害するケースがあるのではないかと。仮名化、匿名化の法的評価を含めて、個人情報保護法の議論は、一気に統計的、数理的な観点からの分析を要する問題となってきた。情報法学は情報処理研究の助力なしに成立し得ない新たな時代を迎えている。



鈴木 正朝 (新潟大)

1962 年生れ、岩手県出身。中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了 修士 (法学)、情報セキュリティ大学院大学博士後期課程修了 博士 (情報学)。ニフティを経て 2005 年から現職。IT 総合戦略本部パーソナルデータに関する検討会委員、政府情報システム刷新有識者会議臨時構成員、厚生労働省社会保障分野サブワーキンググループ構成員、経済産業省個人情報保護ガイドライン委員会委員、日本データ通信協会 P マーク審査会会長等歴任。

● [15:50-16:10] 講演 (2) 「安全・安心社会を実現するセキュリティ基盤」

【講演概要】

日本学術会議では、2010 年に第 21 期の大型研究計画のマスタープラン 2010 を提言し、我が国が推進すべき大型研究計画のマスタープランを 3 年ごとに見直し策定することを明示した。この結果を受けて、第 22 期において学術の大型研究計画のマスタープラン 2014 の策定が進められた。

日本学術会議 情報学委員会 安全・安心社会と情報技術分科会では、サイバー攻撃等、情報システム社会の信頼をゆらがせる事故への対策、ビッグデータの安全安心な利活用の推進が緊急を要することを鑑み、「安全・安心社会を実現する情報システムのためのセキュリティ基盤」を大型研究計画のマスタープラン 2014 に提案した。

本講演では、安全・安心社会と情報技術分科会で策定した緊急の情報セキュリティに関する大型研究計画のマスタープラン 2014 について解説する。



宮地 充子 (北陸先端大)

1990 年大阪大学大学院理学研究科修士課程修了。1990 年パナソニック株式会社入社。1998 年北陸先端科学技術大学院大学准教授。2002-2003 年カリフォルニア大学デービス校客員研究員。2007 年北陸先端科学技術大学院大学教授。情報セキュリティの研究に従事。博士 (理学)。SCIS93 若手論文賞、科学技術庁注目発明賞、坂井記念特別賞 (情報処理学会)、標準化貢献賞 (情報処理学会)、情報セキュリティ文化賞、国際規格開発賞 (情報処理学会)、国際標準化奨励者表彰 (産業技術環境局長表彰)、ドコモ・モバイル・サイエンス賞、The 6th International Conference on Advanced Data Mining and Applications (ADMA 2010) 最優秀論文賞、2014 年文部科学大臣表彰 科学技術賞 研究部門各受賞。電子情報通信学会、情報処理学会、International Association for Cryptologic Research (IACR)、日本数学会 各会員。

● [16:10-16:30] 講演 (3) 「マイナンバー制度に向けた動向とマネジメント」

【講演概要】

2013 年 5 月、国会において社会保障と税の一体改革の基盤となる番号制度関連 4 法案が可決された。政府は、社会保障制度と税制度を一体的に把握し、より正確な所得や社会保障支出等の情報に基づいて、公平かつ効率的な社会保障制度と税制度を構築しようと検討を行ってきた。それを可能にする情報基盤としてマイナンバーが構想されたのだった。

当初の予定では、マイナンバーの利用範囲は税、社会保障、災害などに関する行政事務に限定されているが、地方公共団体の行政効率向上、行政サービスの質の改善を考え、政府は、個人情報保護に十分に配慮した上で、行政事務適用範囲拡大、官民連携などについて検討を開始している。この講演では、システム構築の動向、マイナンバー活用拡大に向けた検討状況、官民連携、行政機関におけるマネジメント体制整備に向けた課題について述べるとともに、社会システムに及ぼすインパクトについて展望する。



須藤 修 (東大)

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了、経済学博士 (東京大学)。東京大学助教授を経て 1999 年より東京大学教授。現在、東京大学大学院情報学環長、国立情報学研究所客員教授、一般社団法人次世代放送推進フォーラム (NexTV-F) 理事長、Member of the OECD Global Science Forum Expert Group。この間、ストックホルム経済大学客員教授 (1995)、NTT サービスインテグレーション基盤研究所リサーチ・プロフェッサー (1997-1999)、日本経団連 21 世紀政策研究所主幹研究員 (2008-2009)、政府 IT 総合戦略本部「新戦略推進専門調査会マイナンバー等分科会」委員 (2014-) などを兼務。

● [16:30-17:30] パネル討論

司会：柴山 悦哉（東大）

写真および略歴は「新しい時代の情報保護と情報利活用 –セキュリティ技術、法律、マネジメント–」司会紹介を参照。

パネリスト：鈴木 正朝（新潟大）

写真および略歴は「講演（1）個人情報保護法改正の動向」を参照。

パネリスト：須藤 修（東大）

写真および略歴は「講演（3）マイナンバー制度に向けた動向とマネジメント」を参照。



パネリスト：岩野 和生（三菱商事）

1975年 東京大学理学部数学科卒業後、日本IBM入社。1987年東京基礎研究所所長、米国ワトソン研究所、先進技術事業（EBO）、大和SW開発研究所所長、未来価値創造事業など。2012年3月より三菱商事株式会社ビジネスサービス部門顧問。東京工業大学客員教授。独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー、情報処理学会フェロー、日本学術会議連携会員。米国Princeton大学よりPh.D.取得。

情報の流れに着目した実時間分散処理基盤 —IoTとクラウドソーシングの観点から— 9月5日（金）9:30-12:00 [第1イベント会場（3A棟2F 3A204）]

[セッション概要]

センサやウェアラブルデバイスの普及により、人・車・機械などから位置情報や映像、SNSといった情報ストリーム（情報流）が時々刻々と連続的に生成されるようになった。大量の情報流を蓄積することなく実時間で処理し、キュレートし、フィードバックできれば、災害救助支援やパーソナライズされたライブビデオ配信など、新しいコンテンツやサービスを生み出せる。情報流の実時間処理基盤技術となる情報流の生成・発見・キュレーション・アクチュエーションといった課題について、IoTとクラウドソーシングとの関連・連携も含めて議論する。



司会：山口 弘純（阪大）

1994年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業。1998年同大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。1999年大阪大学大学院基礎工学研究科助手。2002年同大学大学院情報科学研究科助手。2007年より同大学大学院情報科学研究科准教授。博士（工学）。モバイルコンピューティングとネットワーク・アプリケーションに関する研究に従事。情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE各会員。2007年情報処理学会長尾真記念特別賞、2010年情報処理学会創立50周年記念論文賞、2012年電気通信普及財団テレコムシステム技術賞など。

● [9:30-9:45] 講演（1）「情報流とは／本イベントの趣旨説明」

[講演概要]

人、車、機械、ビル等、あらゆる場所や物に埋設・付帯された多種多様なセンサにより時々刻々と生成される情報ストリーム（情報流）を、一か所に蓄積することなく流通させ、ある価値判断や必要性に応じて複数の情報流を選別し、リアルタイムに収集、融合、編纂、提示することを可能にする情報流キュレーション基盤が必要とされている。情報流キュレーション基盤は、従来の静的に蓄積されたデータの分析では得ることのできない、あちこちで湧出する多数かつ多様な情報流をリアルタイムに融合・編纂することによってのみ得ることが可能な新たな「知」を創出することを目指している。本講演では、情報流キュレーション基盤を実現するための技術課題を概説し参加者と共有する。



安本 慶一（奈良先端大）

1995年大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程中退。1995年滋賀大学経済学部助手。2002年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。2011年より同研究科教授。博士（工学）。モバイルコンピューティング、ユビキタスコンピューティングに関する研究に従事。

● [9:45-10:30] 講演 (2) 「IoT とクラウドの融合 ～スマートシティの構築に向けて～」

【講演概要】

リアル空間とサイバー空間の融合による様々なサイバー・フィジカルシステムが構築されてきている。本講演では、EU-Japan プロジェクトの1つとして進められている ClouT プロジェクトの概要を紹介するとともに、IoT 技術とクラウドの融合によるスマートシティ構築にむけての課題について議論する。



徳田 英幸 (慶大)

1975年慶應義塾大学工学部卒。同大学院工学研究科修士。ウォータールー大学計算機科学科博士 (Ph.D. in Computer Science)。米国カーネギーメロン大学計算機科学科研究准教授を経て、1990年慶應義塾大学環境情報学部勤務。慶應義塾常任理事を経て、現職。専門は、ユビキタスコンピューティングシステム、OS、Cyber-Physical Systems等。情報処理学会フェロー、日本ソフトウェア学会フェロー。現在、情報処理学会副会長、日本学術会議連携会員、情報通信審議会会長代理などを務める。

● [10:30-12:00] パネル討論 「情報流 × IoT」



司会：重野 寛 (慶大)

1997年慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了。1998年同大学理工学部情報工学科助手(有期)。2000年同大学理工学部専任講師。2003年同大学理工学部助教授を経て、現在、慶應義塾大学理工学部教授。博士(工学)。専門はネットワーク・プロトコル、モバイルコンピューティングや自動車ネットワークを中心とした高度交通システムへの応用等。情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE、ACM各会員。



パネリスト：岡部 寿男 (京大)

1986年京都大学工学部情報工学科卒、1988年同大学院工学研究科情報工学修士了。同年京都大学工学部助手。同大型計算機センター助教授、大学院情報学研究科助教授を経て、2002年より京都大学学術情報メディアセンター教授、現在に至る。インターネットアーキテクチャ、ネットワークセキュリティ等に興味を持つ。2014年より Journal of Information Processing (JIP) 編集委員長。電子情報通信学会フェロー、情報処理学会、IEEE、ACM各会員。



パネリスト：河口 信夫 (名大)

名古屋大学大学院工学研究科卒。名古屋大学助手・准教授等を経て2009年より名古屋大学教授。専門は位置情報サービス、ユビキタス・コンピューティング、行動センシングなど。大学発ベンチャーに加え、行動センシングのためのデータ収集コンソーシアム HASC や位置情報サービスのための NPO 法人 Lisra を設立し、先端的な情報技術の実社会への適用を目指し、オープンデータの活用なども含めた様々な活動を推進している。



パネリスト：塚本 昌彦 (神戸大)

1987年京大工数理卒、1989年京大院工応用システム科学修士了。同年シャープ入社、研究開発に従事。1995年阪大工情報システム講師、1996年同助教授、2002年阪大院情報科学助教授、2004年神戸大工電気電子教授、2007年神戸大院工電気電子教授、現在に至る。工学博士。ウェアラブル・ユビキタスコンピューティングのシステム、インタフェース、アプリケーションを研究している。2001年3月より HMD を生活の中で実践している。NPO ウェアラブルコンピュータ研究開発機構理事長。

パネリスト：徳田 英幸 (慶大)

写真および略歴は「講演 (2) IoT とクラウドの融合 ～スマートシティの構築に向けて～」を参照。

2020年のサイバーセキュリティ戦略 ～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～ 9月5日(金) 13:00-16:00 [第1イベント会場(3A棟 2F 3A204)]

[セッション概要]

東京オリンピックが開催される2020年には、あらゆるモノがネットワークに接続され、ICTによる最先端サービスの実現が期待されている。省エネ・交通・観光・医療・健康・防災・減災などの新しいサービスを提供されるとともに、自動車の安全走行が実現されると期待されている。

一方、オリンピックの際には、開催国のネットワークや主要機関の情報システムへのサイバー攻撃が急増するだけでなく、2020年には、攻撃が重要インフラや交通システムだけでなく、一般家庭の様々な機器に及ぶことが懸念されている。

本パネルでは、我が国における2020年のサイバーセキュリティ戦略のあり方について、具体例を交えながら、議論する。



司会：徳田 英幸(慶大)

1975年慶應義塾大学工学部卒。同大学院工学研究科修士。ウォータールー大学計算機科学科博士(Ph.D. in Computer Science)。米国カーネギーメロン大学計算機科学科研究准教授を経て、1990年慶應義塾大学環境情報学部勤務。慶應義塾常任理事を経て、現職。専門は、ユビキタスコンピューティングシステム、OS、Cyber-Physical Systems等。情報処理学会フェロー、日本ソフトウェア学会フェロー。現在、情報処理学会副会長、日本学術会議連携会員、情報通信審議会会長代理などを務める。

● [13:10-13:50] 講演(1)「強靱なセキュリティの構築：2012年のロンドン大会から得た教訓」

[講演概要]

ロンドン大会は夏季に開催され、規模の大きさと各プロジェクトの複雑さでは大会史上最高のイベントのひとつ。遅れの許されないデッドラインや現場の管理、競合も存在する企業や公的機関との折衝と進行、遠隔地に分散する大会施設を統合的な管理—いずれも大きな挑戦でした。それにセキュリティ。近年、大きな大会は絶好のターゲットになっており、ICTインフラのセキュリティは極端にまで強靱さが求められています。自分の意見を膨大な数の視聴者に見せたり、チケットの購買とホテルの予約などに関連してクレジットカードの情報を盗むことも可能だし、大会に参加する選手や有名人の詳細なスケジュールを見たいと思う者もいます。大会を主催する国や都市を困らせるために、そのインフラやウェブサイトに侵入される可能性もあるのです。ロンドン大会では、BTはコミュニケーションとネットワークセキュリティを担当したスポンサー企業でした。一日に一回はあった組織的なハッカー攻撃や2億を超える悪意のある攻撃から守ることが必要だったし、BYODのマルウェアも監視しなければなりません。そして大会のウェブサイトはAPTやDDoSの攻撃に対する対応をとってきました。BTがこのような状況にどのように立ち向かったのか、そこから得た教訓をご説明いたします。



Phillip Morris (ブリティッシュテレコムジャパン)

フィルモリスは、ICTの分野で30年に及ぶ経験を日本内外で持っています。特にセキュリティ、データセンターのシステムなどの構築や管理、クラウドコンピューティング、ビッグデータ分析、HPC (high performance computing) では、その分野をリードしてきました。データセンターの構築では日本で最初のLEED Platinumのデータセンターを作りました。また、リソースが遠隔地に存在し、各部署が分散しているケースの場合、総合的に管理するための設計や実施経験が豊富です。BTに勤務する前は、Platform ComputingのCTOで、同社のHPCの完全なクラスター管理システムをクラウドベースの自動化管理システムに移項。同時にHadoopを導入し、より長時間の稼働とより迅速な処理を可能にしました。

● [13:50-14:30] 講演(2)「日本の企業文化とサイバーセキュリティ」

[講演概要]

顧客情報流出事件が発生した場合、いまやCSOのみならずCEOの善管注意義務違反が認定される時代となった。対応如何によっては会社の存亡をも左右する情報セキュリティ対策は間違いなくCEOマターである。情報通信技術(ICT)が企業内の全部門で利用されている以上、情報セキュリティへの取組みは部門を横断する全社的組織によるべきだ。取引関係にある業者を含めたネットワーク全体の保護や新しい発想での組織再編の必要性についてお話ししたい。



齋藤 ウィリアム浩幸(インター)

1971年カリフォルニア生まれの日系二世。16歳でカリフォルニア大学リバーサイド校に合格。同大学ロサンゼルス校(UCLA)医学部を卒業。10代で商用ソフトウェアのプログラミングを始め、その大学在学中にI/Oソフトウェアを設立。BAPIという生体認証システム技術を開発し、2004年に自社をマイクロソフト社に売却した。2005年に拠点を東京に移し、株式会社インターを設立。2013年12月より、内閣府本府参与に任命されている。

● [14:30-16:00] パネル討論

司会：徳田 英幸（慶大）

写真および略歴は「2020年のサイバーセキュリティ戦略 ～東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」司会紹介を参照。

パネリスト：Phillip Morris（ブリティッシュテレコムジャパン）

写真および略歴は「講演（1）強靱なセキュリティの構築：2012年のロンドン大会から得た教訓」を参照。

パネリスト：齋藤 ウィリアム浩幸（インテカー）

写真および略歴は「講演（2）日本の企業文化とサイバーセキュリティ」を参照。



パネリスト：宮川 晋（NTTコミュニケーションズ）

1967年生。東京都出身。東京都在住。1995年東京工業大学理工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）学位取得。同年、日本電信電話株式会社入社。1997年米国シリコンバレー NTT Multimedia Communications Laboratories（当時）移動。2002年よりNTTコミュニケーションズ株式会社所属。現在先端IPアーキテクチャセンターおよび経営企画部（兼務）。北陸先端科学技術大学院大学客員教授。



パネリスト：井上 友二（トヨタ）

1973年に九州大学大学院（修士）修了後、電電公社電気通信研究所に入社し情報通信ネットワークの研究開発に従事。1982年から国際標準化や国際学会で活躍し、1998年にNTTマルチメディアネットワーク研究所長、2000年にNTTデータ取締役、2002年にNTT取締役・CTOとしてNTTグループ全体の研究開発責任者。2007年から（社）情報通信技術委員会理事長。2010年から株式会社トヨタIT開発センター代表取締役会長。IEEEとIEICEのフェロー。モンゴル科学技術大学名誉教授、電子情報通信学会前会長。総務大臣表彰、NTT社長表彰など。



パネリスト：村瀬 一郎（三菱総研）

1986年株式会社三菱総合研究所入社。以後、情報通信技術の調査研究に携わる。専門は、サイバーセキュリティ政策と制御システムセキュリティ。現在は、株式会社三菱総合研究所情報通信政策研究本部副本部長、兼技術研究組合制御システムセキュリティセンター事務局長、兼早稲田大学理工学研究科招聘研究員。著書に、「グループウェア」（共著）、「ITリスク学入門」（共著）等。



パネリスト：武田 圭史（慶大）

2001年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。1994年から2002年まで防衛庁・航空自衛隊に勤務。2002年から2004年までアクセンチュア株式会社にて情報セキュリティコンサルティングサービスの立ち上げを担当。2005年カーネギーメロン大学にて情報セキュリティ修士プログラムを策定に参加しカーネギーメロン大学日本校教授に就任。2008年より慶應義塾大学環境情報学部教授。兵庫県参与など官公庁における情報セキュリティ関連委員等を務めている。情報セキュリティ分野における研究開発・運用・人材育成・コンサルティング等幅広い業務に従事している。博士（政策・メディア）。



パネリスト：後藤 厚宏（情報セキュリティ大学院大）

1984年東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了（工博）。NTT研究所にて並列・分散処理アーキテクチャ、インターネットセキュリティ技術、高信頼クラウドコンピューティング技術、ID管理技術の研究開発等に従事。2007年よりNTT情報流通プラットフォーム研究所長、2010年よりNTTサイバースペース研究所長。現在、IEEE Computer SocietyのBoard of Governor、情報処理学会理事。2011年7月より現職。

会誌「情報処理」編集委員会女子部 ～番外編！～ [パネルセッション] 9月3日(水) 10:00-12:00 [第2 イベント会場 (3A棟 4F 3A402)]

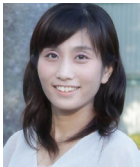
[セッション概要]

会誌「情報処理」では、2014年7月号から、編集委員女性有志による連載コラム「編集委員会女子部」が始まりました。テーマは特に定めず、研究の裏話、ワークライフバランス、子育て談義から学会への提言まで、各委員が独自の視点で身の回りのことを自由に語るコーナーです。今回、この編集委員会女子部の番外編として、女性研究者によるパネル討論を企画しました。女性研究者の研究生活や日常、仕事場での出来事等を中心に、会場の皆様も含めて自由に語り合いたいと思います。特に、研究者・技術者を目指す女子学生の皆さん必見です！



司会：加藤 由花 (東京女子大)

1989年東京大学理学部卒業。同年日本電信電話(株)入社。2002年電気通信大学大学院情報システム学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。電気通信大学助手、産業技術大学院大学教授を経て、2014年より東京女子大学数理科学科教授。情報ネットワーク、ネットワークを利用したロボットサービスに関する研究に従事。情報処理学会理事(会誌・出版担当)。



パネリスト：五十嵐 悠紀 (筑波大)

2010年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員PDを経て、現在RPD(筑波大学)。コンピュータグラフィックスおよびユーザインタフェースの研究に従事。一般向けにワークショップを行うなどアウトリーチ活動にも力を入れている。プライベートでは二児の母。



パネリスト：高岡 詠子 (上智大)

慶應義塾大学工学部数理科学科卒業、同大学大学院理工学研究科計算機科学専攻博士課程修了、博士(工学)。千歳科学技術大学院大学総合光科学部准教授等を経て、現在上智大学理工学部情報理工学専攻教授、他に、国際基督教大学(2010-)、明治学院大学(2011-)非常勤講師、放送大学分担講師。CE研究会運営委員(2004-2007、2012-)、CE研幹事(2008-2012)、初等中等教育委員会(2010-)、論文誌編集委員(2010-2012)、学会誌編集委員(2010-)、代表会員(2010-2011、2014)、情報処理学会若手研究者の会幹事(2013-)、コンピュータ編集委員会(TCE)編集委員(2014-)、山下記念研究賞受賞(2006)、2013年度学会活動貢献賞。



パネリスト：辻田 眸 (シンクフェーズ)

2006年お茶の水女子大学理学部情報科学科卒業、2007年同大学院人間文化研究科数理情報科学専攻修士課程修了(短縮修了)、2010年同大学院博士課程修了(短縮修了)。理学博士。2006年にIPA「未踏ソフトウェア創造事業」に採択され、「遠距離恋愛支援システム」の開発を行う。2009年より日本学術振興会特別研究員DCとしてヒューマンコンピュータインタラクションの研究に従事。2010年より米国ジョージア工科大学客員研究員。2011年より日本学術振興会特別研究員PDとして東京大学暦本研究室にて研究に従事。この研究成果「笑わないと開かない冷蔵庫」は、2012年のグッドデザイン賞ベスト100を受賞。出産を機に今後のキャリアについて考え、2014年に株式会社シンクフェーズを設立。



パネリスト：土井 千章 (NTTドコモ)

株式会社NTTドコモ先進技術研究所勤務。2009年慶應義塾大学理工学研究科博士前期課程修了。同年(株)NTTドコモ入社。モバイルコンピューティング。Androidアプリケーションのセキュリティ、大規模データを用いた行動分析の研究に従事。



パネリスト：坊農 真弓 (NII)

2005年3月神戸大学大学院総合人間科学研究科にて博士号(学術)取得。その後、ATRメディア情報科学研究所研究員、京都大学大学院情報学研究科研究員、日本学術振興会特別研究員(PD)、UCLAやテキサス大学オースティン校にて客員研究員、国立情報学研究所コンテンツ科学研究系助教を経て、2014年から同准教授。人と人のインタラクションや手話相互行為分析の研究に従事。プライベートではもっぱら育児に奮闘中。

映像符号化・配信技術の最新標準化動向

9月3日(水) 13:00-15:00 [第2イベント会場 (3A棟 4F 3A402)]

[セッション概要]

4K/8K 映像に代表される映像の高精細化等による映像の高画質化、モバイル映像通信の爆発的な拡大に伴う映像流通量の増大を受け、効率的な映像符号化・配信技術への期待が高まっている。こうした期待の高まりを受け、ISO/IEC のワーキンググループである MPEG では、メディア伝送技術 MMT、ストリーミング技術 MPEG-DASH を標準化し、映像符号化技術 HEVC の初版を標準化後、現在、機能拡張のための第2版の策定を進めている。これらの標準化規格は、ポテンシャルおよび機能性の高さから、符号化・配信サービスに留まらず映像処理分野全域におけるイノベーションとして、産業界から熱い期待を集めている。本企画では、こうした標準化規格の技術概要、今後の展望等に関する最新の技術動向を第一線の研究者より講演頂き、FIT 参加者への情報提供の場としたい。



司会：坂東 幸浩 (NTT-AT)

2000年から2002年、日本学術振興会特別研究員。2002年、九州大学大学院システム情報科学研究科 博士後期課程修了。同年、日本電信電話株式会社入社。NTT サイバースペース研究所にて、次世代映像フォーマットのための高能率符号化アルゴリズム研究等に従事。2011年より、現職。2008年 FIT 船井ベストペーパー賞、2012年情報処理学会 長尾真記念特別賞、2013年船井情報科学振興財団 船井学術賞等受賞。博士(工学)。

● [13:00-13:25] 講演 (1) 「HEVC REExt の最新標準化動向」

[講演概要]

HEVC 初版は2013年1月に標準化作業が完了したが、その半年前から Range Extensions (以下、REExt) の標準化が開始された。これは第2版の機能拡張の一つであり、2014年4月に標準化作業が完了した。REExt は 4:2:2/4:4:4 への色形式拡張や 12bit へのビット深度拡張などが対象となっている。本稿では REExt に採用された各種追加ツールの概要と性能、策定されたプロファイル群を紹介する。最後に、2014年4月から規格化作業が開始された Screen Content Coding など最新の標準化動向に触れる。



河村 圭 (KDDI 研)

2004年、早稲田大学理工学部電子・情報通信学科卒業。2005年、同大学大学院国際情報通信研究科修士課程修了。2010年、同大学大学院国際情報通信研究科博士課程修了。同年、KDDI (株) 入社。現在、(株) KDDI 研究所超臨場感通信グループ研究主査。2014年電子情報通信学会学術奨励賞。主に、動画符号化方式の研究・開発および国際標準化に従事。博士(国際情報通信学)。

● [13:25-13:50] 講演 (2) 「SHVC: HEVC 階層符号化拡張」

[講演概要]

映像符号化技術 HEVC の階層符号化拡張である SHVC (Scalable HEVC) について解説する。SHVC では、レイヤ間予測 (階層間予測) を実現するために、ベースレイヤの復号画像にレイヤ間処理を適用して、上位レイヤの参照画像として利用する仕組みを採用している。代表的なレイヤ間処理としては、レイヤ間の解像度比に応じたテクスチャや動きベクトルのリサンプル処理が挙げられる。本稿では、SHVC におけるレイヤ間予測の仕組みを中心にアルゴリズムの説明するとともに、SHVC によりどのような映像の組み合わせが符号化できるかといった機能性についての解説を行う。



山本 智幸 (シャープ)

2004年、東京大学大学院情報理工学系研究科修士課程修了。同年、シャープ (株) に入社。主に、映像符号化技術の研究・開発に従事。関連する標準化活動にも取り組み、近年では、ISO/IEC と ITU-T による映像符号化標準 HEVC や、階層映像符号化標準 SHVC の策定作業に参加。

● [13:50-14:15] 講演 (3) 「デプスマップベース三次元映像符号化方式の国際標準化動向」

【講演概要】

高臨場な映像体験を実現する三次元映像として、裸眼での立体映像やカメラが設置されていない位置からの映像を提供する自由視点映像が期待されている。国際標準化団体 MPEG と ITU-T の合同チーム JCT-3V では、そのような新しい映像の効率的な伝送・蓄積を実現するために、多視点映像とそれに対するデプスマップで表現された三次元映像に対する符号化方式の国際標準規格化を進めている。HEVC の拡張規格として検討が行われている 3D-HEVC では、映像信号の視点間相関を利用する視差補償予測に加え、映像信号以外の視点間相関を利用する技術や、デプスマップの情報を利用した予測技術、デプスマップ符号化のための予測技術などが導入されている。本講演では、これら 3D-HEVC で用いられている符号化アルゴリズムについて解説する。



志水 信哉 (NTT)

2002 年京都大学工学部情報学専攻卒業。2004 年同大学院大学院情報学専攻修士課程修了。同年、日本電信電話 (株) NTT サイバースペース研究所入社。現在、NTT メディアインテリジェンス研究所研究主任。主に自由視点映像や三次元映像処理に関する研究開発および国際標準化活動に従事。博士 (工学)。



司会：亀山 渉 (早大)

1985 年早大理工電子通信学専攻卒業、1987 年同大学院理工学専攻修士課程修了、1990 年同大学院理工学専攻博士課程修了。1989 年早大理工学部助手。1992 年 (株) アスキー、1994 年フランステレコム研究所出向等を経て、1999 年早大国際情報通信研究センター助教授、2002 年早大大学院国際情報通信研究科教授、2014 年 4 月早大基幹理工学部情報通信学専攻教授。マルチメディア情報流通関連の研究に従事。工学博士。

● [14:15-14:35] 講演 (4) 「MPEG-H MMT とスーパーハイビジョン放送システム」

【講演概要】

コンテンツ利用端末や伝送路の多様化を受け、MPEG では新たなメディアトランスポート技術である MPEG Media Transport (MMT) を標準化した。MMT は、映像符号化技術や音声符号化技術から成る新たな標準規格 MPEG-H のシステム技術であり、今後の実用化が期待されている。MMT を用いることで、MPEG-2 TS などの従来のメディアトランスポート方式では困難であった複数の伝送路で伝送する映像や音声などを組み合わせて用いることが容易に実現可能となっている。日本では、2016 年の試験放送を目指し、MMT を用いたスーパーハイビジョン放送システムの規格化や機器の開発が進んでいる。本講演では、MMT の概要を述べるとともに、MMT により実現されるスーパーハイビジョン放送システムの構成を述べる。



青木 秀一 (NHK 放送技研)

2003 年、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。2013 年、東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。2003 年に NHK 入局。以来、放送技術研究所にて、IP 技術を用いる放送システムの研究開発、ITU-R、MPEG での国際標準化に従事。現在、スーパーハイビジョン放送システムの研究開発と国内外の標準化を進めている。博士 (情報理工学)。

● [14:35-14:55] 講演 (5) 「次世代メディア伝送規格 MMT の AL-FEC 技術」

【講演概要】

ISO/IEC MPEG では、ヘテロジニアス環境に対応する次世代のメディア伝送規格として、MPEG Media Transport (MMT) の標準化を進めている。MMT は、現行規格の MPEG-2 にはない様々な機能を有するとともに、アプリケーションレイヤー誤り訂正 (AL-FEC) の機能もサポートしている。通信・放送の連携をはじめた多様なサービスへの応用が期待されている。MMT の AL-FEC は、さまざまな伝送路でのパケットロスに対応するために、複数のアルゴリズムを規定している。本稿では、NTT 未来ねっと研究所が提案した LDGM 符号を中心に、MMT の誤り訂正符号化技術について紹介する。



仲地 孝之 (NTT)

1997 年、多次元デジタル信号処理の研究で、慶應義塾大学より博士号を取得。NTT 研究所入所後、理論的側面から超高精細映像の研究に従事する。2006-2007 年、スタンフォード大学客員研究員として分散映像符号化の先駆的研究を行う。現在、セキュリティ映像処理、誤り訂正符号の研究に従事する一方、ISO/IEC MPEG システム規格の国際標準化に携わっている。

DTN 最前線 ～時空間を超えてデバイスを紡ぐ新しい情報基盤へ～

[パネルセッション]

9月3日(水) 15:30-17:30 [第2 イベント会場 (3A 棟 4F 3A402)]

[セッション概要]

DTN (遅延耐性ネットワーク) は、以前よりその概念や有効性は認識されていたものの、通信回線が被災した緊急時のデータ集約や、野生動物の生態監視といった、計算資源が極度に制約された環境下での代替ネットワークとして主に研究開発されてきた。しかし近年では、それに加えて、UAV やスマートフォンなど新しいデバイスの連携による通信効率化や安心安全の実現、車両間通信による広域通信データオフローディングなど、社会システムに寄与しうる通信基盤としての DTN も注目を集めている。本パネルでは DTN 研究に従事する研究者によるパネルセッションにより、DTN の新たな将来像や研究チャレンジを共有する。



司会：安本 慶一 (奈良先端大)

1995 年大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程中退。1995 年滋賀大学経済学部助手。2002 年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。2011 年より同研究科教授。博士 (工学)。モバイルコンピューティング、ユビキタスコンピューティングに関する研究に従事。



パネリスト：鶴 正人 (九工大)

九州工業大学・情報工学研究院教授。1985 年京大院・数理工学専攻修了。沖電気工業、長崎大学総合情報処理センタ助手、通信・放送機構研究員、九州工業大学情報工学部助教授等を経て、2006 年より同大教授。博士 (情報工学)。情報通信ネットワークの計測、制御、管理に関する研究に従事。情報処理学会、IEEE、ACM、電子情報通信学会、ソフトウェア科学会各会員。



パネリスト：井上 真杉 (NICT)

1992 年京都大学工学部卒業、1997 年東京大学大学院博士課程修了、同年、郵政省電波研究所 (現 NICT) に入所。ミリ波超高速無線 LAN、第 4 世代移動通信、新世代ネットワークの研究や企画戦略業務に従事。現在は、DTN の要素を持った地域分散ネットワーク NerveNet の研究開発とその国内外実証プロジェクトの推進及び JGN-X の研究開発と構築企画業務に従事。



パネリスト：櫻原 茂 (奈良先端大)

2003 年 12 月 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士課程修了。博士 (工学)。2004 年 九州工業大学 情報工学部 産学官連携研究員、2005 年 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助手、2007 年 同助教、現在に至る。2010 年 2 月から 2011 年 3 月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 客員研究員。モバイルコンピューティングの研究に従事し、特に DTN に関連した研究に注力している。



パネリスト：西山 大樹 (東北大)

2008 年東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了。博士 (情報科学)。同年 10 月同助教、2012 年 5 月同准教授、現在に至る。衛星、無人航空機、無線、光、モバイル、アドホック、センサなど多様な通信ネットワークを対象として研究を展開。スマホ de リレー発明者。100 編以上の査読付き論文を発表。米国電気電子学会 (IEEE) アジア太平洋優秀若手研究者賞、電子情報通信学会 (IEICE) 学術奨励賞、船井情報科学振興財団船井研究奨励賞各受賞。IEEE シニア会員。IEICE 会員。



パネリスト：山口 弘純 (阪大)

1994 年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業。1998 年同大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。1999 年大阪大学大学院基礎工学研究科助手。2002 年同大学大学院情報科学研究科助手。2007 年より同大学大学院情報科学研究科准教授。博士 (工学)。モバイルコンピューティングとネットワーク・アプリケーションに関する研究に従事。情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE 各会員。2007 年情報処理学会長尾真記念特別賞、2010 年情報処理学会創立 50 周年記念論文賞、2012 年電気通信普及財団テレコムシステム技術賞など。



パネリスト：高井 峰生 (Space-Time Engineering)

1997 年早稲田大学大学院博士後期課程修了。現在カリフォルニア大学ロサンゼルス校主幹開発研究員。2007 年米国に Space-Time Engineering, LLC を設立し、以後モバイル通信システム及びその評価方法についての研究開発に産学双方から従事。ACM、IEEE、情報処理学会各会員。

自然計算研究の最前線とその将来

9月4日(木) 9:30-12:00 [第2イベント会場 (3A棟 4F 3A402)]

[セッション概要]

自然計算の研究には、進化計算、ニューラルネットワーク、分子コンピューティング、量子計算など、さまざまな研究がある。Springer社の国際学術雑誌 *Natural Computing* には、「自然計算とは、自然の中で観察される計算過程と、自然に触発された人為的計算を指している。」との説明があるが、これらのさまざまな研究を統一的な視点で議論するには十分ではない。本企画では、自然計算の研究を以下の4つのステップから成り立っていると考える。

- (1) 自然現象を計算の観点から観察する、
- (2) その観察に基づいて計算モデルを構築する、
- (3) 計算モデルを分析し普遍化する、
- (4) 計算モデルを自然現象で再実装することにより計算の可能性を探求する、

自然計算の分野で活躍する研究者を集め、各研究分野が過去・現在において4つのステップのどこに位置づけられ、将来どこを目指しているのか、などを一連の講演を通して議論する。そして、自然計算の目指すべき将来について議論する。



司会：小林 聡 (電通大)

1993年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。1993年より電気通信大学情報工学科助手。その後、東京電機大学理工学部助教授等を経て、現在、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授。博士(工学)。理論計算機科学、分子コンピューティング、分子ロボティクスの研究に従事。

● [9:30-9:55] 講演 (1) 「自然計算とは」

[講演概要]

「自然計算」とは"コンピューティングを基軸とし、自然との関わりから生まれた問題解決のための手法一般"をいう。自然計算の研究目的には以下のテーマが含まれる。すなわち、

- (1) 自然現象に触発された情報処理的なメカニズムを研究し、個々の具体的な問題を解決する新しい技法(アルゴリズム)を開発すると共に、新しい計算パラダイムに関して理論的な観点(計算可能性や計算量)も含めて探究する。
- (2) 人工生命系の設計やコンピュータシミュレーションなどによる自然現象の計算的・構成的な研究を通して、生命現象など自然系への理解を深める。
- (3) 自然現象を利用することにより、ナノスケール領域における工学的に有用で新規な応用領域を探求する。

自然計算は自然科学の全域をカバーするのみならず、社会・人文科学の一部にも関わりをもつ新しい学問領域を形成しつつある。本講演では、このような広範な研究分野の一端を概説し、この新しい計算の世界への誘いとしたい。



横森 貴 (早大)

1974年東京大学理学部数学科卒業。1979年同大学理学系大学院博士課程修了(理学博士)。1989年電気通信大学情報工学科助教授。1998年早稲田大学教育学部教授。2004年早稲田大学教育・総合科学学術院教授。形式言語理論、計算論的学習理論、自然計算理論の研究に従事。情報処理学会、ACM、EATCS、JSBI、LA各会員。

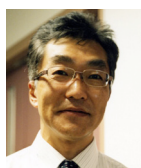


萩谷 昌己 (東大)

1980年東京大学理学部情報科学科卒業。1982年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。1988年京都大学理学博士。1992年東京大学理学部情報科学科助教授。現在、東京大学大学院情報理工学研究科教授(理学部情報科学科兼任)。論理的な側面を中心に、広く計算モデルに関する研究を行っている。最近の研究は、ソフトウェア検証、分子コンピューティング、分子ロボティクスなど。

● [9:55-10:20] 講演 (2) 「合成生物学」
【講演概要】

およそモノづくりは、概念設計から実現に至るまで系統的なアプローチをとるべきである。分子や細胞のように手に取って調べられない対象に対しては、各段階での分析・設計、試行からのフィードバックに、適切な数値モデリングと、パラメータ最適化、シミュレーション、システム構造解析等の計算機の利用が欠かせない。合成生物学の先駆的研究では、非線形システム解析の常套手段が援用されてきた。そこでは十分多くの分子が関与し、均一系の試験管内のような単純化された状況が想定されている。細胞内では、組換えられたネットワーク自体の複雑さに加えて、生体分子の局在化、少数分子のゆらぎの影響や、増殖のような想定外の事象も取り扱う必要がある。合成生物学の対象は理想化・単純化された状況から大規模・複雑・不均一なものにシフトしつつある。それらを考慮した、新たなマルチフィジックス・マルチレイヤーモデルによる機能解析について紹介する。

**山村 雅幸 (東工大)**

1989年3月東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士後期課程修了、1989年4月東京工業大学大学院総合理工学研究科助手、1996年5月同助教授、2004年1月同教授、現在に至る。

**木賀 大介 (東工大)**

1999年東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻単位取得退学、同大博士(理学)。各所でのポストドク、東京大学大学院総合文化研究科での助手を経て、2005年より東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻助教授・准教授。2009-2012年JST さきがけ「生命現象の革新モデルと展開」領域研究者を兼任。2012年より東京工業大地球生命研究所勤務。2006年より合成生物学の国際学生コンテスト東工大チームの監督。

● [10:20-10:45] 講演 (3) 「セル計算とナノ計算」
【講演概要】

近年、生体内細胞やタンパク質、DNAなどの構造や動作メカニズム解明に関する研究やその工学応用に関する研究が展開されている。ナノメートル～分子規模の大きさの素子を利用して何らかの所望の動作を行わせるためには、これらの素子を制御する同程度の規模の情報処理機構(ナノコンピュータ)を実現することが重要となる。本講演では、このような情報処理機構を実現する方法として離散計算モデルの一つである非同期セルオートマトンに基づくモデルを概説する。また、現実の分子系から実現しうるセルオートマトンモデルとその情報処理能力について紹介する。さらに、分子規模の素子構成においてブラウン運動のような熱ゆらぎを積極的に計算に利用するブラウン回路およびそのセルオートマトンによる実装について述べる。

**磯川 梯次郎 (兵庫県大)**

2001年姫路工業大学工学部情報工学科助手、2004年兵庫県立大学大学院工学研究科助手、2006年より同准教授。博士(工学)。非同期セルオートマトン、超複素数に基づくニューラルネットワークなどに関する研究に従事。IEEE、SICE、IEICE、ISCIE各会員。

**Ferdinand Peper (NICT)**

1961年生れ、オランダ出身。兵庫県在住。1985年、デルフト工科大学大学院数学研究科理論情報専攻修士課程修了、1989年、デルフト工科大学大学院情報研究科理論コンピュータサイエンス専攻博士課程修了。1990-1992年、郵政省通信総合研究所で科学技術庁のポストドクフェロー、1993-現在、総務省情報通信研究機構で現在研究マネージャ。1999年-現在、兵庫県立大学大学院工学研究科で客員教授、2011年-現在、大阪大学大学院情報学研究科で招へい教授、2013年-現在、神戸大学大学院保健学研究科客員教授。

● [10:45-11:10] 講演 (4) 「細胞膜計算」

[講演概要]

膜計算、あるいは、Pシステムと呼ばれる新しい計算モデルについて紹介する。膜計算の基礎概念・諸定義を述べた後、計算能力と計算の複雑さについて主要な結果を紹介する。後半は膜計算の考え方を組み合わせ最適化問題に応用した、膜アルゴリズムに関して、講演者自身の結果を紹介する。



西田 泰伸 (富山県大)

1978年3月京都大学理学部卒業、1983年3月京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻終了・京都大学理学博士。1983年4月富士通(株)国際情報社会科学研究所研究員。1988年9月中京大学教養部講師、1990年4月中京大学情報科学部講師。1994年4月富山県立大学工学部助教授。

● [11:10-11:35] 講演 (5) 「量子力学から量子計算へ」

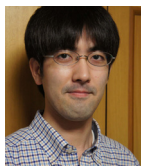
[講演概要]

現代では、ミクロな物理現象は量子力学によって説明が付くとされている。古典力学では対象としていない量子的な物理現象を利用することで、通常の計算機とは異なるコンセプトの計算機を考えることが可能となる。この講演では、量子チューリング機械、量子回路、測定ベース計算、量子断熱計算など複数の量子計算機モデルを紹介する。また、計算機以外の観点から広く計算を捉えた場合でも、量子的な物理現象を利用した興味深い計算モデルが存在する。ここでは、特に量子の非局所性や複製不可能性の利点について簡単に紹介する。



角谷 良彦 (東大)

2003年、京都大学大学院理学研究科(数学・数理解析専攻)にて博士課程を修了、学位を取得。日本学術振興会特別研究員PDを経て、2004年から東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻で助手(2007年からは助教)を務める。



本多 健太郎 (東大)

2011年 東京大学理学部情報科学科卒業。2013年 同大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士課程修了。同年より同博士課程に在学中。2014年より日本学術振興会特別研究員DC。

● [11:35-12:00] 講演 (6) 「自然計算の将来」

[講演概要]

自然計算の研究を、その研究の進行段階の観点から整理すると、次の4つのステップから成り立っていると考えられる。

- (1) 自然現象を計算の観点から観察する
- (2) その観察に基づいて計算モデルを構築する
- (3) 計算モデルを分析し普遍化する
- (4) 計算モデルを自然現象で再実装することにより計算の可能性を探求する

本講演では、自然計算の各分野が過去・現在において4つのステップのどこに位置づけられ、将来どこを目指しているのかを議論する。そして、自然計算の研究分野が今後進むべき方向性について議論する。

小林 聡 (電通大)

写真および略歴は「自然計算研究の最前線とその将来」司会紹介を参照。

横森 貴 (早大)

写真および略歴は「講演 (1) 自然計算とは」を参照。

萩谷 昌己 (東大)

写真および略歴は「講演 (1) 自然計算とは」を参照。

電子ポイント（仮想通貨や企業ポイント）について語る [パネルセッション] 9月4日（木）15:30-17:30 [第2イベント会場（3A棟4F 3A402）]

[セッション概要]

現金（通貨）を使わずに支払いをしたり、ポイントを資産のように蓄えることが頻繁に行われるようになった。中にはビットコインのように管理主体のない電子バリュー（価値）も存在する。しかし、資金決済法の枠組みの内にある財布型の電子マネーと違い、これらの電子ポイントは法的な位置づけがあいまいであり、それ故、安定性に欠く。また、企業がポイント提供の見返りに収集しているパーソナルデータやビッグデータには、その利活用と保護の両面から多くの課題が累積している。各ポイント間の相互提携やネットバンキングとの連動が更に話を複雑にしている。しかしながら企業側からしてみればポイントの付与もまた重要な経営戦略の一環である。本パネルでは、これら電子ポイントに係わる問題を法律・技術・ビジネスなど様々な立場から議論することを目指す。



司会：須川 賢洋（新潟大）

新潟大学大学院法学研究科修了（修士（法学））。専門はサイバー法で、コンピュータ犯罪、デジタル知的財産、情報セキュリティ制度、デジタル・フォレンジックなどを中心に研究。共著に「ITセキュリティカフェー見習いコンサルの事件簿」（丸善）、「実践的 e ディスカバリー—米国民事訴訟に備える」（NTT 出版）、「デジタル・フォレンジック事典」（日科技連）など。



パネリスト：山崎 重一郎（近畿大）

1957 年生れ、福岡市在住。九州大学システム情報科学府システム情報科学院博士後期課程修了。富士通、富士通研究所、現在、近畿大学産業理工学部情報学科教授。研究歴は、並列自然言語解析、モバイルエージェント、公開鍵認証基盤、電子地域通貨、web プライバシなど。



パネリスト：岡田 仁志（NII）

1988 年東京大学法学部第一類卒業、1989 年同第二類卒業。1998 年大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程修了、1999 年同博士後期課程中退、同個人金融サービス寄附講座助手を経て、2000 年国立情報学研究所人間・社会情報研究系助教授、2004 年から現職。博士（国際公共政策研究）。総務省情報通信政策研究所特別上級研究員を兼任。IEEE SSIT Japan Chapter Vice Chair、電子情報通信学会 SITE 研究会副委員長。



パネリスト：小川 央（フェリカネットワークス）

2002 年慶應義塾大学総合政策学部卒。同年入社した自動車メーカーの商品企画部門を経て、2006 年よりフェリカネットワークスにて、事業戦略策定及びおサイフケータイに関する様々な事業者とのビジネスアライアンス形成に従事。現在は新規ビジネスアライアンス推進を中心に担当。



パネリスト：秋山 謙二（トーマツ）

1998 年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。同年、監査法人トーマツ（現 有限責任監査法人トーマツ）に入所。国内監査部門に所属し、情報・通信業、放送業、新聞業、航空業など幅広い業種における監査業務およびコンサルティングに従事。2014 年 7 月に有限責任監査法人トーマツのパートナーに就任。

CPS (サイバーフィジカルシステム) 最前線 —実世界のビッグデータはどのように活用されているか— 9月5日(金) 13:00-16:00 [第2イベント会場 (3A棟 4F 3A402)]

[セッション概要]

ビッグデータ活用の代表的な1つとして、実世界とITを結び付け有益な社会の実現を目指すサイバーフィジカルシステム(CPS)が注目されている。実世界でセンサ、GPS、モバイル端末から得られた人やものの行動や状態などのデータをIT空間に取り込み、IT空間で得られた有益な情報を実世界に反映し、より良いサービスやシステムが実現されてきている。本企画では、CPSは現在どのような形で実現されているか、また、実現しようとしているかのアプリケーション面と、CPSはどのような技術によって支えられているかの技術面の両面に関して、最前線のCPSの研究者らによる特別講演にて紹介する。



司会：新谷 隆彦 (電通大)

1999年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。1998年から日本学術振興会特別研究員。2000年(株)日立製作所中央研究所研究員、2009年から主任研究員。2011年電気通信大学大学院情報システム学研究科准教授。現在に至る。データマイニングに関するアルゴリズム、並列分散処理、ライフログマイニングの研究に従事。

● [13:00-13:40] 講演 (1) 「ICTとビッグデータを活用した、安全で快適なモビリティ社会を目指して」

[講演概要]

Hondaは安全で快適なモビリティ社会実現を目指し、テレマティクスサービス「インターナビ」を2002年8月に立ち上げた。2003年にはクルマ自体がセンサーになって走行データを収集し共有する事で、渋滞を避けた最適なルート探索をする交通情報システムを世界で初めて実用化した。アップロードされるプローブデータは、2014年4月現在月約3億km、その累積距離は90億kmを超えた。その膨大なデータから様々な取り組みを行ってきており、ここではその内容を解説する。



今井 武 (本田技研)

1976年ホンダに入社して以来、情報系・ナビゲーション領域を担当。2002年に双方向情報通信サービス「インターナビ」を立ち上げる。2012年グローバルテレマティクス部部长、役員待遇参事。2011年に車両データを活用した研究開発で自動車技術会開発技術賞受賞。自動車技術会フェロー任用。同年、東日本大震災でのインターナビの取り組み「通行実績情報マップ」でグッドデザイン大賞を受賞。2012年災害情報学会廣井賞受賞。

● [13:40-14:20] 講演 (2) 「社会・産業の発展に寄与する「モバイル空間統計」

[講演概要]

携帯電話ネットワークのしくみを利用して作成される新たな人口統計情報である「モバイル空間統計」の特長や、プライバシー保護の仕組み、応用事例などを紹介する。



岡島 一郎 (NTTドコモ)

1991年NTT入社。NTTドコモの前身である移動体通信事業部に配属となり、以降、NTTドコモにおいてモバイルデータ通信サービスやモバイル空間統計などの研究開発に従事するとともに、ドコモキャピタルにおいて米国でのベンチャー投資を経験する。

● [14:20-15:00] 講演 (3) 「人流・交通流ビッグデータを活用した次世代都市経営について」

【講演概要】

次世代都市いわゆるスマートシティでは、交通・防災など社会インフラの最適化や効率的な都市経営が求められています。次世代都市経営を実現するために、時々刻々と変化する都市の『人の流れ』『交通の流れ』を把握・蓄積し、街づくりに活用することが求められています。本プレゼンでは、スマートフォンやレーザーセンサを活用した人流・交通流ビッグデータの可能性に関して紹介します。スマートフォン・プローブでは、内臓された各種センサーデータを収集するプローブシステムを用いて、保有者が利用した交通機関を推定するシステムを実証した結果を紹介します。また、レーザーセンサを用いて屋内の『人の流れ』を把握・分析するシステムに実証に関して紹介いたします。



森岡 道雄 (日立)

1959年生まれ、山口県出身。1984年九州大学大学院工学研究科修士課程卒業、1991年北米カーネギーメロン大学客員研究員、2005年九州大学大学院情報工学専攻博士課程修了、2007年から日立製作所 情報・通信システム社でスマートシティ新事業開拓に従事。

● [15:00-16:00] パネル討論 「実世界のビッグデータの活用である GPS に求められる技術と今後の課題」



司会：木俣 豊 (NICT)

1965年神戸市生まれ。1990年3月神戸大学自然科学研究科計測工学専攻修了、同年(株)神戸製鋼所入社、1999年3月神戸大学自然科学研究科情報メディア科学専攻博士後期課程修了(工学博士)、2001年4月より(独)通信総合研究所(現(独)情報通信研究機構)所属、2011年4月より同機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所長。第54回情報処理学会全国大会優秀賞、第56回前島賞、第43回市村学術貢献賞、第11回ドコモモバイル・サイエンス賞(奨励賞)。

パネリスト：今井 武 (本田技研)

写真および略歴は「講演 (1) ICTとビッグデータを活用した、安全で快適なモビリティ社会を目指して」を参照。

パネリスト：岡島 一郎 (NTTドコモ)

写真および略歴は「講演 (2) 社会・産業の発展に寄与する「モバイル空間統計」」を参照。

パネリスト：森岡 道雄 (日立)

写真および略歴は「講演 (3) 人流・交通流ビッグデータを活用した次世代都市経営について」を参照。



パネリスト：是津 耕司 (NICT)

1992年東京工業大学工学部情報工学科卒業。2005年京都大学大学院情報学研究科博士課程了。博士(情報学)。1992年日本IBM入社。2003年通信総合研究所入所、2005年情報通信研究機構研究員を経て、2011年より同ユニバーサルコミュニケーション研究所情報活用基盤研究室室長、現在に至る。京都大学連携准教授(2008-2012)。キール大学コンピュータ科学研究所招聘研究員(2009)。新世代ネットワーク推進フォーラムSWG主査(2009-2010)。電子情報通信学会データ工学研究専門委員会 副委員長(2011)。データベース、情報検索、ソフトウェア工学の研究に従事。

移行工学改め引退工学 [パネルセッション]

9月3日(水) 13:00-15:00 [第3イベント会場 (3A棟 4F 3A403)]

[セッション概要]

IT全般の問題として、「既存の技術に問題がある場合に、新しい技術を普及させて古い技術を捨て去る」ということを如何にして実現させるか、があります。そして、この既存技術の抱える問題がセキュリティ上の課題である場合には、この問題を解決できないと安全の維持が難しくなるということになります。

暗号技術はその典型例ですが、近年になってこれが話題・問題となっているのは、暗号技術もITも社会基盤化が進んでいて、昔ほど簡単には解決できなくなっているという事情が考えられます。技術の移行に加えて安全性を確保するには、古い技術を市場の外へ追いやるためにどうすればよいか、ということに取り組む必要があります。

本企画では、これを引退工学と命名し、これに必要な要素技術、知識体系などについて会場の皆様も含めて議論を交わしたいと思います。



司会：島岡 政基 (セコム)

1998年セコム株式会社入社。情報系関連会社を経て2004年よりセコム株式会社IS研究所。2005～2009年まで国立情報学研究所特任准教授(後に客員)を兼務。ネットワークセキュリティやPKIを中心とした認証基盤の研究開発に従事。情報処理学会会員、コンピュータセキュリティ研究会運営委員、セキュリティ心理学とトラスト研究会運営委員、CRYPTREC運用ガイドラインWG委員など。



パネリスト：新 誠一 (電通大)

1980年東京大学大学院修士課程修了。東京大学助手。1987年工学博士(東京大学)。筑波大学、東京大学助教授を経て、2006年より現職。計測自動制御学会前会長、フェロー。制御システムセキュリティセンター理事長。計測自動制御学会論文賞武田賞、情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ文化賞など受賞。



パネリスト：小川 隆一 (NEC)

1983年東京大学理学系修士卒、同年日本電気株式会社入社。1989年-1990年メリーランド大学客員研究員。2002年よりシステムセキュリティ、情報漏洩対策の研究開発、2007年よりクラウド運用管理、システムセキュリティの国際標準化に従事(DMTF、CSA他)。現在同社クラウドシステム研究所主幹研究員。情報処理学会、電子情報通信学会、情報ネットワーク法学会会員。



パネリスト：高橋 正和 (日本マイクロソフト)

日本マイクロソフト株式会社のチーフセキュリティアドバイザーとしてセキュリティへの取り組みを日本に紹介するとともに、日本のユーザーからの要望を反映させるべく取り組んでいる。基本ソフトの開発、品質管理を経て、セキュリティコンサルティングビジネスを立ち上げ、セキュリティオペレーションセンターの構築支援などを経て、2006年に現職に就任。



パネリスト：神武 直彦 (慶大)

大学院修了後、宇宙開発事業団入社。H-IIA ロケットの研究開発と打上げに従事。欧州宇宙機関(ESA)研究員を経て、宇宙航空研究開発機構主任開発員。国際宇宙ステーションや人工衛星の開発および宇宙機搭載ソフトウェアに関するアメリカ航空宇宙局、ESAとの国際連携の統括に従事。2009年度より慶應義塾大学准教授。大規模・複雑システムのデザイン、特に、人工衛星などを活用した課題解決システムのデザインとマネジメントに関する研究に従事。アジア工科大学院客員准教授。博士(政策・メディア)。情報処理学会、電子情報通信学会、日本航空宇宙学会、ACM、IEEE、AIAA、INCOSE各会員。

新しい個人情報保護の枠組みとパーソナルデータの匿名化措置はどうか？

[パネルセッション]

9月3日(水) 15:30-17:30 [第3イベント会場 (3A棟 4F 3A403)]

[セッション概要]

ビッグデータの活用が期待されて久しいが、膨大なプライバシー情報から個人が特定されるリスクがしばしば課題となり本格的なビジネス応用の足かせとなっている。これに対して、我が国では2015年に改正が予定されている個人情報保護法案により、本人同意を得ることなく匿名化されたビッグデータの第三者への提供が可能になると言われている。

そこで、本パネルでは法制度、匿名化技術、秘匿計算技術などの専門家らによって、この新しい保護法の枠組みを解説し、そこに潜む課題を明らかにしていく。その上で、適切な安全管理措置や匿名化措置の方法とビッグデータの活用方法を展望する。



司会 / パネリスト：菊池 浩明 (明大)

1990年明治大学院博士前期課程修了。1994年同博士(工学)。(株)富士通研究所、東海大学情報通信学部を経て、2013年より明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科教授。電子情報通信学会、日本知能情報ファジィ学会、IEEE、ACM各会員。本学会フェロー。



パネリスト：森 亮二 (英知法律事務所)

弁護士・米国ニューヨーク州弁護士。専門はインターネットの法律問題。ビッグデータとの関係では、現在、内閣官房「電子行政オープンデータ実務者会議 ルール・普及 WG」委員、内閣官房「パーソナルデータに関する検討会」委員、同「技術検討 WG」委員などを務めている。近著は、「ビッグデータ時代のライフログ」(共著) 東洋経済 2012、「クラウドビジネスと法」(共著) 第一法規 2012、「ソーシャルメディア活用ビジネスの法務」(共著) 民事法研究会 2013。



パネリスト：高木 浩光 (産総研)

1994年名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了(博士(工学))。通商産業省工業技術院電子技術総合研究所を経て、2001年より独立行政法人産業技術総合研究所。2005年情報セキュリティ研究センター主任研究員。2012年より現職。2013年7月より内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)兼任。コンピュータセキュリティに関する研究に従事。



パネリスト：石井 夏生利 (筑波大)

1996年11月司法試験二次合格、1997年3月東京都立大学法学部卒業、2007年3月中央大学大学院法学研究科国際企業関係法専攻博士後期課程修了、博士(法学)。1999年4月から弁護士業務、企業法務、2004年11月から情報セキュリティ大学院大学助手、助教、講師、准教授を経て、2010年4月より現職。



パネリスト：矢野 敏樹 (アジアインターネット日本連盟)

グーグル株式会社公共政策カウンセラー。1997年弁護士登録。寒河江・矢野法律事務所、外務省経済局課長補佐、外資アパレル法務部を経て現職。グーグル株式会社が幹事長社を務めるアジアインターネット日本連盟(Asia Internet Coalition Japan, AICJ)として参加。

時空間を制限したプライバシー情報保護活用のための社会基盤の構築に向けて 9月4日(木) 9:30-12:00 [第3イベント会場 (3A棟 4F 3A403)]

[セッション概要]

携帯端末の高性能化や普及、TwitterやFacebookをはじめとするソーシャルネットワークサービス(SNS)の台頭により、個人に関わる膨大なデジタルデータ(ライフログ)を含んだ様々なデータがインターネット上に蓄積されつつけている。一方で、蓄積されたライフログに対して、災害時や緊急時に必要となる個人情報や属性情報の利活用が困難になっており、災害時や緊急時において、通信を介して個人情報を利活用できる情報システムが求められている。本パネルディスカッションでは、時間軸(災害時など特別な場合)、空間軸(実世界における特別な場所)におけるプライバシー情報保護活用基盤の社会の要請について議論する。具体的には、時間軸におけるプライバシー情報保護活用基盤として、行政や民間と個人のライフログデータを連携させて一元管理し、ライフログ利用が自律的に地域分散で判断処理できる情報システムについて議論する。一方、空間軸におけるプライバシー情報保護活用基盤については、プライバシー情報の中でも人間の内面的な情報(趣味、嗜好、行動傾向、購買傾向など)を積極的に開示可能な特別な場所において、ソーシャルメディアとセンシングデータの融合や情報活用・情報推薦の手法、ユーザのプライバシー情報の開示とユーザの得る利得がマッチするプライバシー情報保護活用基盤について議論する。



司会：岡本 学 (NTT)

1989年九州芸工大・芸術工・音響設計卒。1991年同大大学院情報伝達専攻修了。2007年九大・芸術工博士課程後期単位取得退学。1991年NTT入社。以来、通信システム音響系の構築技術・再生方式、およびICTサービスのシステム設計等の研究開発に従事。現在NTTサービスエボリューション研究所主幹研究員。日本音響学会、電子情報通信学会、IEEE各会員。博士(芸術工学)。

● [9:30-9:40] オープニング

● [9:40-9:50] 講演 (1) 「話題提供とIDデータコモンズの可能性」

[講演概要]

携帯端末の高性能化や普及、TwitterやFacebookをはじめとするソーシャルネットワークサービスの台頭により、個人に関わる膨大なデジタルデータ(ライフログ)がインターネット上に蓄積されつつけている。一方で、蓄積されたライフログに対して、災害時や緊急時に必要となる個人情報や属性情報の利活用が困難になっており、通信を介して個人情報を利活用できる情報システムが求められている。本提案は、時間軸(災害時など特別な場合)、空間軸(実世界における特別な場所)におけるプライバシー情報保護活用基盤の構築について提案する。特に、時間軸におけるプライバシー情報保護活用基盤として、行政や民間と個人のライフログデータを連携させて一元管理し、ライフログ利用が自律的に地域分散で判断処理できる情報システムを提案する。具体的には、個人情報や個人属性情報を用いて、被災地のどこに誰が住んでおり、その人は子供か大人か、手助けのいる人か、あるいは寝たきりなのか、など適切な救援や救助計画を素早く策定する方法について議論する。



曾根原 登 (NII)

1978年、NTT入社。以後、ファクシミリの研究実用化、コンテンツ流通システム等の研究実用化に従事。1988年～1992年、国際電気通信基礎研究所(ATR)視聴覚研究所出向。2004年より、国立情報学研究所情報流通基盤研究部門 教授。情報流通システム、認証システムの研究開発に従事。2006年～現在 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 研究主幹・教授。1999年～2003年、東京工業大学連携講座 客員教授。工学博士。電子情報通信学会、映像情報メディア学会、画像電子学会など会員。

● [9:50-10:00] 講演 (2) 「公的統計データとオープンデータの活用」
【講演概要】

統計法の 2007 年 60 年ぶりの大改正により、公的統計は、「国民にとって合理的な意思決定を行うための基盤となる情報」として位置づけられた。また、「公的統計は、広く国民が容易に入手し、効果的に利用できるものとして提供されなければならない」とされた。特に、国勢統計、国民経済計算を含む基幹統計は、全国的な政策の企画立案・実施、民間の意思決定や研究活動などに資するものとして位置づけられており、国民には正しい報告を行う義務が課されている。もちろん、公的統計の作成に用いられた個人又は法人などの秘密は保護することも規定されている。一方で、統計作成に利用された調査票情報（マイクロデータ）は、統計の作成あるいは公益性のある研究・教育に利用できる二次利用制度も立ち上がった。さらに、匿名化されたデータの提供も開始されている。現在、二次的利用制度としてのオーダーメード集計は、研究教育目的以外の民間利用も認めてはという流れが生まれつつある。マイクロデータを適切にモデル化することを通じた意思決定の質は、これまでの集計データよりもかなり向上する。それだけに、このデータが特定の地域、法人の不利益となるような利用が行われることについては監視が必要である。

**樫 広計 (統計数理研)**

1982 年東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了、1982 年東京大学工学部計数工学科助手、1987 年慶應義塾大学理工学部数理科学科講師、1997 年筑波大学社会学系助教授、2000 年同教授、2013 年同名誉教授、2007 年統計数理研究所教授、2010 年同副所長、現在に至る。専門は応用統計学。応用統計学会長、統計関連学会連合理事長、日本品質管理学会副会長、統計審議会委員、内閣府統計委員会匿名データ部会長などを歴任。

● [10:00-10:10] 講演 (3) 「政府・自治体における個人データの「時効」とアーカイブ」
【講演概要】

公文書館（近現代的な公的アーカイブ）の運営においては、記録・情報の作成時には秘匿されるべきものであっても、「時の経過」とともに秘匿すべき事情が消滅し、公開してよい情報がある、とする考え方が、世界的観点でも定着を見ている。こうした「時の経過」＝「時効」は、個人データについてはどの程度当てはまるだろうか。また、情報の性質自体が変化する中で、個人データの「時効」をどのように考えればいいのか。本講演では、「忘れられる権利」をめぐる最近のアーカイブ関係者の議論も参照しながら、時間軸を意識したプライバシー情報・個人情報の保護・活用について、ささやかな問題提起を行いたい。

**古賀 崇 (天理大)**

1996 年 3 月に東京大学法学部政治コース卒業後、東京大学大学院教育学研究科修士・博士課程および米国シラキュース大学情報学大学院修士課程にて図書館情報学を学ぶ。国立情報学研究所 (NII) 助手・助教 (2004 年 4 月～2008 年 12 月)、京都大学附属図書館研究開発室准教授 (2009 年 1 月～2012 年 3 月) などを経て、2012 年 4 月より現職。政府情報の管理・保存・アクセスに関する制度・政策的課題、情報政策一般、博物館・図書館・文書館の連携などに研究関心をもつ。現在、国際図書館連盟 (IFLA) 政府情報・官庁刊行物分科会 (GIOPS) 委員、記録管理学会理事・編集委員、日本図書館情報学会理事、日本図書館協会国際交流事業委員会委員。

● [10:10-10:20] 講演 (4) 「救急医療における個人情報管理」
【講演概要】

個人情報保護の名目で個人に関わるデータを「個人の幸福」、「科学の発展」のために利用できない状況は、演者の知りうる狭い医療の領域においても、何 10 年と続く文化である。「リスクのある限り認めない」意見と「多少のリスクは認める」意見が仮に正規分布するならば、 -2σ 以上の人 (97.7%) が「(良いことや医療の進歩のためには) 多少のリスクは認める」と答えると思えるのに、利活用の基準は -2σ 以下に fix されたままである。災害時や緊急時にさえ利用できない個人情報、それはシステム以前の問題のように思える。FIT に集うみなさんに、利活用の基準を右に振る文化を醸成し、生命が助けられる大きな力を発揮していただけるよう、医療の側からみた風景をお話したい。

**倉本 秋 (高知医療再生機構)**

1976 年東京大学医学部卒業。東京大学消化管外科学助教授を経て、1998 年高知大学医学部附属病院総合診療部教授、2003 年同病院長。2010 年より現職。医療の現場、医療を取り巻く環境や、さらにその周辺に興味を持って活動している。総務省 2010 年事業で、ICT 利活用による「地域医療連携ネットワーク構築」や、「救急医療情報連携システム構築」を高知県で実施。NII 客員教授、日本専門医機構理事などを兼任。

● [10:20-10:30] 講演 (5) 「空間軸を限定したプライバシー情報保護活用基盤」

【講演概要】

プライバシー関連研究の動向として、プライバシー情報の「保護一辺倒」から「適切な保護と開示の両立」に推移することの重要性を述べる。プライバシー情報の取り扱いに、益々敏感になりつつあるのが、今日の社会の様相といえる。新しいサービスを作り出すには、プライバシー情報の適切な「開示」が必要となるが、いつ、いかなる場所においてもその開示を求めるのは不可能である。本講演では、フィールドと呼ぶ、特定の目的・用途のために確立されている実世界の中の限られた空間を対象に、フィールド来場者のプライバシー情報の「開示」と来場者が得る「利得」が調和する情報基盤 HIFI (Harmonized Information Field) について述べる。



馬場口 登 (阪大)

1979年大阪大学工学部通信工学科卒業、1981年同大学大学院前期課程修了。現在、大阪大学大学院工学研究科教授。1996-97年カリフォルニア大学サンディエゴ校文部省在外研究員。工学博士。マルチメディア処理、視覚的プライバシー保護処理に関する研究に従事。PCM2006、IAS2009Best Paper Award、FIT2009論文賞。電子情報通信学会フェロー。PRMU 研専・EMM 研専元専門委員長。

● [10:30-10:40] 講演 (6) 「プライバシー情報の保護と活用を両立させる技術基盤」

【講演概要】

プライバシー情報の保護と活用に関して、暗号分野から貢献の可能性について述べる。暗号技術はもともと情報を秘匿するもので、暗号鍵の管理を行うことで情報の秘匿と開示を制御してきたが、近年はその概念を超えて、多様できめ細やかな情報の制御が可能になっている。紹介する技術は、時間や場所や人といった条件によって開示の制御ができる暗号(インテリジェント暗号)、複数人の合意によって開示の制御ができる暗号(秘密分散)、情報の開示ではなく統計などの所定の計算結果のみが開示される暗号(秘密計算)などを含む。また現在注目の匿名化技術についても述べる。情報の保護と活用の両立のためには、暗号等の情報技術をベースに人を含む系のマネジメントを融合した基盤を構築することが重要であることを提案し議論の一助とする。



高橋 克巳 (NTT)

1988年東京工業大学理学部卒。2006年東京大学大学院情報理工学系研究科博士後期課程修了。1988年NTT入社。以来、情報検索、データマイニング、暗号、情報セキュリティ、プライバシー保護の研究開発に従事。博士(情報理工学)。

● [10:40-10:50] 休憩

● [10:50-11:50] パネル討論

パネリスト：曾根原 登 (NII)

写真および略歴は「講演 (1) 話題提供と ID データコモンズの可能性」を参照。

パネリスト：椿 広計 (統計数理研)

写真および略歴は「講演 (2) 公的統計データとオープンデータの活用」を参照。

パネリスト：古賀 崇 (天理大)

写真および略歴は「講演 (3) 政府・自治体における個人データの「時効」とアーカイブ」を参照。

パネリスト：倉本 秋 (高知医療再生機構)

写真および略歴は「講演 (4) 救急医療における個人情報管理」を参照。

パネリスト：馬場口 登 (阪大)

写真および略歴は「講演 (5) 空間軸を限定したプライバシー情報保護活用基盤」を参照。

パネリスト：高橋 克巳 (NTT)

写真および略歴は「講演 (6) プライバシー情報の保護と活用を両立させる技術基盤」を参照。

● [11:50-12:00] クロージング

イノベーションを生み出すビジネスモデルに直結した情報システムを構築するには [パネルセッション]

9月4日(木) 15:30-17:30 [第3 イベント会場 (3A 棟 4F 3A403)]

[セッション概要]

新しいビジネスモデルによってイノベーションが生み出され、事業の業績や成長がそのビジネスモデルに左右される時代になってきた。ビジネスモデルを実現するためには、情報システムの迅速な構築がポイントである。本セッションでは、ビジネスモデルに直結した情報システムを構築する技術について議論する。講演では、ビジネスモデルの最新動向を概観し、具体的なビジネスモデルを紹介する。これを受けてパネル討論では、ビジネスモデルと情報システムの両面から、ビジネス要件定義手法やビジネスモデルの分析・可視化技術、ビジネスモデルを実現する情報システムのモデリング技術などについて議論する。情報系研究者はもちろん、経営者、CIO、情報システムの実務家にぜひ聞いて欲しい内容。



司会：須栗 裕樹（宮城大）

2004年岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究所博士後期課程修了。博士（ソフトウェア情報学）。コンピュータメーカー、ソフトハウス等勤務を経て2009年より現職。電子情報通信学会 情報・システムサイエティ ソフトウェアインタプライズモデリング研究専門委員会委員長。

● [15:30-16:00] 講演「ビジネスモデルの最新動向とプラットフォームビジネス」

[講演概要]

携帯端末や新しい通信技術、センサーなどの普及によって、インターネット業界にとどまらずに、「モルタル型」と言われた従来型の産業においても新しいビジネスモデルが次々と生まれている。本講演では、新しいビジネスモデルをプラットフォームビジネスなどのいくつかのパターンに分類し、具体的な事例を紹介する。また、ビジネスモデルの核になる価値命題（顧客価値）のポイントを説明し、コトづくり、エコシステム、共創といったキーワードを提示する。



浜屋 敏（富士通総研）

株式会社富士通総研経済研究所 研究主幹。1986年京都大学法学部卒業。同年、富士通株式会社に入社後、富士通システム総研（現在の富士通総研）に転向。1993年、米ロチェスター大学ビジネススクール卒業。MBA。専門は経営情報システム論。

● [16:00-17:30] パネル討論

パネリスト：浜屋 敏（富士通総研）

写真および略歴は「講演 ビジネスモデルの最新動向とプラットフォームビジネス」を参照。



パネリスト：片岡 信弘（元東海大）

1968年大阪大学大学院工学研究科卒業、三菱電機入社。1992年ソフトウェア生産性技術センター長。1994年情報システム技術センター技術部長。全社のソフトウェア生産性向上およびERP導入を推進。2000年-2011年東海大学教授。ビジネスモデル/ビジネスメソッド記述方式、ビジネスプロセスモデリングの研究に従事。電子情報通信学会ソフトウェアインタプライズモデリング研究専門委員会元委員長。電子情報通信学会フェロー。博士（情報科学）



パネリスト：見玉 公信（情報システム総研）

東京都立大学（心理学専攻）卒業。石油元売り、大学受託研究員、鉄鋼系情報子会社を経て、現在、(株)情報システム総研取締役副社長/モデラー。技術士（情報工学部門）。博士（情報学）。ドメインモデリングとシステム思考に基づき、いくつかの基幹情報システム再構築プロジェクトを情報システムアーキテクトとして主導。学習院大学ほかで非常勤講師。情報処理学会技術士委員会委員長、文部科学省科学技術・学術審議会専門委員。

コミュニティによるものづくりとサイバーワールド 9月5日(金) 10:00-12:00 [第3イベント会場 (3A棟 4F 3A403)]

[セッション概要]

ものを作る人、使う人が一体となってオープンなコミュニティを形成しそれぞれの持つ知識や技術を連携させることによって新たなサービスや製品を生み出すものづくりが活発化してきています。本企画では、コミュニティを形成し、ものづくりを支えているサイバーワールドに焦点をあてます。実際にコミュニティの活動内容やその周辺のビジネス、関連する技術・研究に関して講演・議論を行います。



司会：岡田 忠 (茨城大)

1971年、茨城県鹿嶋市生まれ。2012年茨城大学大学院 理工学研究科 情報・システム科学専攻 博士後期課程。情報保全、危機管理、パケット解析、Linuxを用いたシステムに関する評価、検証、システム構築。LinuxPCに関する評価、検証、システム構築及び推進、プロジェクトマネジメントなど従事。委員として、2006年から日本OSS推進フォーラム デスクトップ部会 メンバー。国際情報化協力センター (CICC) アジアOSS普及推進小委員会委員。電子情報通信学会第二種研究会サイバーワールド研究会専門委員。

分野、資格：OSS、情報セキュリティ、IT農業、教育IT、スポーツIT等。クライシスマネージャ (安全保障危機管理士)、第二種電気工事士など

研究会・勉強会：デジタルフォレンジック研究会、社会情報学勉強会 SocioInfo 及びセキュリティ安全保障勉強会 SecInfo 主宰。

所属学会：電子情報通信学会、情報処理学会、日本国際情報学会、安全保障・危機管理学会、IT農業プロジェクト

● [10:00-11:00] 講演 (1) 「ニコニコ学会 β にみる共創プラットフォームの形成」

[講演概要]

ニコニコ学会 β は「ユーザー参加型研究」の世界の実現を目標とした学術団体であり、プロの研究者と共に、研究を本業としない「野生の研究者」が参加している。2011年12月に第1回ニコニコ学会 β シンポジウムを開催し、2014年4月まで計6回、年2回のペースで開催している。シンポジウムはニコニコ生放送で生中継され、毎回5～10万程度の視聴者を集めている。詳細は、拙著『進化するアカデミア』にまとめている。現在、ファブラボや Maker Faire といったユーザー主体のイノベーション、すなわち「ユーザーイノベーション」が提唱されているが、ユーザー参加型研究はその一例である。この世界は日々進歩が続けられており、わくわくするような興奮を覚えている。このような一般市民の参加による共創を支える土台を「共創プラットフォーム」と呼び、研究している。このような市民参加型の新しい産業基盤・研究環境の可能性について紹介する。



江渡 浩一郎 (産総研)

独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員／ニコニコ学会 β 実行委員長／メディアアーティスト。東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。博士 (情報理工学)。ニコニコ学会 β は、グッドデザイン賞ベスト100、アルス・エレクトロニカ賞を受賞するなど高い評価を受ける。産総研では「利用者参画によるサービスの構築・運用」をテーマに研究を続ける。主な著書に『パターン、Wiki、XP』、『進化するアカデミア』。

● [11:00-12:00] 講演 (2) 「「ウェブを、確かなものに。」～セキュリティとオープンコラボレーション」

[講演概要]

大災害後のインターネットにおける数々の対応に関する実態・教訓から、IT社会におけるウェブサイトのあり方は大きく変化しており、同時にインターネットを活用する経済基盤を維持するためのリスクもコストも大きくなっている。この状況を見据えつつ、インターネット社会の安全性を高めるためには、共通目的のある人々から成る技術面でのオープン・コラボレーションが不可欠である。OWASPの各種プロジェクトの取り組みによる各種ツールやガイドラインなどを紹介し、コミュニティの可能性について考察する。



岡田 良太郎 (アスタリスク・リサーチ)

兵庫県神戸市出身。2004年 Web Application Security Forum の設立、理事就任。2006年より8年間、情報処理推進機構 (IPA) 研究員として8年の経験を持ち、地方自治体のIT調達戦略調査、ITによる災害対応などを担当した。2006年に設立した株式会社アスタリスク・リサーチにてセキュリティガバナンスの事業を推進。2011年より国際的なセキュリティ推進組織 OWASP の Japan 代表を務める。IPA 国際標準推進センター・マーケット分析 WG 主査、ビジネス・ブレイクスルー大学大学院客員研究員。公認情報システム監査人 (CISA)、MBA (BBT、2009)。

The 2nd ARC/CPSY/RECONF High-Performance Computer System Design Contest (第2回 高性能コンピュータシステム設計コンテスト)

9月5日(金) 13:00-16:00 [第3 イベント会場 (3A 棟 4F 3A403)]

[セッション概要]

今後よりいっそう高度化・多様化が進むコンピュータシステムの基盤技術を支える研究者・技術者の育成と交流・研究開発の成果検証を目的に、コンピュータシステムの設計を競うコンテストを開催します。コンテスト参加者には、複数のアプリケーション課題に対して処理性能を高める事を目標として、FPGA ボード上で動作するコンピュータシステムを予め設計してもらいます。当日はコンテスト参加者の設計したコンピュータシステムを持ち寄り、実際に会場で動作させることで性能を競います。プロセッサ技術・アーキテクチャ技術・リコンフィギャラブル技術や関連技術について、先端の研究開発の成果をアピールする機会となることを目指します。

[競技部門] 本コンテストは2つの競技部門を設けております。

プロセッサ設計部門

プロセッサアーキテクチャを如何に高性能にするかを競う部門。基本的なアプリケーションで性能を競う。

コンピュータシステム設計部門

応用に近いアプリケーションで、複数種類の処理の組合せでシステムトータルの性能を競う。

[企画]

情報処理学会 計算機アーキテクチャ研究会
 電子情報通信学会 コンピュータシステム研究専門委員会
 電子情報通信学会 リコンフィギャラブルシステム研究専門委員会

[コンテスト WEB サイト]

<http://aquila.is.utsunomiya-u.ac.jp/contest/>

● [13:00-13:20] 趣旨説明・予選結果報告



司会：大川 猛 (宇都宮大)

2003年東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了。同専攻でポスドクを1年間勤めた後、2004年に産業技術総合研究所に入所。以来、組込み・FPGA向けのソフトウェア・ハードウェア協調システム設計手法に関する研究に従事。2009年から(株)トプスシステムズにて、独自のヘテロジニアスマルチコアの研究開発を行った後、2011年12月に宇都宮大学大学院工学研究科情報システム科学専攻に着任(助教)。ACM、情報処理学会、電子情報通信学会各会員。

● [13:20-14:30] ポスターセッション



座長：佐藤 幸紀 (北陸先端大)

2006年東北大学大学院情報科学研究科・博士課程修了、博士(情報科学)。同年半導体ファブレスのベンチャー企業に入社し携帯機器向け圧縮音楽再生専用マイクロプロセッサの研究開発や東北大学 民間等共同研究員として組込みプロセッサシステムの低電力化に関する研究開発に従事。2007年より北陸先端科学技術大学院大学 助教(情報社会基盤研究センター)。計算機アーキテクチャ、高性能計算システムやその応用、カスタムコンピューティング技術に関する研究に従事。

● [14:30-15:10] プロセッサ部門決勝戦



司会：塩谷 亮太 (名大)

2011年東京大学大学院 情報理工学系研究科 電子情報学専攻 博士課程修了、博士(情報理工学)。同年より名古屋大学大学院 工学研究科 助教、現在に至る。

● [15:10-15:50] コンピュータシステム部門決勝戦



司会：谷川 一哉（広島市大）

2004年広島市立大学大学院博士後期課程修了。博士（情報工学）。2004年-2007年、大学院情報科学研究科情報工学専攻助手、2007年-2012年、同 助教、2012年同 講師、現在に至る。主としてリコンフィギャラブルプロセッサや、リコンフィギャラブルプロセッサ用コンパイラに関する研究に従事。情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE 各会員。

● [15:50-16:00] 表彰式・クロージング

司会：大川 猛（宇都宮大）

写真および略歴は「趣旨説明・予選結果報告」を参照。

講演論文集の内容

発行日 平成 26 年 8 月 19 日

講演論文集 第 1 分冊

査読付き論文

分野 C：ハードウェア・アーキテクチャ

一般論文

分野 A：モデル・アルゴリズム・プログラミング

分野 B：ソフトウェア

分野 C：ハードウェア・アーキテクチャ

講演論文集 第 2 分冊

査読付き論文

分野 D：データベース

分野 F：人工知能・ゲーム

一般論文

分野 D：データベース

分野 E：自然言語・音声・音楽

分野 F：人工知能・ゲーム

分野 G：生体情報科学

講演論文集 第 3 分冊

査読付き論文

分野 I：グラフィクス・画像

分野 J：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

分野 K：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

一般論文

分野 H：画像認識・メディア理解

分野 I：グラフィクス・画像

分野 J：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

分野 K：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用

講演論文集 第 4 分冊

査読付き論文

分野 L：ネットワーク・セキュリティ

分野 O：情報システム

一般論文

分野 L：ネットワーク・セキュリティ

分野 M：ユビキタス・モバイルコンピューティング

分野 N：教育・人文科学

分野 O：情報システム

講演論文集 DVD-ROM

上記全論文およびプログラムを収録（著者、所属、キーワードによる索引付き）

展示会の御案内

FIT2014 では会期中、以下による展示会を開催致します。

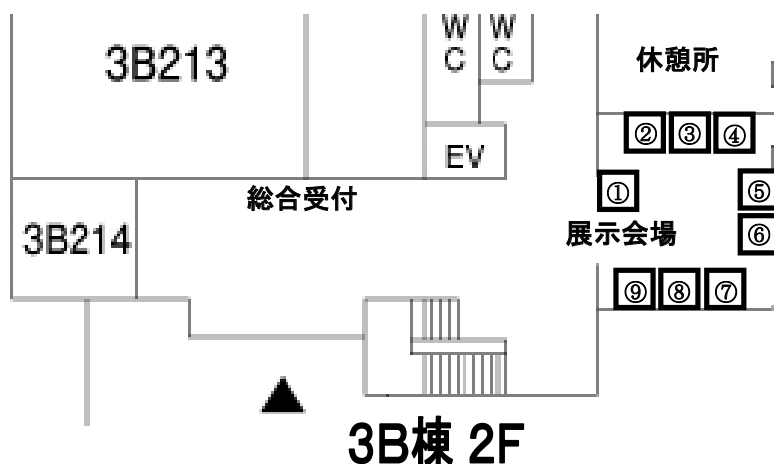
展示会場：3B 棟 2F ラウンジ（総合受付隣り）

展示日時：9月3日(水)・4日(木) 9:30-17:00、5日(金) 9:30-15:00

ブース番号	出展者名・出展者 Web サイト・展示名 展示概要
①	<p>ソニービジネスソリューション株式会社[http://www.sonybsc.com/]</p> <p>デジタルペーパーソリューション</p> <p>デジタルペーパーを利用したペーパーレス会議を実現するソリューションです。今まで紙で配布されていた資料を電子化。資料への書き込みなど紙での使用感を損なわずに会議の効率化を実現します。</p> <p>＜デジタルペーパーソリューションの特長＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議参加者にデジタルデータで資料を配布するため、会議運営者は資料のコピーや直前の資料差替えなどの作業効率を高めめます。 ・会議室から持ち出したくない資料も会議が終了するとデジタルペーパーから自動で資料を消去できるので、情報漏えいが防げます。 ・13.3型（A4サイズ相当）の大画面ディスプレイでA4サイズの書類もそのまま表示が可能です。 ・紙に近い感覚で会議資料や白紙のノートに付属のスタイラスペンで自由に書き込めます。 ・1回の充電で約3週間使え、充電の頻度を抑えることができます。 <p>詳細:http://www.sony.jp/digital-paper/</p>
②	<p>Springer[http://www.springer.com/]</p> <p>英文書籍展示</p> <p>Springer では、情報科学分野の優れた研究成果を発信するため、国際会議 Proceedings を出版するシリーズである LNCS (Lecture Notes in Computer Science)とその姉妹編である CCIS (Communications in Computer and Information Science)を刊行しています。現在、両者について企画を公募しており、大会ブースでは書籍の展示に加え、ご希望の方には出版ガイダンスも行います。</p> <p>1973年に創刊した LNCS は、現在まで 8000 タイトル以上を教え、世界中の研究者から支持をいただけてきました。一方 CCIS は、LNCS を補完するシリーズとして 2007 年に創刊された若いシリーズですが、発行点数はすでに 400 巻を超えています。審査基準はほぼ LNCS と同じですが、審査期間が通常 2~4 週間と早いのが特長です。(いずれも冊子体買い取り義務などの費用負担はなく、審査では学術的水準の高さのみが問われます。)</p>
③	<p>ファイア・アイ株式会社[http://www.fireeye.co.jp/]</p> <p>学術・教育機関を狙う高度なサイバー攻撃対策</p> <p>学術・教育機関へのサイバー攻撃は、産業別攻撃先で世界第 6 位、日本では第 3 位となっており、それを裏付けるかのように大学を始めとする教育機関でセキュリティ事故が発生しております。この現状は、セキュリティ対策の不備では無く、現状のセキュリティ技術では対応出来ない高度で複雑な攻撃へと変わってきている結果です。攻撃者のテクノロジーが次世代へと移行してため、その対策も新しい技術で防御していく必要があります。また、攻撃を受けた場合、被害者になるだけでなく、踏み台として利用されることで加害者になるリスク例も増えています。</p> <p>ファイア・アイでは、セキュリティ対策技術の再考として、本当に悪い活動を行う脅威のみを炙り出すためだけに開発した技術、一般的なサンドボックスとは一線を画す「仮想実行環境解析テクノロジー」で、アンチサンドボックス技術に検知されず、複雑なマルチフローの脅威解析を行うソリューションを展示しております。</p> <p>詳細:http://www.fireeye.com/jp/ja/products-and-solutions/threat-protection-platform.html</p>
④	<p>岩淵技術商事株式会社 東京デバイス事業部[http://tokyodevices.jp/]</p> <p>脳波・筋電・脈拍など生体情報を利用したアプリケーションの開発キット</p> <p>昨今、筋電や脳波などの生体情報が注目されていますが、研究や製品開発に利用するためには高度な電子回路の知識が必要です。弊社が運営する「東京デバイス」では、研究者がプロトタイプに組み込む用途を前提とした各種生体情報センサを開発しています。今回展示する筋電センサ IWS940、脈拍センサ IWS900、脳波測定ヘッドバンド B3-Band は、いずれも電子回路の設計が不要で、一般的なプログラミングの知識のみで容易に生体情報を利用できます。ロボティクス、福祉支援、入力インタフェース、教育、ゲーム、アートなど様々な分野に応用可能です。</p> <p>詳細:http://tokyodevices.jp/items/168</p>
⑤	<p>株式会社インフォテック・サーブ[http://www.infotech-s.co.jp/]</p> <p>情報技術教育用の教材＜展示と教材見本送付(無料)の受付＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材見本の展示 アルゴリズム/J a v a / C 言語/システム開発/システム設計/ I T テクノロジー/データベース/オブジェクト指向/基本情報技術者試験/ I T パスポート試験/応用情報技術者試験…他 ・教材見本送付(無料)の受付 次年度以降の教材検討用に、教材見本の無料送付を展示ブースで受け付けます。 ・会社紹介 1998年に設立し、「情報技術教育用の教材出版」を中心に手掛けています。全国の大学・企業・専門学校・高等学校等 400 を超える団体に採用いただき、指導ガイド・スライド教材・確認テスト等の補助教材が充実しているのが特徴です。一般書店への陳列は行っていないため、内容の確認ができる展示ブースへ是非ともお立ち寄りください。 (※情報技術教育用の教材開発・改定に関するご要望も承ります。) <p>詳細:http://www.infotech-s.co.jp/syuppan/syuppan_s00.html</p>

ブース 番号	出展者名・出展者 Web サイト・展示名 展示概要
⑥	<p>KEEPPAD JAPAN 株式会社[http://www.keepad.com/jp]</p> <p>講演者と参加者、先生と生徒の双方向コミュニケーションの加速を実現！</p> <p>TurningPoint オーディエンス・レスポンス・システムは、シンプルな投票ソフトとレスポンス機器を利用して、生徒や参加者を引き込む活気ある授業やプレゼンテーションに変えるツールです。掌サイズのクリッカーという機器のボタンを押すことによって、瞬時にパソコン上でアンケートの集計結果がグラフで表示される集計システムです。参加者が択一問題の答えの番号を選択することによって、講演者はどの程度内容を把握しているか、どの番号の意見が多かったかをデータとして即座に把握できます。ポータブルタイプの電子黒板・eBeamEdge は取りつけるだけで、お手持ちのホワイトボードや黒板が電子黒板になります。軽く持ち運びが自由なので、移動に便利です。書き込んだデータはコンピュータに保存され、何度でも表示することができます。また、ミーティング機能を使用することによって、リアルタイムで世界中と画面の共有が可能です。</p>
⑦	<p>株式会社エスベラントシステム[http://www.ess-g.com/]</p> <p>ビッグデータ超高速検索・加工・集計ソリューション</p> <p>昨今、ビッグデータを活用した「経営戦略」「売上予測」等を行おうとしている企業が増えています。弊社では「Aktblitz II, III」を使用したビッグデータの分析を推奨・サポート致します。</p> <p>【Aktblitz II, IIIの特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高速処理 独自 LFM 技術により、大規模データをメモリ上にリアルに展開して処理するため、表示・検索・ソート・集計・JOIN・演算など超高速処理を行います。 ・大規模データの取り扱い 10 万行から 1 億行 (64bitPC 時) 迄、幅広いデータレンジに対応。 ・外部データ連携 テキストファイル(カンマ区切り, Tab 区切り)、OracleDB、SQLServer、Excel とデータ入出力が可能。(Excel は出力のみ対応) ・マクロ 操作結果ログをマクロとして再利用することにより、バッチ処理の構築が可能。 操作結果のマクロをワンタッチで Java プログラムにコンパイルし、テスト済みのライブラリ (部品化) として登録可能。これにより、ユーザのバッチ処理業務プログラムを容易に、短期間で作成することが可能。 <p>詳細:http://www.ess-g.com/aktblitz</p>
⑧	<p>ローグウェーブ ソフトウェア ジャパン株式会社[http://www.roguewave.jp/]</p> <p>工数削減、生産性の向上に役立つ高度な開発ツール</p> <p>数値計算・統計解析用ライブラリ -「IMSL ライブラリ」、大規模並列アプリケーション開発向けデバッガ -「TotalView」をはじめとするローグウェーブソフトウェアが提供する高性能アプリケーション開発に役立つソフトウェアをご紹介します。</p>
⑨	<p>独立行政法人 科学技術振興機構[http://foresight.jst.go.jp/]</p> <p>ICSTI2014inTOKYO の開催及び JST 情報事業のオープン化について</p> <p>JSTでは、10/20-21 に日本科学未来館にて、「ICSTI 2014 in TOKYO」を開催いたします。テーマは「Information and Infrastructure for Innovation(3i) ~New Approaches for Knowledge Platform~」と題し、研究データのオープン化のプラットフォーム、情報流通に関わる新技術、情報を活用した評価分析活動などについて、国内外の著名な研究者を招聘いたします。参加料無料ですので、皆様ふるってご参加ください。また、JST の情報資産を利用した新規サービス開発のための連携を推進しています。その一環として、コンテスト「データサイエンス・アドベンチャー杯」を今年度も開催予定です。第一回の昨年度は、86 の研究機関や大学、高校、企業の方々から応募があり、Web に掲載されたスライドシェアに 1000 ツイート以上も頂くなど、大きな反響を呼びました。今年度のコンテストにつきましては、9 月中旬以降下記のサイトでご案内しますので、是非参加をご検討ください。</p> <p>http://www.sascom.jp/AAC/</p> <p>第一回コンテストの詳細 (JST ニュース 6 月号)http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/backnumber1406.html</p> <p>詳細:http://www.primo-pco.com/icsti/icsti_2/index_jpn.html</p>

展示会場図



査読付き論文について

電子情報通信学会情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループおよび情報処理学会が共同開催する情報科学技術フォーラム (FIT: Forum on Information Technology) は、2002年に創設され今回が第13回となる日本の情報科学分野最大の学会大会である。査読採択論文は各分野の講演論文集に収録されている。

FIT2014では、本フォーラムで最も特徴となるFIT査読付き論文について、情報分野のより一層の活性化を目指すべく、前回と同様の「コンファレンスペーパー」としての査読に加えて、優秀な論文をFITとして電子情報通信学会または情報処理学会の論文誌へ推薦する「論文誌推薦制度」を継続した。査読はこれまでと同様、各分野に分野責任者を置き、各研究会から推薦された担当委員と協力して、それぞれの分野および研究会で独立に論文査読を行った。

以上の過程を踏まえて、6月9日に査読会議を開催し、採択論文の決定、船井ベストペーパー賞・FIT論文賞候補論文の決定、論文誌への推薦論文候補を決定し、それに引き続きプログラム編成会議でFIT2014プログラムを策定した。論文査読を行った各分野の投稿数、採択件数、採択率は次の通りである。

	投稿数	採択件数	採択率
A: モデル・アルゴリズム・プログラミング	6	0	0%
B: ソフトウェア	-	-	-
C: ハードウェア・アーキテクチャ	7	5	71.4%
D: データベース	13	5	38.5%
E: 自然言語・音声・音楽	0	-	-
F: 人工知能・ゲーム	8	6	75.0%
G: 生体情報科学	-	-	-
H: 画像認識・メディア理解	-	-	-
I: グラフィクス・画像	7	1	14.3%
J: ヒューマンコミュニケーション&インタラクション	7	6	85.7%
K: 教育工学・福祉工学・マルチメディア応用	11	4	36.4%
L: ネットワーク・セキュリティ	8	5	62.5%
M: ユビキタス・モバイルコンピューティング	-	-	-
N: 教育・人文科学	1	0	0%
O: 情報システム	24	14	58.3%
合計	92	46	50.0%

以下の5編は、FIT2014学術賞選定委員会が採択された査読付き論文の中から所定の選定手続きを経て選んだ船井ベストペーパー賞3編・FIT論文賞2編である。

船井ベストペーパー賞

- ・RC-004 FPGAによるブレ補正機構に関する研究
○丸山 裕士・山口 佳樹・児玉 祐悦 (筑波大学)
- ・RF-003 架空名義操作不可能な再配分メカニズムの特徴付け
○鶴田 俊佑・岡 雅晃・東藤 大樹・櫻井 祐子・横尾 真 (九州大学)
- ・RJ-004 瞬目種類識別のための形状特徴量に関する一検討
○松野 省吾 (電気通信大学)・大山 実 (東京電機大学)・阿部 清彦 (関東学院大学)・大井 尚一 (東京電機大学)・板倉 直明 (電気通信大学)

FIT論文賞

- ・RO-011 予備系システムのダウンサイジング手法及び評価
○市原 利浩・原田 篤史・樋口 毅 (三菱電機)
- ・RO-012 多品種対応ドメインを用いたモデル駆動開発の実現
○根路銘 崇 (電気通信大学/日本アイ・ビー・エム)・沼尾 雅之 (電気通信大学)

最後になったが、多忙の中、査読プロセスの運営および論文賞候補選考にご尽力頂いたFIT2014プログラム委員会およびFIT2014学術賞選定委員会の方々、限られた短期間で論文査読の責務を果たして頂いた査読者の方々に深く感謝する。

FIT2014プログラム委員会
FIT2014学術賞選定委員会
委員長 安本 慶一

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング（第1分冊）

[数理モデル化と問題解決]

- 9月4日(木) 09:30～11:30 4A会場(3B棟4F3B405) 座長 庄野 逸(電通大)
- A-001 j-核性を持つ極大疑似クリークの全列挙 …… ○Hongjie Zhai・原口 誠・大久保好章(北大)・富田悦次(電通大)
- A-002 アンケートデータにおけるマイノリティの抽出手法およびその定量化に関する検討
……………◎稲垣和人・吉川大弘・吉橋 武(名大)
- A-003 順位統計量に基づく楽曲動画のタグ付け傾向の分析 ……◎山岸祐己・斉藤和巳・武藤伸明(静岡県大)
- A-004 大規模データ分析による神経系疾患診断系の検討
……………○石井一夫(農工大)・沼田周助・木下 誠・大森哲郎(徳島大)
- A-005 多様な構成員から成るグループに対する献立推薦手法の提案 ……○山田敬三(岩手県大)・奥友菜津美(CSK ニアショアシステムズ)・高木正則・佐々木淳(岩手県大)
- A-006 Mallows の C_p 規準による回帰式の変数選択：混合整数二次計画法を用いた解法
……………◎高野祐一(専大)・宮代隆平(農工大)

[アルゴリズム基礎(1)]

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5A会場(3B棟4F3B405) 座長 亀井 清華(広島大)
- A-007 Stack-queue mixed layouts of graph subdivisions ……○宮内美樹(NTT)・榎本彦衛(早大)
- A-008 On Observability of Steady States in a Boolean Network ……○阿久津達也・田村武幸(京大)
- A-009 ベイジアンネットワークを表現するZDDの因数分解に関する実験と考察
……………◎高 サン(北大)・湊 真一(北大/JST)
- A-010 SeqBDDを使用した文字列間類似結合 ……○高嶋宏之・白井康之(JST)
- A-011 日本語テキストに対する検索指向符号化のための文法圧縮分割 ……◎正木拓也・笹川裕人・喜田拓也(北大)
- A-012 転送速度を2倍にするデータ圧縮技術 ……○井谷宣子(富士通研)

[アルゴリズム基礎(2)]

- 9月5日(金) 09:30～11:30 6A会場(3B棟4F3B405) 座長 白井 康之(北大/JST)
- A-013 複雑性クラスの崩壊と関数の粒度 ……○小林弘二(所属なし)
- A-014 P行列線形相補性問題における局所一様向き付けについて ……◎福田 俊(東北大)・Bernd Gärtner(ETH Zürich)・森山園子 Gärtner(日大)・宮田洋行(東北大)・Lorenz Klaus(NII)
- A-015 有向グラフに対する許容条件付き位相的整列問題の計算量 ……○神保秀司(岡山大)・山本博章(信州大)
- A-016 サイフォンを用いた回路計算 ……◎品川和雅・西出隆志・岡本栄司(筑波大)
- A-017 グラフの各頂点を高々2回まで通る経路数の下界の改善
……………◎ホルロハマムムハマド(北大)・湊 真一(北大/JST)
- A-018 Conditional-Value-at-Riskによるリスクを考慮した多期間生産計画
……………◎田口雄基(阪大)・上野信行(広島県大)・奥原浩之・小出哲彰(阪大)

[アルゴリズム応用]

- 9月5日(金) 13:00～15:00 7A会場(3B棟4F3B405) 座長 南出 靖彦(筑波大)
- A-019 計算科学とデータマイニングを用いた材料設計システム
……………○林 亮子(金沢工大)・水関博志(Korea Institute of Science and Technology)
- A-020 中規模都市を対象とした集約型デマンドバスの経路計画手法の提案
……………◎新垣隆伍・赤嶺有平・上原和樹・遠藤聡志(琉球大)・根路銘もえ子(沖縄国際大)
- A-021 スマートデバイスを用いた環境負荷削減に対する貢献の可視化 ……◎小出哲彰・奥原浩之(阪大)
- A-022 グリフ作成を支援するドローツールの開発 ……◎石川凜太郎・三末和男・田中二郎(筑波大)
- A-023 (講演取消)
- A-024 キャタピラ上のグラフ・シェアリング・ゲーム ……○高橋俊彦(新潟大)・佐藤拓哉(佐渡汽船)

B 分野：ソフトウェア（第1分冊）

[ソフトウェア開発支援]

- 9月4日(木) 09:30～12:00 4B会場(3B棟4F3B402) 座長 柿元 健(香川高専)
- B-001 高カバレッジ単体テスト設計支援ツールの活用によるソフトウェア品質向上手法の提案
……………○斎藤正己・鎌田典彦・高岡真則(NEC通信システム)
- B-002 大学のキャンパス案内サイトの情報編集用Webアプリの構築と考察 ……◎横井 悟・中野武司(明大)
- B-003 COINSを用いた静的プログラムスライシングツールの実装 ……◎上野智弘・芳賀博英(同志社大)
- B-004 利用シーンを考慮したコードクローン情報提示方法の提案
……………◎中谷和希・垣谷広輝・平山雅之(日大)・菊地奈穂美(OKI)
- B-005 既存Webアプリケーションの入力処理の脆弱性調査と対策
……………◎木村勇一・後藤厚宏・大久保隆夫(情報セキュリティ大)
- B-006 システムモデリングとブルクエスト駆動による分散共同開発の提案 ……◎三浦政司(鳥取大)・南部陽介(大阪府大)・吉澤良典(東大)・萩原利士成・木村俊介・弓山 彬・五十嵐智(所属なし)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT査読付き論文の採択論文です。

【ソフトウェア工学一般】

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5B会場(3B棟4F3B402) 座長 菊地 奈穂美 (OKI)
- B-007 ソフトウェア開発コスト見積における類似性に基づく欠損値処理の改良 ……◎渡辺 竜・柿元 健(香川高専)
- B-008 Web フォントのサブセット化による Web アプリケーションの性能改善
……………◎森田孝哉・佐藤裕介・福士 陽・清水理恵子・河合孝志・中井智仁(日立)
- B-009 XMLに基づくC言語用のマークアップコンバータ設計と開発手法
……………◎砥板卓矢(同志社大)・吉田万輝(クックパッド)・芳賀博英(同志社大)
- B-010 (講演取消)
- B-011 クラス名の単語列に対する品詞列ごとのクラス名数の定量的調査 ……◎福田宏樹・早瀬康裕・北川博之(筑波大)

【高性能計算】

- 9月5日(金) 09:30～12:00 6B会場(3B棟4F3B402) 座長 建部 修見(筑波大)
- B-012 C言語自動並列化トランスレータの開発
-ソースコード静的メトリクスを利用したタスク粒度解析手法とその評価-
……………◎阿加井星・小林裕昌・甲斐宗徳(成蹊大)
- B-013 C言語自動並列化トランスレータの開発
-構文木による並列構造解析へのループリストラクチャリング適用とOpenMPの活用-
……………◎小倉健太郎・阿加井星・甲斐宗徳(成蹊大)
- B-014 ストレージ階層管理連携サーバフラッシュキャッシュ機能の提案 ……○高田有時・林 真一(日立)
- B-015 HPC 計算資源管理におけるソフトウェア動的配備技法について
……………◎齊藤隆之・平松和剛(アングル)・善甫康成(法大)
- B-016 マルチスレッド型エージェントに対応したAgentSphereの強マイグレーション機構の改良
……………◎連見建太・疋田直也・甲斐宗徳(成蹊大)
- B-017 通信を考慮したタスクスケジューリング問題のための並列分枝限定法とその評価
……………◎澁谷知則・栗田浩一・甲斐宗徳(成蹊大)

【モデル・形式手法】

- 9月5日(金) 13:00～16:00 7B会場(3B棟4F3B402) 座長 小林 隆志(東工大)
- B-018 VDMJとApache Axis2を用いた上流工程におけるモデル実行環境の構築
……………◎村林 慧・多田圭佑・和崎克己(信州大)
- B-019 UML-PROMELA変換器を用いたZigBeeIP/RPLプロトコルにおけるノード探索仕様の検証
……………◎後藤亮馬・和崎克己(信州大)
- B-020 大規模システム開発のための階層的モデル化技法 ……○山田隆弘(宇宙航空研究開発機構)
- B-021 形式的ソフトウェア合成手法における不足部品の要求提示 ……◎熊谷 恒・織田 健(電通大)
- B-022 MDA:構想からプログラミングまでの継目のないアプローチの実際 ……○中村正治(所属なし)

C分野：ハードウェア・アーキテクチャ(第1分冊)

【LSI設計技術】

- 9月3日(水) 13:00～15:00 2C会場(3B棟3F3B303) 座長 瀬戸 謙修(東京都市大)
- RC-001 ビアプログラマブルアーキテクチャVPEX4の提案と性能評価
……………◎堀 遼平・上口翔大(立命館大)・吉川雅弥(名城大)・藤野 毅(立命館大)
- C-001 学習型超解像による4倍拡大映像出力ハードウェアの実現と辞書探索回路の規模削減
……………◎松塚 凌・切山亜弓・道島昂平・雫 譲・廣瀬哲也・黒木修隆・沼 昌宏(神戸大)
- C-002 高速度デジタルホログラフィのための専用計算機の開発
……………◎増田信之(東理大)・亀谷和樹・高橋 慶・角江 崇・下馬場朋禄・伊藤智義(千葉大)
- C-003 並列位相シフトデジタルホログラフィのための位相シフト干渉法の計算回路の設計
……………◎的場駿介(千葉大)・増田信之(東理大)・角江 崇・下馬場朋禄・伊藤智義(千葉大)
- C-004 LSI機能テスト向けプロセッサの開発 ……◎吉成朝雄・荻原航斗・松埜 智・浅川 毅(東海大)
- RC-002 多数決スイッチ回路によるn-フォールトトレラントシステムの設計考察 ……◎岩井仁司(所属なし)

【システム応用設計・評価技術】

- 9月3日(水) 15:30～17:30 3C会場(3B棟3F3B303) 座長 勝 康夫(日立)
- C-005 スマートフォン連携カーナビゲーションシステムのブラウザ活用による走行規制技術の開発
……………◎近藤明宏・松本貴士・関口隆昭(日立)・阿部憲幸(クラリオン)
- C-006 (講演取消)
- C-007 状態遷移を含む制御モデルを対象としたSimulink・UMLモデル変換ツール ……◎黒木裕太(東京都市大)・田村雅成(日立INSソフトウェア)・神山達哉(エー・アンド・デイ)・兪 明連・横山孝典(東京都市大)
- C-008 ルータ回路のバッファ共有法における部分的共有法の性能評価 ……◎深瀬尚久・三浦康之・渡辺重佳(湘南工科大)
- C-009 日和見主義的なモバイルネットワークにおけるキャッシュ・データの鮮度維持手法の検討
……………◎六川 恵・◎福本 聡(首都大)・新井雅之(日大)・酒井和哉(首都大)

【分散システムおよび仮想化】

- 9月4日(木) 09:30～11:30 4C会場(3B棟3F3B303) 座長 中島 康彦(奈良先端大)
- C-010 上位キャッシュの破棄ブロック情報を用いた下位キャッシュ管理 ……◎杉本洋輝・山口実靖(工学院大)
- C-011 読み書き込み比率を考慮した動的VMメモリ割り当てによるDBMS性能向上に関する一考察
……………◎坂本雅哉・山口実靖(工学院大)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT査読付き論文の採択論文です。

- C-012 マルチテナント VM 環境における KVS 性能に関する一考察 ……………◎徳田大輝・御代川翔平・山口実靖 (工学院大)
- C-013 Linked Data 型組込みシステムのアップグレーダブル / ダウングレーダブル・コンピューティングの検討
……………◎大橋 正 (あいりくと)
- RC-003 社会インフラ監視用途のための分散データストレージ設計
……………◎小林 大・三宅弘士・上村純平・山川 聡・石川健一郎・長谷部賀洋 (NEC)
- C-014 データベースの動作情報を用いたデータ再配置によるストレージ停止時間拡大の仮想化環境への適用
……………◎若色 匠・山口実靖 (工学院大)

[組込みアプリケーション]

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5C会場(3B棟3F3B303) 座長 佐藤 健哉 (同志社大)
- C-015 トリガベース音声対話システムのアーキテクチャ提案 ……………◎段 清柱・清水淳史・関口隆昭 (日立)
- C-016 Twitterを情報源とした発話ロボットシステムの開発 ……………◎藤原裕樹・山下晃弘 (東京工業高専)
- C-017 OpenStreetMap データを利用したヘッドマウントディスプレイによる AR 案内システムの構築
……………◎原 裕己・山下晃弘 (東京工業高専)
- C-018 指さし動作認識による移動ロボットへの目標地点の指示 ……………◎餅川 穂・山下晃弘 (東京工業高専)
- C-019 RFID タグを用いた買い物支援システムにおける利用者の移動検出 ……………◎川口正太郎・山下晃弘 (東京工業高専)

[コンピュータシステムと専用回路]

- 9月5日(金) 09:30～11:30 6C会場(3B棟3F3B303) 座長 東條 信明 (東芝)
- RC-004 【船井ベストペーパー賞受賞論文】
FPGAによるブレ補正機構に関する研究 ……………◎丸山裕士・山口佳樹・児玉祐悦 (筑波大)
- C-020 鍵スケジューラを省略した AES 暗号回路の FPGA による実装評価 ……◎松岡俊佑・藤枝直輝・市川周一 (豊橋技科大)
- C-021 バレーボール試合映像からの実時間選手追跡システム ……………◎丸山裕士・李 成哲・山口佳樹・児玉祐悦 (筑波大)
- C-022 Android アプリからの FPGA の利用による処理の高速化 ……………◎塩谷丈史・成見 哲 (電通大)
- C-023 サクセス情報をを用いた命令フェッチ電力削減の検討 ……………◎請園智玲 (北陸先端大)
- C-024 マイクロプロセッサ設計のための命令ダイアグラムツールの初期開発
……………◎岩本稜平 (明大)・森本智之 (ヴィアックス)・堤 利幸 (明大)

[組込み OS]

- 9月5日(金) 13:00～16:00 7C会場(3B棟3F3B303) 座長 早川 栄一 (拓大)
- RC-005 ハイブリッド OS システムを用いた車載メディアプレーヤーの高速起動方式
……………◎飯野 晋・江角憲治・野口正雄・楠 恵明・東 辰輔 (三菱)
- C-025 組み込み制御システム向け分散共有メモリ機構を持つリアルタイム OS
……………◎田村宥士 (東京都市大)・知場貴洋 (セック)・兪 明連・横山孝典 (東京都市大)
- C-026 (講演取消)
- C-027 マルチコア並列処理・分散処理統合機能を有するリアルタイム OS ……………◎横山幸太郎 (東京都市大)・
齊藤政典 (日立情報通信エンジニアリング)・兪 明連・横山孝典 (東京都市大)
- C-028 分散制御システムを対象とした分散リアルタイム OS のアスペクト指向プログラミングによる実現
……………◎石川大貴 (東京都市大)・齋藤亘弘 (スタンレー電気)・兪 明連・横山孝典 (東京都市大)
- C-029 アスペクト指向プログラミングによる異なるリアルタイム OS 間でのアプリケーションの移植の容易化
……………◎稲本太郎・兪 明連・横山孝典 (東京都市大)

D 分野：データベース（第2分冊）

[データベースと検索]

- 9月3日(水) 09:30～12:00 1C会場(3B棟3F 3B303) 座長 陳 漢雄(筑波大)
- D-001 構造情報の再利用によるXMLデータに対する類似検索の高速化 ……◎小柳涼介・天笠俊之・北川博之(筑波大)
- D-002 Fast Algorithm for Multi-type Nearest Neighbor Query ……◎Yee Win Aye Su・Htoo Htoo・Yutaka Ohsawa(埼玉大)
- D-003 放送時刻の範囲データを含むタグ検索に関する一考察 ……◎金子 豊・竹内真也・黄 民錫・苗村昌秀(NHK)
- D-004 Secure Indexes for Keyword Search in Cloud Storage ……◎Wanasit Tanakitrungruang・相田 仁(東大)
- D-005 空間Webデータにおけるm-最近接キーワード検索方式DCCの性能評価 ……◎邱 原・大森 匡・新谷隆彦・藤田秀之(電通大)
- D-006 動画リストと動画で構成される有向グラフを用いた動画検索に関する一考察 ……◎西 友規・山口実靖・小林亜樹(工学院大)
- D-007 RDBMS向けグラフ縮約検索処理の予備評価 ……◎横井一仁・西山博泰(日立)

[データベース応用(1)]

- 9月3日(水) 09:30～12:00 1D会場(3B棟3F 3B302) 座長 古瀬 一隆(筑波大)
- D-008 適正な粒度の矛盾による仮説形成についてのノート ……◎高原利生(所属なし)
- D-009 多重整列に基づくモチーフの統計的抽出法 ……◎福本翔平・北上 始・森 康真(広島市大)
- D-010 Webテキストから医療の悩みを抽出する：がん体験者の悩みの自動分類 ……◎宮部真衣・島本裕美子・荒牧英治(京大)
- D-011 ニュース記事のリアルタイムソーシャルアノテーション ……◎大西 誠・北川博之(筑波大)
- D-012 ソーシャルブックマークを学習データとして用いたツイートの印象の推定 ……◎岡村康行・湯本高行・新居 学・佐藤邦弘(兵庫県大)
- D-013 株式掲示板を用いた投稿数のバースト発生時における株価・株式関連指標動向の予測 ……◎桜田亮太・青野雅樹(豊橋技科大)
- D-014 輸送事業者における事故報告書の分析を通じた事故傾向の抽出と事故報告改善に向けた検討 ……◎藤井浩雄・中平勝子・岡本満喜子(長岡技科大)

[情報アクセスと基礎(1)]

- 9月3日(水) 13:00～15:00 2D会場(3B棟3F 3B302) 座長 森 辰則(横浜国大)
- D-015 LDAによる有意なトピック分析が可能な文書集合の量的な考察 ……◎古澤昂典・富浦洋一(九大)
- D-016 サンプリングを応用したビッグデータの新しい処理方式 ……◎高柳健太・山浦恒央(東海大)
- RD-001 遷移先節点に着目したダブル配列構造による探索の高速化の提案 ……◎村山智也・望月久稔(大阪教育大)
- D-017 (講演取消)
- D-018 クローラ型Web検索エンジンを利用したSPARQL Endpoint発見手法 ……◎瀬尾崇一郎・阪口哲男(筑波大)
- D-019 語の関係性を抽出した特徴ベクトルによる重要語抽出法の評価 ……◎今井智宏・望月久稔(大阪教育大)

[情報アクセスと基礎(2)]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 3D会場(3B棟3F 3B302) 座長 横野 光(NII)
- D-020 (講演取消)
- D-021 鉄道の利用状況を用いたTwitterユーザの行動の推定 ……◎河邊拓也・山田剛一・絹川博之(電機大)
- D-022 XMLデータに対するファセット検索のためのファセット抽出の自動化 ……◎駒水孝裕・天笠俊之・北川博之(筑波大)
- D-023 クロールデータのプロビジョンスキームにおけるファイル入出力機構の検証 ……◎伊藤 公・三上喜貴・中平勝子(長岡技科大)
- D-024 ECサイトでの2種類の閲覧フェーズを通じたユーザが重要視する商品属性の推定 ……◎安井顕誠・原田史子・島川博光(立命館大)
- D-025 (講演取消)

[ストリーム処理]

- 9月4日(木) 09:30～12:00 4D会場(3B棟3F 3B302) 座長 山口 実靖(工学院大)
- D-026 Design and Evaluation of Designated Event-based Stream Processing ……◎王 岩・北川博之(筑波大)
- D-027 差分計算を用いたトランザクショナルストリーム処理の実現 ……◎西村和也・北川博之(筑波大)
- D-028 ストリームデータに対するストリーム処理エンジンを用いたOLAP処理 ……◎中挟晃介・北川博之・天笠俊之(筑波大)
- D-029 XMLStream向け検索言語からのVPAの生成 ……◎松田達希・内田友樹・藤田 悟(法大)
- D-030 VPAを用いたXMLStream向けCEPエンジン ……◎内田友樹・松田達希・藤田 悟(法大)
- D-031 行動オントロジによるセンサデータからの複合イベント検出について ……◎佐々木勇和・築井美咲・高橋正和・杉浦健人・石川佳治(名大)
- D-032 2次元軌跡データに対する高速なパターン照合アルゴリズム ……◎山本雅大・栗田和宏・笹川裕人・有村博紀(北大)

[データベースシステム]

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5D会場(3B棟3F 3B302) 座長 渡辺 知恵美(筑波大)
- D-033 参加型センシングのための空間データベース問合せ処理 ……◎趙 セイ・杉浦健人・姜 仁河(名大)・佐々木勇和(未来社会創造機構)・石川佳治(名大)
- D-034 放射線モニタリングデータベース実現に伴うGeoSPARQLの問い合わせ性能評価と改良 ……◎小島 功(産総研)・播田一光・高杉悠平(産総研/日本アドバンス・テクノロジー)・田中良夫・的野晃整・中村章人(産総研)
- D-035 系列パターン発見技術の並列分散化の実現と評価 ……◎松岡有希・合田浩二・西澤 実(東芝ソリューション)・櫻井茂明(東芝)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT 査読付き論文の採択論文です。

- D-036 データ仮想化システムにおけるマルチデータベース間パーティショニングの一手法
.....◎齋藤和広・渡辺泰之・村松茂樹・小林亜令 (KDDI 研)
- D-037 VM の負荷を考慮した DB テーブル配置によるストレージ省電力◎谷貝俊輔・山口実靖 (工学院大)
- D-038 I/O 最適化による KVS 動的ノード追加性能の向上に関する一考察.....◎御代川翔平・徳田大輝・山口実靖 (工学院大)

[データベース応用 (2)]

9月5日(金) 09:30 ~ 12:00 6D 会場 (3B 棟 3F 3B302) 座長 新谷 隆彦 (電通大)

- D-039 (講演取消)
- D-040 交通案内サイト利用履歴を用いたユーザの移動予測
..... 若宮翔子・◎丸山直樹・細川侑士・河合由起子・秋山豊和 (京産大)・角谷和俊 (兵庫県大)
- D-041 ご当地グルメを提供する店舗を考慮した観光経路推薦手法◎小杉将史・内田 理 (東海大)
- D-042 LBSN オントロジーの構築◎築井美咲・高橋正和・佐々木勇和・石川佳治 (名大)
- D-043 色の嗜好と季節を考慮した服装提案システム◎三露庸介・吉村枝里子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- D-044 RDF ストリーム上での複合イベント検出◎高橋正和・築井美咲・佐々木勇和・石川佳治 (名大)
- D-045 アンケートデータ欠損補完を目的とした確率的テンソル主成分分析の利用に関する検討
.....◎福田智広・吉川大弘・古橋 武 (名大)

[情報アクセスと基礎 (3)]

9月5日(金) 13:00 ~ 16:00 7D 会場 (3B 棟 3F 3B302) 座長 荒牧 英治 (京大)

- RD-002 Web と SNS のメディア横断型コミュニケーション支援システム
..... 王 元元・◎安井豪基・細川侑士・河合由起子・秋山豊和 (京産大)・角谷和俊 (兵庫県大)
- RD-003 Designing Test Collections That Provide Tight Confidence Intervals◎酒井哲也 (早大)
- RD-004 運転履歴を活用した設備の点検優先度決定手法◎島田惇哉・坂上聡子 (三菱)
- D-046 インターネット上で分散可能なビッグデータファイル◎古庄晋二 (ターボデータラボラトリー)
- D-047 音声合成のための感情及び感情スパンの推定◎服部一浩 (東大)・横野 光 (NII)・相澤彰子 (東大/NII)
- RD-005 行動トピックベクトルと地域語特徴を用いた検索キーワードに対する行動タイプ付与
..... ◎羽田野真由美・数原良彦・戸田浩之・小池義昌 (NTT)
- D-048 Hadoop を用いた大規模日本語コーパスにおける可変長単語 N-gram 頻度計算手法
.....◎小笹哲哉・渋谷英潔・森 辰則 (横浜国大)

E 分野：自然言語・音声・音楽 (第2分冊)

[自然言語処理・基礎]

9月4日(木) 09:30 ~ 12:00 4E 会場 (3A 棟 4F 3A416) 座長 乾 孝司 (筑波大)

- E-001 同義語・類義語を用いて観点を拡張した観点付き関連度計算方式
.....◎松本和也・芋野美紗子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- E-002 否定表現から肯定表現への変換による文間関連度計算方式
.....◎谷裕一朗・芋野美紗子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- E-003 回帰分析による上位語推定の検討 ◎別所克人・牧野俊朗・松尾義博 (NTT)
- E-004 複合語の概念・属性を考慮した百科事典および国語辞書による概念ベースの構築
.....◎白石卓也・芋野美紗子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- E-005 日本語節境界検出プログラム Rainbow の作成と評価◎加納隼人・佐藤理史 (名大)
- E-006 日本語の文の平均像を体現した文を探す (1) 文の特徴量の抽出◎刀山将大・佐藤理史・近藤 秀・吉田達平 (名大)
- E-007 日本語の文の平均像を体現した文を探す (2) 平均からの距離◎近藤 秀・佐藤理史・刀山将大・加納隼人 (名大)

[自然言語処理と Web]

9月4日(木) 15:30 ~ 17:30 5E 会場 (3A 棟 4F 3A416) 座長 酒井 哲也 (早大)

- E-008 トピックモデルを用いたソーシャルメディアからの市場シェア予測◎中島光夫・津川 翔・山本幹雄 (筑波大)
- E-009 訂正投稿の傾向を利用したデマ訂正ツイートの抽出◎渡邊建太・絹川博之・山田剛一 (電機大)
- E-010 Tweet に出現する接続表現手がかりにした関連話題の抽出◎齊藤博文・山田剛一・絹川博之 (電機大)
- E-011 単語位置と強弱表現に着目したツイートの感情分析◎三和未佐希・立間淳司・青野雅樹 (豊橋技科大)
- E-012 ユーザの嗜好を考慮した顔文字推薦システムの提案◎松原翔平・森田和宏・泓田正雄・青江順一 (徳島大)
- E-013 Twitter での画像情報を利用した日本語入力手法の提案
..... ◎菅原太一・松原雅文・Goutam Chakraborty・馬淵浩司 (岩手県大)

[自然言語処理・応用]

9月5日(金) 09:30 ~ 12:00 6E 会場 (3A 棟 4F 3A416) 座長 津川 翔 (筑波大)

- E-014 連想と常識判断を用いた会話からの話者情報取得手法◎金子 稜・吉村枝里子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- E-015 文の意味を考慮した常識的時間判断システムの構築◎吉川義紀・芋野美紗子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- E-016 課題と手段の類似度に基づく特許分類支援システムの提案◎橋本理樹 (岩手県大)
- E-017 単語の適合性フィードバックを用いたクエリの拡張手法の提案◎鈴木永史郎・杉本 徹 (芝浦工大)
- E-018 文書索引生成における未知語の取り扱い方法の比較◎大西 周・山田剛一・絹川博之 (電機大)
- E-019 LDA を用いたトピック分析におけるトピックの理解容易性◎末次展章 (九大)
- E-020 英日機械翻訳のための主辞後置事前並び替えにおける限量詞移動の改善◎谷口正訓・丁 慶辰・山本幹雄 (筑波大)

【音楽・音声情報処理】

- 9月5日(金) 13:00～16:00 7E会場(3A棟4F 3A416) 座長 松原 正樹(筑波大)
- E-021 作業推定に向けた環境雑音のクラス分類
.....◎宇野太久哉・竹原正矩・田村哲嗣・速水 悟(岐阜大)・蔵田武志(産総研)
- E-022 マルチモーダル音声認識における音声と画像の協調によるモデル適応法の検討
.....○絹田卓也・田村哲嗣・速水 悟(岐阜大)
- E-023 国際音声記号を用いた発音類似度算出アルゴリズムの検討○河野宏志・城塚音也・高木 徹(NTTデータ)
- E-024 アカペラ演奏支援のための歌声に対する楽譜追跡◎上田 新・森 大毅(宇都宮大)
- E-025 楽曲の再生履歴を用いたプレイリスト生成手法の提案◎越智雅人・黒田久泰(愛媛大)
- E-026 適切な和音区間長を推定する和音認識手法について◎横井史也・平田圭二(はこだて未来大)
- E-027 (講演取消)
- E-028 深層学習に基づく入力楽器音響信号のMIDI音色パラメータ値推定
.....◎瀧田寿明・櫛部義幸(筑波大)・浜中雅俊(京大)・矢澤櫻子・星野准一(筑波大)

F 分野：人工知能・ゲーム(第2分冊)

【シミュレーション】

- 9月3日(水) 13:00～15:00 2F会場(3A棟4F 3A409) 座長 服部 宏充(立命館大)
- F-001 仮想物理世界で動く大規模論理回路の実現のための立方体型ゲートの提案◎神澤 俊・成見 哲(電通大)
- F-002 進化計算により知識を自己獲得・利用するエージェントアーキテクチャ◎森田信吾・加藤昇平(名工大)
- F-003 人工社会における学級モデルといじめ対策◎高橋星也・太原育夫(東理大)
- F-004 マルチエージェントシミュレーションを用いた店員の最適配置の求解
.....◎織田憲二郎・西村栄毅・芳賀博英(同志社大)
- F-005 agent2dのチェーンアクションにおける評価関数の重み調整◎田川 諒・谷川俊策・五十嵐治一(芝浦工大)
- F-006 狙い撃ち手法による支援麻雀クライアントの開発◎浅尾 豪・大西建輔(東海大)

【データマイニング】

- 9月3日(水) 15:30～17:30 3F会場(3A棟4F 3A409) 座長 八幡 博史(電機大)
- RF-001 メトリック空間オブジェクトを対象とした中心性指標の提案
.....◎伏見卓恭・斉藤和巳(静岡県大)・風間一洋(和歌山大)
- F-007 ユーザー評点データによるネットワーク構造推定◎鈴木優伽・伏見卓恭・武藤伸明・斉藤和巳(静岡県大)
- F-008 レビュー、ブログ、マイクロブログサイトの高次数ユーザの自己中心トライアド分析
.....◎西可南子・加藤翔子・大久保誠也・斉藤和巳(静岡県大)
- F-009 (講演取消)
- F-010 カウンセリングデータにおけるトピックモデルを用いた文書分類◎単 壮・加藤昇平(名工大)
- F-011 特徴選択のための一貫性指標について◎中永健太郎・申 吉浩・兵頭俊紀・森川 優・築瀬大悟(兵庫県大)

【ネットワーク情報処理】

- 9月4日(木) 09:30～12:00 4F会場(3A棟4F 3A409) 座長 松原 繁夫(京大)
- F-012 メディアンに基づく時系列データの変化点検出法◎小林えり・伏見卓恭・斉藤和巳・池田哲夫(静岡県大)
- F-013 双対SR法によるTwitterデータの時空間バースト検出◎加藤翔子・斉藤和巳(静岡県大)・風間一洋(和歌山大)
- F-014 多項分布変化点検出法によるTwitter上のユーザ動向分析
.....◎藤野まり菜・加藤翔子・斉藤和巳(静岡県大)・風間一洋(和歌山大)
- F-015 多クラスに対するピボットを用いた大規模データのk-meansクラスタリング○服部正嗣・青山一生(NTT)
- F-016 スマートフォンマンガアプリのアクセスログ解析によるユーザ嗜好とコンテンツクラスタ関係の推定
.....○佐藤 哲(NHN PlayArt)
- F-017 社会インフラシステムの稼働データ流通のためのバイナリハッシングによる近似クラスタリング
.....◎但馬慶行・望月智之・志村明俊・武澤隆之(日立)

【エージェント】

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5F会場(3A棟4F 3A409) 座長 菅原 俊治(早大)
- RF-002 計算複雑性に基づいたパレート効率的な複数財交換ルール
.....◎藤田悦誌・Julien Lesca・苑田堯久・東藤大樹・横尾 真(九大)
- RF-003 【船井ベストペーパー受賞論文】
架空名義操作不可能な再配分メカニズムの特徴付け
.....○鶴田俊佑・岡 雅晃(九大)・東藤大樹・櫻井祐子・横尾 真(九大)
- F-018 (講演取消)
- RF-004 ND-POMDPの解法CLにおけるポリシの組み合わせ数と通信量の削減手法
.....◎川畑佑記・松井俊浩・松尾啓志(名工大)
- RF-005 POMDP環境下での強化学習におけるGAによる問題分割◎野村拓己・加藤昇平(名工大)
- F-019 SAT問題における決定レベルに基づく動的リスタート○榎崎修二(長崎大)

【知的システム】

- 9月5日(金) 09:30～12:00 6F会場(3A棟4F 3A409) 座長 櫻井 祐子(九大)
- F-020 統合物語生成システムの開発—その現状と課題—○小方 孝(岩手県大)
- F-021 民話の構造分析を利用した「プロップに基づくストーリーコンテンツグラマー」の一般化と拡張
.....◎藤原朱里・小方 孝(岩手県大)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT 査読付き論文の採択論文です。

- F-022 名詞句の分類を利用した名詞概念の属性フレームの自動獲得—統合物語生成システムの一機構として—
◎小野淳平・小方 孝 (岩手県大)
- F-023 ARによるインタラクション機能を実装した手指消毒支援システムの開発◎小野寺駿・皆月昭則 (釧路工大)
- F-024 照明と照度センサの配置図を用いた知的照明システムの検討
◎上南遼平・三木光範・町田啓悟・間 博人 (同志社大)
- F-025 大規模な知的照明システムにおける階層的個別照明点灯による照度センサ近傍照明抽出手法
◎中林弘光・三木光範・松下昌平・池上久典・間 博人 (同志社大)
- RF-006 運転時系列データへの簡便なアノテーション手法の提案
◎田中雄介・栗原慶典・那和一成 (トヨタ IT 開発センター)・谷口忠大・高野敏明 (立命館大)・
 竹中一仁・坂東誉司 (デンソー)

[最適化]

- 9月5日 (金) 13:00～16:00 7F会場 (3A棟 4F 3A409) 座長 山下 晃弘 (東京工業高専)
- F-026 知的照明システムにおけるスマートフォンの内蔵照度センサを考慮した照度/光度影響度の決定手法の検討
◎桑島 奨・三木光範・池上久典・間 博人 (同志社大)
- F-027 異機種スマートフォンの用いた知的照明システムの実現性の検証
◎山口浩平・三木光範・桑島 奨・間 博人 (同志社大)
- F-028 複数種類の報酬と罰に対応した意識的意思決定システムの提案◎宮崎和光 (大学評価・学位授与機構)
- F-029 擬似的な勾配情報の活用による粒子群最適化の効率化◎内海翔太・亀山啓輔 (筑波大)
- F-030 動径基底 ART と PSO の複数解問題への応用◎徳永章哲・佐藤拓海・齋藤利通 (法大)
- F-031 分裂結合 PSO の多目的最適化への応用◎佐藤拓海・齋藤利通 (法大)

G 分野：生体情報科学 (第2分冊)

[バイオサイバネティクス]

- 9月3日 (水) 13:00～15:00 2E会場 (3A棟 4F 3A416) 座長 高山 祐三 (産総研)
- G-001 Multi-stage Color Model を用いた配色の視認性の予測のための色覚モデル◎吉岡拓耶・篠沢佳久 (慶大)
- G-002 心電位データ活用のためのデータベースおよび R 波検出システム
◎長友 毅・清水郁子 (農工大)・池田 剛・幸島明男・車谷浩一 (産総研)
- G-003 視覚刺激時の瞳孔径変動を用いた特性不安推定法◎山川雄氣・高野博史・中村清実 (富山県大)
- G-004 眠気度推定のための瞬目群発や単独瞬目の特徴解析◎杉本大樹・高野博史・中村清実 (富山県大)
- G-005 随意性瞬目と自発性瞬目の判別法の開発◎陶山真昌・加藤尊貴・高野博史・中村清実 (富山県大)

[神経イメージングと医用画像]

- 9月3日 (水) 15:30～17:30 3E会場 (3A棟 4F 3A416) 座長 滝沢 穂高 (筑波大)
- G-006 樹状突起膜電位の非線形ダイナミクスを統計的に推定する～ベイズ統計に基づく情報抽出～◎大森敏明 (神戸大)
- G-007 CT画像における確率共鳴の発現とその応用
◎山元勇輝・内藤啓介・遠地志太・藤井啓輔・川浦稚代・森 政樹・池田 充・今井國治 (名大)
- G-008 グラフカットを用いた腹部 X線 CT画像からの対話的領域抽出手法の検討と評価
◎光岡 遼・滝沢穂高・岡田俊之・工藤博幸 (筑波大)
- G-009 圧縮センシングの MRI マルチスライス撮像応用に関する検討◎原田弘章・伊藤聡志・山田芳文 (宇都宮大)
- G-010 無染色肝病理組織標本の画像解析◎牛川卓弥・高橋正信 (芝浦工大)・中野雅行 (湘南藤沢徳洲会病院)

H 分野：画像認識・メディア理解（第3分冊）

[シーン認識]

- 9月3日(水) 09:30～12:00 1G会場(3A棟3F 3A312) 座長 黄瀬 浩一(大阪府大)
- H-001 3次元の整合性に基づく手持ち撮影RGB-D映像中の動的領域切り出し
.....◎榎木玲士・北原 格・亀田能成・大田友一(筑波大)
- H-002 高速かつ変則的に移動するバドミントンシャトルの軌跡推定法
.....◎宍戸英彦・北原 格・亀田能成・大田友一(筑波大)
- H-003 法線ベクトルの内積分布を用いた3次元点群のクラスタ解析◎堀田富宝・岩切宗利(防衛大)
- H-004 Kinectの距離画像とカラー画像の併用による部材の分離精度向上◎宮田繁春(近畿大)・矢式良行(シグマ)
- H-005 時系列の画像・深度情報を用いた人物と物体の領域抽出◎菅原勝也・阿部 亨・菅沼拓夫(東北大)
- H-006 3D情報を用いた洗濯物の状態判定◎広瀬大樹・三好 力(龍谷大)

[モデリング、VR/AR/MR]

- 9月3日(水) 13:00～15:00 2G会場(3A棟3F 3A312) 座長 大石 岳史(東大)
- H-007 光沢のある物体表面の分光反射率と法線の推定◎北原雅啓・岡部孝弘(九工大)
- H-008 Structure from Motionにより復元された物体形状と影に基づく光源環境の推定
.....◎大津啓亮・梅澤 猛・大澤範高(千葉大)
- H-009 符号化IRカットフィルタによる高感度センシング方式◎塚田正人(NEC)
Kimberly Mcguire・Wouter Bolm(Delft Univ. of Technology)・戸田真人(NEC)・
Boris Lenseigne・Wouter Caarls・Pieter Jonker(Delft Univ. of Technology)
- H-010 色情報を用いた屋外における日照変化に対してロバストなカメラ位置姿勢推定手法の提案
.....◎潮平寛弥・赤嶺有平・遠藤聡志(琉球大)・根路銘もえ子(沖縄国際大)
- H-011 運転車両のダッシュボード透明化と車輪軌道の複合現実型提示
.....◎笹井翔太・北原 格・亀田能成・大田友一(筑波大)
- H-012 ズーム操作可能な多視点画像の閲覧方式◎明智那央・北原 格・大田友一(筑波大)

[実シーン応用]

- 9月3日(水) 15:30～17:30 3G会場(3A棟3F 3A312) 座長 岡部 孝弘(九工大)
- H-013 スマートフォンを用いた肌のきめ・小じわ評価システム◎神戸美智子・田口 亮(名工大)・
服部公央亮(中部大/名工大)・保黒政大(中部大)・梅崎太造(名工大)・
松岡健志(マクセルスマートコミュニケーションズ)
- H-014 オフィスにおける色光の快適性◎相馬啓佑・三木光範・町田啓悟・十場 崇・間 博人(同志社大)
- H-015 画像認識とセンサシートを用いた店舗内商品のリアルタイム把握システム
.....◎比嘉嘉太・福田浩司・佐藤貴美・包 蕊寒・服部 渉・岩元浩太(NEC)
- H-016 地理情報を埋込んだ画像特徴量に基づく写真画像の位置情報推定
.....◎Vanna Pav・青野雅樹・立間淳司(豊橋技科大)
- H-017 複数センサを用いた靴下ベアリング手法の検討◎米谷和記・三好 力(龍谷大)
- H-018 局所特徴量照合と画像差分による二段解析を用いた物品検査システム◎間瀬亮太・岩元浩太(NEC)

[映像解析・行動認識(1)]

- 9月4日(木) 09:30～11:30 4G会場(3A棟3F 3A312) 座長 今岡 仁(NEC)
- H-019 CNNを用いた群衆バッチ学習に基づく人数推定の高精度化◎池田浩雄・大網亮磨・宮野博義(NEC)
- H-020 混雑環境に頑健な滞留検出方式◎森口有紀江・大網亮磨・宮野博義(NEC)
- H-021 混雑した状況での人物と物体のインタラクション検出◎三橋優人・阿部 亨・菅沼拓夫(東北大)
- H-022 背景の変動に対して頑健な対象領域検出手法◎森 瞬・阿部 亨・菅沼拓夫(東北大)
- H-023 選手動作に基づくバドミントン競技映像の分割手法◎上山 嵩・亀田能成・大田友一・北原 格(筑波大)
- H-024 (講演取消)

[追跡]

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5G会場(3A棟3F 3A312) 座長 岩元 浩太(NEC)
- H-025 ランダムフォレストを利用したパーツベースオンライン学習による人物追跡
.....◎中島健太郎・梅澤 猛・大澤範高(千葉大)
- H-026 電波式シート型センサを用いた人物足跡認識◎川合 諒・高橋祐介・宮野博義(NEC)
- H-027 ペイジアンネットワークを用いた店舗内の顧客の購買行動認識法における画像特徴に関する検討
.....◎セイエン・堀 隆之・大谷 淳(早大)
- H-028 簡易な教示データを用いた multiple-instance 型LVQによる頭部検出
.....◎細井利憲・今岡 仁・宮野博義(NEC)・石寺永記(NEC情報システムズ)
- H-029 A face tracking method using face direction information◎ジャハオ・櫻井和之・今岡 仁(NEC)
- H-030 周期時系列のノンパラメトリックベイズ多重整列法◎森 源太・末松伸朗・岩田一貴・林 朗(広島市大)

[映像解析・行動認識(2)]

- 9月5日(金) 09:30～11:10 6G会場(3A棟3F 3A312) 座長 梅澤 猛(千葉大)
- H-031 モバイル端末を用いた画像検索のための特徴点選択手法に関する一検討◎松崎康平・酒澤茂之(KDDI研)
- H-032 ディープニューラルネットワークによる画風の特徴抽出◎長島秀明・清水郁子(農工大)
- H-033 Fast and Robust Geometric Verification for Local Descriptor based Image Matching
.....◎Ruihan Bao・Kyota Higa・Kota Iwamoto(NEC)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT査読付き論文の採択論文です。

- H-034 濃淡・距離動画像を用いた顔認識システムの試作 ……◎小山貴大・日野英逸・福井和広（筑波大）
 H-035 視線停留発生時刻の分散を用いたユーザ所望画像識別の検討 ……◎西口侑希・菅沼 陸・亀山 渉（早大）

[検査・識別]

- 9月5日（金）13:00～14:40 7G会場（3A棟3F 3A312） 座長 阿部 亨（東北大）
 H-036 航空機主翼部ファスナに対する画像と形状データを用いた自動検査 ……◎鷺見典克・田口 亮（名工大）・
 服部公央亮（中部大/名工大）・保黒政大（中部大）・梅崎太造（名工大）
 H-037 2レーザーを用いた高精度全周三次元ばね計測 ……◎西郷知泰（マクシス・シントー/名工大）・田口 亮・梅崎太造（名工大）
 H-038 三次元形状計測を用いた自動車ボディに対する自動形状検査 ……◎鈴木貴大・田口 亮（名工大）・
 服部公央亮（中部大/名工大）・保黒政大（中部大）・梅崎太造（名工大）
 H-039 短時間フォーエ記述子特徴量を用いた空中手書き文字認識 ……◎吉田大樹・中井 満（富山県大）
 H-040（講演取消）

I分野：グラフィクス・画像（第3分冊）

[イラスト・CG]

- 9月3日（水）09:30～12:00 1H会場（3A棟3F 3A308） 座長 三谷 純（筑波大）
 I-001 フリーハンドによる図形作成システムの開発 ……◎赤松克馬・中間翔大・小堀研一（大阪工大）
 I-002 形状に適した魚類の遊泳モーション生成のための仮想骨格モデル ……◎萩原幹大・里井大輝・星野准一（筑波大）
 I-003 剣術ゲームの戦闘場面における予測に基づくモーション生成法 ……◎今澄亮太・星野准一（筑波大）
 I-004 パーツの組合せによるアニメ調表情の感情推定 ……◎永井有希・高山伸也・徐 建鋒・酒澤茂之（KDDI 研）
 I-005 レゴブロックを用いた影のトリックアート構築システム ……◎生田寛和・高井昌彰（北大）・高井那美（北海道情報大）

[三次元映像]

- 9月3日（水）13:00～15:00 2H会場（3A棟3F 3A308） 座長 高橋 光輝（デジタルハリウッド大）
 I-006 映像合成のためのセンサカメラによるリアルタイム照明推定手法 ……◎盛岡寛史・大久保英彦・三ッ峰秀樹（NHK）
 I-007 ペーパーラフトとデジタルペンによる三次元立体への筆記検討 ……◎新村拓哉（電機大）・
 岩田英三郎・釜中博樹（ユニバーサルロボット）・高橋侑孝（アノトマクセル）・長谷川誠（電機大）
 I-008 AR空間における立体モデルの集合演算と局所変形 ……◎阿部直樹・向井伸治・福崎健志（前橋工科大）
 I-009 3次元流体シミュレーションの速度場のルーブ再生 ……◎谷 翼（北大）・土橋宜典（北大/科学技術振興機構）・佐藤周平・山本 強（北大）
 I-010 計算機合成イメージホログラムによる3次元映像の凹面鏡による空中投影 ……◎川島徹也・鈴木啓介・角江 崇・下馬場朋禄・伊藤智義（千葉大）

[画像特徴・検出（1）]

- 9月3日（水）15:30～17:30 3H会場（3A棟3F 3A308） 座長 内藤 整（KDDI 研）
 I-011 圧縮と切り取りに耐性を持つ電子透かしの性能評価 ……◎高塚雅広・梶原正明・平川 豊・大関和夫（芝浦工大）
 I-012 時空間特徴を用いたYouTube上のビデオ内の暴力シーン検出 ……◎内藤 貴（名大）
 I-013 能動学習型SVMを用いたCBIRにおける分類器の再利用へのログ情報の適用 ……◎原田憲吾・服部元信（山梨大）
 I-014 サムネイル画像を利用した所望画像検出実験における注視時間の分析 ……◎菅 貴之・武藤憲司（芝浦工大）・
 八木一夫（首都大）・三林洋介（都産業技術高専）・浅井紀久夫・近藤喜美夫（放送大）・山本周平（芝浦工大）
 I-015 擬似乱数とLBPによる輝度変換攻撃された電子透かし画像検出 ……◎国松亞蘭・今村幸祐（金沢大）・黒田英夫（FPT 大学）・藤村 誠（長崎大）
 I-016 ウェーブレット変換を用いた動画像の照合法 ……◎藤井 廉（京都府大）・野口拓弥（エステンナイン京都）・
 田村将貴（システムディ）・吉富康成・浅田太郎・田伏正佳（京都府大）

[画像特徴・検出（2）]

- 9月4日（木）09:30～12:00 4H会場（3A棟3F 3A308） 座長 原 健二（九大）
 I-017 視点移動によるフレーム間の動きを用いたハンドヘルドカメラ映像からの動物体抽出 ……◎手島史裕・浜本隆之・杉村大輔（東理大）
 I-018 可視・赤外画像中の字形・筆圧情報を用いたオフライン筆者照合 ……◎大川 学（警視庁）・吉田健一（筑波大）
 I-019（講演取消）
 I-020 運転支援のための視線方向による望遠カメラ制御 ……◎寺谷大輝・蜂巣拓巳・圓道知博（長岡技科大）
 I-021 PCAと部分空間法を用いた布の汚れの鮮明化画像処理 ……◎伊藤良太（龍谷大）・桶谷新也（京都府中小企業技術センター）・藤田和弘（龍谷大）
 I-022 四面体体積最小化法による消失点検出 ……◎郷間理規・森 博志・外山 史・東海林健二（宇都宮大）

[映像符号化・画像復元]

- 9月4日（木）15:30～17:30 5H会場（3A棟3F 3A308） 座長 関口 俊一（三菱）
 I-023 単一画像を用いた再構成型超解像法の一考察 ……◎佐渡山史矢・荻野 正・山田親観（沖縄高専）
 I-024 空間階調削減と復元を用いた超高精細映像の超解像復元映像符号化の検討 ……◎松尾康孝・三須俊枝・岩村俊輔・境田慎一（NHK）
 I-025 時空間解像度変換による超高精細映像のリアルタイム符号化 ……◎三須俊枝・松尾康孝・岩村俊輔・境田慎一（NHK）
 RI-001 時間方向からの予測動きベクトル推定に基づくメニューコア向け並列動き探索手法 ……◎工藤 忍・北原正樹・清水 淳（NTT）

- I-026 領域マッチングと転送色信頼度に基づくカラー画像参照型カラリゼーションの性能改善
.....◎長友陽介・王 冀・平野那由他・関 拓巳・八島由幸 (千葉工大)
- I-027 局所勾配特徴量を用いた適応的画像補間方式◎川崎政吾 (筑波大)

[HEVC]

- 9月5日 (金) 09:30 ~ 12:00 6H会場 (3A棟 3F 3A308) 座長 石川 孝明 (早大)
- I-028 ヒストグラム補正によるスクリーンコンテンツ符号化の画質改善◎宮澤一之・峯澤 彰・関口俊一 (三菱)
- I-029 Angular-based Residual Signal Coding of Intra Depth Map in 3D-HEVC
.....◎ホウアリ サビリン・河村 圭・内藤 整 (KDDI 研)
- I-030 画像のエッジ情報を用いた HEVC イントラ予測モード絞込手法に関する一考察
.....◎横張和也・佐野 卓・大西隆之・岩崎裕江・清水 淳 (NTT)
- I-031 超高精細映像の並列符号化器の構成に関する一考察
.....◎大西隆之・佐野 卓・西田享邦・草場 律・嵯峨田淳・岩崎裕江・池田充郎・清水 淳 (NTT)
- I-032 超高精細映像符号化における広範囲探索手法の一考察◎佐野 卓・大西隆之・嵯峨田淳・清水 淳 (NTT)
- I-033 Inter TU size early determination in HEVC for 8K video.....◎蘇 佳・大西隆之・岩崎裕江・清水 淳 (NTT)

[AVM・画像表現]

- 9月5日 (金) 13:00 ~ 16:00 7H会場 (3A棟 3F 3A308) 座長 加藤 晴久 (KDDI 研)
- I-034 タブレット端末を用いた直感的な作曲支援システムの開発◎赤松雄馬・小堀研一 (大阪工大)
- I-035 仮想化粧システムに関する基礎的検討 ― 顔形状の類似度に基づく化粧顔の検索法の検討 ―
.....◎張 琳・大谷 淳 (早大)
- I-036 顔画像からの線画ベースの似顔絵自動生成システムにおける主観的識別に関する検討
.....◎呉 玉珍・榎本 誠・大谷 淳 (早大)
- I-037 着物の染め直し補助のためのデジタル画像の色合い変換
.....◎中山 仁 (龍谷大)・桶谷新也 (京都府中小企業技術センター)・藤田和弘 (龍谷大)
- I-038 Personalized Audiovisual-Program Recommendation by Improved Watch-Flow Algorithm
.....◎Christina Natalia Pakpahan・Wataru Kameyama (早大)
- I-039 GPUを用いた多方向SMFの並列化について
.....◎越山翔太・山本博章 (信州大)・横山靖樹・宮崎 敬 (長野高専)・白井啓一郎 (信州大)
- I-040 ノイズ推定法と分布間距離による Bilateral Filter の最適パラメータ推定の検討
.....◎真喜志泰希・荻野 正・山田親稔 (沖縄高専)・市川周一 (豊橋技科大)

J分野：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション (第3分冊)

[ユーザの状態推定]

- 9月3日 (水) 09:30 ~ 12:00 1J会場 (3A棟 2F 3A209) 座長 加藤 昇平 (名工大)
- J-001 映像情報に付加された一般視聴者のコメントを利用して目的映像検索を高精度化する技術の研究
.....◎藤本文彦・深井信吾 (東京工芸大)・藤木新鋭科学研究所)
- J-002 映像シーン検索における一般視聴者の利用情報を活用した検索手法の検討
.....◎深井信吾・藤本文彦 (藤木新鋭科学研究所)
- J-003 おもてなしのための足取りパターンによる旅行者の歩行状態の推定◎植村喜弘・梶原祐輔・島川博光 (立命館大)
- J-004 ドライバの状態推定を目的とした頭部姿勢の時系列解析
.....◎伊藤桃代 (徳島大)・佐藤和人 (秋田県大)・福見 稔 (徳島大)
- J-005 筋骨格モデルを用いた手の姿勢推定手法の検討◎笠松 英・梅澤 猛・大澤範高 (千葉大)
- J-006 Kinect センサーと拡張現実を用いた胸骨圧迫の姿勢学習アプリケーションの開発
.....◎渡邊宏尚・土田 菜 (釧路公大)・佐々木富子・宮尾スミエ (釧路孝仁会看護専門学校)・皆月昭則 (釧路公大)

[スマートデバイス]

- 9月3日 (水) 13:00 ~ 15:00 2J会場 (3A棟 2F 3A209) 座長 中野 有紀子 (成蹊大)
- J-007 並置したスマートデバイス間のインタラクションに関する研究◎森 綜太・安藤敏彦 (仙台高専)
- J-008 注視点情報を用いた確率的フリック入力方式の提案◎萩谷俊幸・加藤恒夫 (KDDI 研)
- J-009 小型タッチスクリーン上の効率的なタイルプログラミング環境の設計◎磯脇直人・梅澤 猛・大澤範高 (千葉大)
- J-010 スマートフォンを用いた拡張現実による地形概観生成◎宮津研士郎・高井昌彰 (北大)
- J-011 スマートフォンを用いた花札初心者支援のための AR システム◎圓谷将大・高井昌彰 (北大)
- J-012 HMDを用いた AR 空間と実空間照明連動システムの検討
.....◎天白宗成・間 博人・本谷 陽・松井健人・三木光範 (同志社大)

[対話・視線・ジェスチャ]

- 9月3日 (水) 15:30 ~ 17:30 3J会場 (3A棟 2F 3A209) 座長 安藤 ハル (日立)
- J-013 Gesture recognition with multiple features from hands and face using depth sensor
.....◎Graciliano Garcia Torres Galindo Jr・Chendra Hadi SURYANTO・福井和広 (筑波大)
- J-014 Hand shape recognition using position invariant feature from the sequence of depth images
.....◎張 燕・Chendra Hadi SURYANTO・福井和広 (筑波大)
- J-015 多人数会話における参与役割を考慮したコミュニケーションロボットの視線制御
.....◎吉野 堯 (成蹊大)・林 佑樹 (大阪府大)・中野有紀子 (成蹊大)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT 査読付き論文の採択論文です。

- J-016 タイルディスプレイによる高臨場感な双方向映像コミュニケーションシステムの設計と実装
…… ◎野田敏志 (岩手県大)・江原康生 (阪大)・石田智行 (茨城大)・橋本浩二・柴田義孝 (岩手県大)
- J-017 明度・コントラストを考慮した画像の最適強調条件 …… ◎森 絢一・田村 仁・滝田謙介 (日本工大)
- J-018 抽象絵画における鑑賞者の視線行動を利用した音楽生成システムの研究; 鑑賞者の発想を膨らませる
音楽の自動生成システムに関する予備的検討
…… ◎小楠竜也・大谷 淳 (早大)・榎沢 順 (千葉商科大)・米村俊一 (芝浦工大)

【行動分析・モデル化 (1)】

- 9月4日 (木) 09:30 ~ 12:00 4J 会場 (3A 棟 2F 3A209) 座長 田中 貴紘 (名大)
- RJ-001 ヒヤリハット遭遇時における運転者特性と身体情報の分析 …… ◎佐藤和人・加藤大輝・勝又健太郎 (秋田県大)・伊藤桃代 (徳島大)・間所洋和 (秋田県大)・門脇さくら (SmartDesign)
- RJ-002 笑顔の表出過程に着目した印象形成に及ぼす顔部位効果
…… ◎佐藤和人 (秋田県大)・門脇さくら (スマートデザイン)・間所洋和 (秋田県大)
- RJ-003 Kinect を用いた単調作業における特徴部位の推定 …… ◎岡村 瞬・関谷洋平・梶原祐輔・島川博光 (立命館大)
- J-019 ヒューマンコミュニケーションの場の普遍特徴量の検討 …… ◎後藤義貴・五十嵐涼・中平勝子・北島宗雄 (長岡技科大)
- J-020 行動観察記録データを利用した購買行動の分類 …… ◎若井拓哉・中平勝子・北島宗雄 (長岡技科大)
- J-021 マニュアルを利用して新規タスクを遂行するユーザの視線行動分析 …… ◎笠原翔平・中平勝子・北島宗雄 (長岡技科大)

【人の状態観察・推定】

- 9月4日 (木) 09:30 ~ 12:00 4L 会場 (3A 棟 2F 3A203) 座長 新井田 統 (KDDI 研)
- J-022 視覚運動情報に対する予測と認知の関係性 …… ◎豊田雄基 (電機大)・青山 敦 (慶大)・小山裕徳・川澄正史 (電機大)
- J-023 単調作業における作業者の体の動きに着目したヒューマンエラー予兆の発見
…… ◎関谷洋平・梶原祐輔 (立命館大)・早川孝之 (三菱)・島川博光 (立命館大)
- J-024 異なる文字入力方法における打鍵数と作業効率の比較 …… ◎西川和宏 (工学院大)
- J-025 TV 視聴者の顔向きと表情に基づく番組評価推定
…… ◎高橋正樹・奥田 誠・Clippingdale Simon・山内結子・苗村昌秀 (NHK 放送技研)
- J-026 加算平均を用いた瞳孔径の対光反射瞳孔応答モデルの検討
…… ◎黒田将史・西口侑希・永島元貴・菅沼 睦・亀山 渉 (早大)
- J-027 回帰分析を用いた脳波感情判断システムの構築 …… ◎時田直弥・芋野美紗子・土屋誠司・渡部広一 (同志社大)
- J-028 少人数会話での注視対象に関する比較分析 …… ◎伊集院幸輝・田口恵子・山本誠一 (同志社大)・馬田一郎 (NICT)

【行動分析・モデル化 (2)】

- 9月4日 (木) 15:30 ~ 17:30 5J 会場 (3A 棟 2F 3A209) 座長 寺田 和憲 (岐阜大)
- J-029 マルチモーダルコーパスを用いた母語と第二言語の沈黙時の視線行動の相違分析
…… ◎馬田一郎 (NICT/同志社大)・◎田口恵子・伊集院幸輝・山本誠一 (同志社大)
- RJ-004 【船井ベストペーパー賞受賞論文】
瞬目種類識別のための形状特徴量に関する一検討 …… ◎松野省吾 (電通大)・大山 実 (電機大)・阿部清彦 (関東学院大)・大井尚一 (電機大)・板倉直明 (電通大)
- J-030 ディスプレイ上に描画した平面的な目の視線方向の計算モデル
…… ◎尾関基行・西澤良真・岡本拓也・岡 夏樹 (京都工繊大)
- J-031 Computer-mediated Discourse Analysis に基づく音楽配信サイト間の発話行動分析
…… ◎石先広海 (KDDI 研)・Susan C. Herring (Indiana University)・服部 元・滝嶋康弘 (KDDI 研)
- J-032 ネットワークゲームにおける遠隔参加者間力覚共有効果の検証
…… ◎山口尚哲・小山慎哉 (函館高専)・三好孝典・河瀬澁貴 (豊橋技科大)
- J-033 通信基盤と人との相互作用による情報生成・流通プロセスの記述とバイラルメディアへの適用
…… ◎岩田翔汰・中平勝子・北島宗雄 (長岡技科大)

【人の状態把握とその応用】

- 9月5日 (金) 09:30 ~ 12:00 6J 会場 (3A 棟 2F 3A209) 座長 伊藤 昌毅 (東大)
- J-034 マルチエリア型人感センサを用いた時間差分による在席・離席検知手法の検討
…… ◎市野 博・三木光範・松下昌平・間 博人 (同志社大)
- J-035 スマートフォンとマルチエリア型人感センサを併用した在席・離席検出手法の検討
…… ◎寺井大地・三木光範・市野 博・間 博人 (同志社大)
- J-036 対話型キャラクターエージェントを用いた高齢者向け生活行動記録 …… ◎永井洋介・林 将之・神原誠之 (奈良先端大)・萩田紀博 (奈良先端大/ATR 知能ロボティクス研)
- J-037 不満・要望要因推定のための SNS 上のコメント傾向分析 …… ◎小松恭子・石先広海・服部 元・滝嶋康弘 (KDDI 研)
- J-038 「意図」に着目したソーシャルメディア上の人-コンテンツ相互作用の記述
…… ◎細井亮司・中平勝子・北島宗雄 (長岡技科大)
- J-039 ボケ表現のある高品質大画面画像コンテンツの感性評価
…… ◎清水湧貴・田中誠一・菱沼亮大・森 博志・外山 史・東海林健二 (宇都宮大)
- J-040 感性評価微細構造表を利用したデザイン要素選択支援データベースの設計
…… ◎伊勢蕉子・中平勝子・北島宗雄 (長岡技科大)

【支援システム】

- 9月5日 (金) 13:00 ~ 16:00 7J 会場 (3A 棟 2F 3A209) 座長 板井 志郎 (早大)
- RJ-005 自発光式ボードによる高齢者・弱視者向け歩行者移動支援システム …… ◎伊木俊介・大柴小枝子 (京都工繊大)
- J-041 誤検針に影響を及ぼす要因の分析と誤検針リスク診断システムの開発
…… ◎池田利夫・野上雅史・山口繁樹 (関西電力)・松井裕子 (原子力安全システム研)・上田勝彦 (関西電力)

- J-042 職場うつ予防のための組織アセスメントに関する基礎的検討：職場うつ要因の分析と組織シミュレータの試作
..... ○塩野目剛亮（筑波技術大）・中村友美（テラスビュー・こかげ）
- J-043 認知マップを用いた対話型鑑賞支援システム◎三浦慎平・星野准一（筑波大）
- RJ-006 スマートフォンでのニュース閲覧におけるタッチジェスチャを用いたアトラクティブフレーズの特長
.....◎伊藤翔平・吉田拓也（立命館大）・原田史子（コネクトドットコム）・島川博光（立命館大）
- J-044 話し手の感情を考慮したロボットの感情と動作の生成○長村里穂・吉村枝里子・土屋誠司・渡部広一（同志社大）

K 分野：教育工学・福祉工学・マルチメディア応用（第3分冊）

【教育工学（1）】

- 9月3日（水）09:30～11:50 1K会場（3A棟2F 3A207） 座長 小尻 智子（関西大）
- K-001 講演取消
- K-002 マッピングを用いた授業評価 ○森 夏節・金子正美（酪農学園大）・皆川雅章（札幌学院大）
- K-003 学習項目ごとのTarget Badge認定による学習者の動機付けの向上
..... ◎松本 峻・板戸陽子・Phuong Dinh Thi Dong・梶原祐輔・島川博光（立命館大）
- K-004 コード片の類似性にもとづく学習者の理解不足点の推定◎西本 航・梶原祐輔・島川博光（立命館大）
- K-005 学習者の行動履歴を用いた構成能力向上のための見守り教育
..... ◎板戸陽子・Dinh Dong Phuong・梶原祐輔・島川博光（立命館大）
- RK-001 書き方アニメーション作成ソフトウェアの開発と評価 ○小島一秀（阪大）・並川青慈（NOPWORKS）
- K-006 物語作成支援システムの問いかけ機能の検証◎藏屋沙那恵・神里志穂子（沖縄高専）

【教育工学（2）】

- 9月3日（水）13:00～15:00 2K会場（3A棟2F 3A207） 座長 小西 達裕（静岡大）
- K-007 映像キャスト手法を用いた看護技術教材作成支援システムの構築◎水野凌太郎（釧路公大）・小林裕美子・井上量子・宮尾スミエ・佐々木富子（釧路孝仁会看護専門学校）・皆月昭則（釧路公大）
- K-008 学習者の主観評価と課題の難易度にもとづく情報提示方法仮説の提案
..... ○岡崎泰久・野口千樹（佐賀大）・吉川 厚（東工大）
- K-009 組込み技術教材としての少ピン ARM マイコン LPC810 を用いた学習型赤外線リモコン装置の設計
.....◎荻窪光慈（埼玉大）
- K-010 Classroom Response System の教育利用における学習者行動に関する研究◎水谷晃三（帝京大）
- K-011 平面-立体の可逆変化が可能な立体設計手法による教育教材の開発◎中山弘敬・伊藤智義（千葉大）
- K-012 学習者の理解度診断に関する基礎的検討◎廣瀬雄真（山梨大）・難波道弘（山梨英和大）

【教育工学（3）】

- 9月3日（水）15:30～17:30 3K会場（3A棟2F 3A207） 座長 岡崎 泰久（佐賀大）
- K-013 講演取消
- K-014 IR ペンを用いた学習支援システムの開発
..... ○土江田織枝（釧路高専）・前田紫苑（ポータス）・林 裕樹（釧路高専）・宮尾秀俊（信州大）
- RK-002 タブレット PC を用いた運転者教育システムの開発と評価◎須藤 匠・猿田和樹・寺田裕樹・陳 国躍（秋田県大）
- K-015 科目難易度と個人成績を考慮した GPA** の順位の正当性について◎稲垣麻央・能上慎也（東理大）
- K-016 インストラクショナルデザインへのアジャイルソフトウェア開発手法の応用◎遠藤翔太・森本祥一（専大）
- K-017 対面授業におけるモバイル端末の利用に関する検討◎葉田善章（放送大）

【福祉情報工学（視覚障害）】

- 9月4日（木）09:30～11:50 4K会場（3A棟2F 3A207） 座長 関 喜一（産総研）
- K-018 視覚障がい者支援のための照明条件の変化を考慮したスポットナビゲーションの基礎的検討
..... ◎織田和典・滝沢穂高（筑波大）・青柳まゆみ（愛知教育大）・江崎修央（鳥羽商船高専）・水野慎士（愛知工大）
- K-019 電子タグを内蔵した平坦ブロックによる視覚障害者誘導◎浅野正義・梶原祐輔・島川博光（立命館大）
- K-020 視覚障がい支援のための仮想触力覚の利用 ○巽 久行（筑波技術大）・村井保之（日本薬科大）・関田 巖（筑波技術大）・徳増眞司（神奈川工科大）・宮川正弘（筑波技術大）
- K-021 視覚障がい者のためのオンライン地図情報を利用した触地図移動 ○巽 久行（筑波技術大）・村井保之（日本薬科大）・関田 巖（筑波技術大）・徳増眞司（神奈川工科大）・宮川正弘（筑波技術大）
- K-022 弱視支援を組み入れたヘッドマウントディスプレイの開発 ○村井保之（日本薬科大）・巽 久行（筑波技術大）・徳増眞司（神奈川工科大）・宮川正弘（筑波技術大）
- K-023 タッチスクリーン機器における視覚障害者に使いやすいボタン配置に関する検討
.....◎北村直也（筑波技術大）・三浦貴大（東大）・坂尻正次・大西淳児・小野 東（筑波技術大）
- K-024 超指向性スピーカを用いたロボットによる視覚障がい者のための遠隔作業訓練に関する基礎的検討と評価実験
..... ◎戒能孝治・滝沢穂高（筑波大）・青柳まゆみ（愛知教育大）・江崎修央（鳥羽商船高専）・水野慎士（愛知工大）

【福祉情報工学（センシング）】

- 9月4日（木）15:30～17:30 5K会場（3A棟2F 3A207） 座長 梶谷 勇（産総研）
- K-025 Kinect 白杖システムによる机の認識と性能評価 ◎倉持裕介・滝沢穂高（筑波大）・青柳まゆみ（愛知教育大）・江崎修央（鳥羽商船高専）・水野慎士（愛知工大）

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。（所属は略称表記）

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチアワード」受賞候補の資格対象であることを示します。（2014年12月31日時点で32歳以下）

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT 査読付き論文の採択論文です。

- K-026 指文字認識システムにおける効果的な辞書生成の検討 ……………◎渋谷美彩・田中翔平・日野英逸（筑波大）・加藤伸子・岡崎彰夫（筑波技術大）・福井和広（筑波大）
- K-027 距離動画像列からの特定ジェスチャのスポッティング ……………◎田中翔平（筑波大）・加藤伸子・岡崎彰夫（筑波技術大）・福井和広（筑波大）
- K-028 複数要約筆記文連携による要約筆記品質向上の試み ……………○高尾哲康（富山国際大）
- K-029 ジョイスティック型コントローラ操作における肢体不自由児の上肢動作解析 ……………◎比嘉 聖・神里志穂子・佐竹卓彦・眞喜志隆（沖縄高専）
- K-030 簡易脳波計を利用した文字走査入力 of の検討 ……………◎畑 諒輔・森 大毅（宇都宮大）

[高機能マルチメディア]

- 9月4日（木）15:30～16:50 5L会場（3A棟2F 3A203） 座長 栗林 稔（神戸大）
- K-031 SORNによるコンテンツ推薦システム ……………◎清政貴文・六井 淳（鳥根大）
- K-032 注視行動に着目した全方位型映像のリアリティ判定 ……………◎志水翔之・中平勝子・北島宗雄・高橋弘毅（長岡技術科大）
- K-033 原曲をピッチ変換した音を用いた音楽電子透かし法 ……………◎村田晴美（中京大）・荻原昭夫（近畿大）
- K-034 基底画像の置き換えによる2値の透かし情報の埋め込み法 ……………◎金森雷太・川村正樹（山口大）

[福祉情報工学（介護・ケア）]

- 9月5日（金）09:30～11:30 6K会場（3A棟2F 3A207） 座長 布川 清彦（東京国際大）
- K-035 認知症本人と家族支援のための「病・介護体験の語り」によるWebコンテンツの構築 ……………○小澤和弘（岐阜県立看護大）・竹内登美子（富山大／健康と病の語りディベックス・ジャパン）・佐藤（佐久間）りか（健康と病の語りディベックス・ジャパン）・後藤恵子（健康と病の語りディベックス・ジャパン／東理大）・射場典子（健康と病の語りディベックス・ジャパン）
- K-036 輝度分布センサを用いた日常生活での行動識別 ……………◎島吉翔太・岡村 瞬・梶原祐輔・島川博光（立命館大）
- K-037 情報システム I-ReCSS の利用記録を用いた高齢者の生活状態の異常検知に関する解析手法の検討 ……………◎高橋伸輔・坂本泰伸・松澤 茂・武田敦志・松本章代（東北学院大）
- K-038 上肢の動きを認識するゲームコントローラによる動作解析 ……………◎川鍋祐介・林 勇希・敷根伸光・上元 晃・秋葉 猛・星野准一（筑波大）
- K-039 タップ課題における発達障害児の特性 ……………○中國正吾・大西俊介（福祉のまちづくり研）・小堀 聡（龍谷大）
- K-040 失語症者向け料理名思い出し支援システムのための質問手法の検討 ……………◎有馬志保・黒岩真吾・堀内靖雄（千葉大）・古川大輔（君津中央病院）

[MVE/CW]

- 9月5日（金）13:00～15:00 7K会場（3A棟2F 3A207） 座長 蔵田 武志（産総研）
- RK-003 M I O S S : 3次元空間を重畳する鏡インタフェース ……………◎石井 亮・小澤史朗・小島 明（NTT）・中野有紀子（成蹊大）・林 佑樹（大阪府大）・大塚和弘（NTT）
- K-041 Kubelka-Munk 混色モデルによる任意投影面への映像マッピング ……………◎窓場真太郎（龍谷大）・大西宏紀・岡田至弘（龍谷大）
- K-042 環境埋め込み型カメラ映像で撮影した人物の等身大透明スクリーンによるAR提示 ……………◎及川純耶・亀田能成・大田友一（筑波大）
- K-043 AR広告表示と広告評価 ……………◎菅野恭平・田中二郎（筑波大）
- RK-004 訪問先での提示情報の受容性調査 ……………○河野 進（総研大）・相原健郎（総研大/NII）
- K-044 RFIDを用いた電波強度による異常行動認識システムの提案 ……………◎安藤 勇・沼尾雅之（電通大）

L 分野：ネットワーク・セキュリティ（第4分冊）

【運用システム】

- 9月3日（水）13:00～15:00 2M会場（3A棟3F 3A306） 座長 今泉 貴史（千葉大）
- L-001 講義記録システムアクセス解析結果可視化システムの開発 ……◎松室和馬・下川俊彦・神屋郁子（九産大）
- L-002 異種クラウド統合監視方式の提案 ……◎石田明久・太田智也（日立）
- L-003 アプリケーション毎の通信パターンに応じたリンクアップ速度調整による電力削減 ……◎吉田慎吾・嶋田 創・山口由紀子・高倉弘喜（名大）
- RL-001 スマートシティのためのMQTTプラットフォームの検証 ……◎粕谷貴司・近藤正芳・茂手木直也・松岡康友・矢野 雅（竹中工務店）・秋山貴紀・境野 哲・貞田洋明・堀越 崇・畠山英之（NTTコミュニケーションズ）
- L-004 データ間の関連性を基にしたトラフィックスパイクの波及に対する予防手法の提案 ……◎尾上裕太郎・王 家宏・児玉英一郎・高田豊雄（岩手県大）
- L-005 NFCを利用した公衆無線LAN相互認証 ……◎延 優介（慶大）・八横博史（電機大）

【プロトコル】

- 9月3日（水）15:30～17:30 3M会場（3A棟3F 3A306） 座長 下川 俊彦（九産大）
- RL-002 IEEE802.11干渉下におけるIEEE802.15.4のAckとLQIを用いた動的バックオフ制御方式の検討 ……◎村上厚介・小林秀幸（仙台大専）
- L-006 大規模データ収集システムにおけるDCBを用いたネットワークQoSの向上に関する研究 ……◎山木戸啓亮・長坂康史（広島工大）
- L-007 動的パケット破棄によるTCP公平性向上と多種コネクション環境における評価 ……◎秋山友理愛・神津智樹・山口実靖（工学院大）
- L-008 TCPパケットフローからの輻輳ウィンドウの推定 ……◎加茂亮平・平中幸雄・武田利浩（山形大）
- RL-003 衛星IPネットワークのための輻輳制御TCP Hyblaの解析モデルの提案 ……◎遠藤崇江・金 帝演・内海哲史・加藤 靖（鶴岡工業高専）・Zabir Salim（オレンジジャパン）
- L-009 SDN環境下での効率的なマルチパスルーティングの考察 ……◎井原 栄・今泉貴史（千葉大）

【セキュリティ基盤】

- 9月4日（木）09:30～12:00 4M会場（3A棟3F 3A306） 座長 岡本 健（筑波技術大）
- L-010 VMセキュアプロセッサの提案 ……◎千田拓矢・坂井修一（東大）・五島正裕（NII）・山口利恵・宮永瑞紀（東大）
- L-011 VMセキュアプロセッサの構成 ……◎宮永瑞紀（東大）・山田剛史（Link-U）・山口利恵（東大）・五島正裕（NII）・坂井修一（東大）
- L-012 TPMを用いたハイパーバイザの完全性検証手法の実装 ……◎岡本拓也・山口利恵（東大）・五島正裕（NII）・坂井修一（東大）
- L-013 Graphics Processing Unitを用いた拡大体上のQUADストリーム暗号の高速化 ……◎田中哲士（九州先端科学技術研/九大）・安田貴徳（九州先端科学技術研）・櫻井幸一（九州先端科学技術研/九大）
- RL-004 Proxy re-encryptionを用いたマルチユーザ向け完全準同型暗号の提案 ……◎柴田崇夫（電通国際情報サービス）・○松澤智史・武田正之（東理大）
- RL-005 個人情報のSEM（検索エンジン広告）価格に基づいたk-匿名化手法の提案 ……◎小栗秀暢（ニフティ/総研大）・曾根原登（NII）

【認証】

- 9月4日（木）15:30～17:30 5M会場（3A棟3F 3A306） 座長 山口 利恵（東大）
- L-014 スマートフォンにおける加速度に基づく歩容認証に向けての保持状況の検討 ……◎渡邊裕司（名古屋市大）
- L-015 画像の劣化を用いた認証システムの開発と検証 ……◎中野翔太・小林孝史（関西大）
- L-016 オンライン手書き文字とパスワード認証を用いた複合認証方式 ……◎菅原 俊・六井 淳（島根大）
- L-017 CAPTCHAリレーアタックのパフォーマンス低減手法の提案 ……◎小宮山哲俊・梅澤 猛・大澤範高（千葉大）
- L-018 大規模ネットワークに対応した安全なVoIP通信の実現方式：拡張TWP方式 ……◎高原尚志（新潟県大）

【運用管理とセキュリティ】

- 9月5日（金）09:30～12:00 6M会場（3A棟3F 3A306）座長 加藤 雅彦（インターネットイニシアティブ）
- L-019 SNMPを利用したバーストラフィック検知方式の提案 ……◎村井秀聡・砂田英之（三菱/Mitsubishi Electric）・牧 和宏（三菱電機情報ネットワーク/Mitsubishi Electric Information Network by Digital Technology）
- L-020 TCP/IPヘッダを用いたNATクライアント検出 ……◎李 熙貞（防衛大）
- L-021 パケットフィルタリング最適化のためのルール集合分割法 ……◎池本泰斗・田中 賢（神奈川大）・三河賢治（新潟大）
- L-022 multiple-ESA法のIDSへの適用可能性に関する検討 ……◎岡 大貴・今泉貴史（千葉大）
- L-023 スпам送信サーバの重篤度によるスパム送信パターン分類 ……◎山口翔生・中平勝子・北島宗雄（長岡技科大）
- L-024 特徴抽出によるフィルタ通過スパムメールの低減 ……◎渡邊隆志・◎佐藤 直（情報セキュリティ大）

【サイバー攻撃対策】

- 9月5日（金）13:00～15:00 7M会場（3A棟3F 3A306） 座長 白石 善明（神戸大）
- L-025 Malware visualization based on the behavior and its classification ……◎浦辻和也（愛媛大）・松重雄大（神戸大）・甲斐 博（愛媛大）・森井昌克（神戸大）
- L-026 サイバー・セキュリティ教育を目的としたシリアスゲームの構築法の提案 ……◎伊藤達哉・古市昌一（日大）
- L-027 ダークネット観測を利用した踏み台検出手法の提案 ……◎後藤洋一・李 熙貞・中村康弘（防衛大）

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。（所属は略称表記）

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FITヤングリサーチ賞」受賞候補の資格対象であることを示します。（2014年12月31日時点で32歳以下）

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT査読付き論文の採択論文です。

- L-028 バッファオーバーフロー攻撃に関する防御技術の調査
◎角田佳史・金子洋平・鈴木舞音・上原崇史・齋藤孝道 (明大)
- L-029 バッファオーバーフロー攻撃の調査と分類◎堀 洋輔・金子洋平・鈴木舞音・上原崇史・齋藤孝道 (明大)

M 分野：ユビキタス・モバイルコンピューティング (第4分冊)

[ITSとスマートコミュニティ]

- 9月3日(水) 13:00～15:00 2L会場(3A棟2F 3A203) 座長 屋代 智之(千葉工大)
- M-001 走行経路情報を利用した効率的な車々間データ通信◎川上智史・多田正範・島田秀輝・佐藤健哉(同志社大)
- M-002 快適ドライブ支援に向けた複数運転者の走行データ分析◎鈴木貴裕・柏本幸俊・玉井森彦・安本慶一(奈良先端大)
- M-003 デマンドバスを対象としたマイクロ交通シミュレータの開発
◎與那嶺貴雄・赤嶺有平・上原和樹(琉球大)・根路銘もえ子(沖縄国際大)・遠藤聡志(琉球大)
- M-004 ユーザの嗜好を反映した二輪車の経路推薦のための道路特徴と走行特徴の検討
◎竹森有祐・神原誠之(奈良先端大)・萩田紀博(奈良先端大/ATR)
- M-005 GPSアート生成のための最適歩行経路探索システムの開発◎三谷哲心・高井昌彰(北大)
- M-006 スマートフォンを利用した転倒検知率向上に関する研究◎猪股史也・諏訪敬祐(東京都大)

[ユビキタスコンピューティング]

- 9月4日(木) 09:30～12:00 4N会場(3A棟3F 3A304) 座長 大内 一成(東芝)
- M-007 ウェアラブル光ファイバを用いたランニング支援のための聴覚フィードバックシステムの開発
◎小山勇也・渡辺一弘(創価大)
- M-008 ヘルスプロモーションを考慮した身体活動管理支援システムの開発◎渡邊宏尚・皆月昭則(釧路工大)
- M-009 骨格情報を用いた高齢者の上肢運動支援の提案
◎小林 守・萩原真奈・中野和樹・石井恭香・石川広幸(茨城県立産業技術短大)
- M-010 短時間睡眠支援に向けた生体情報を用いた入眠時刻の推定◎永田大地・荒川 豊・安本慶一(奈良先端大)
- M-011 昆虫の育成環境センシングシステムの提案◎今林仁広・間 博人・内村裕之・三木光範(同志社大)
- M-012 NoSQLを利用した複数視点による移動物体位置管理システムの提案
◎西野剛史・楠瀬 適・島田秀輝・佐藤健哉(同志社大)
- M-013 ホームオートメーションの誤動作を検出するための仮想部屋シミュレータ
◎山中 潮・武田利浩・平中幸雄(山形大)

[ネットワーク・アプリケーション]

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5N会場(3A棟3F 3A304) 座長 藤井 章博(法大)
- M-014 WSNにおける時空間性を考慮した効率的なデータ交換のための一調査◎近藤亮磨・岩井将行(電機大)
- M-015 利用者の歩行動作と位置情報を用いた自動個人認証◎鬼木明日香・木村真乃介・島田秀輝・佐藤健哉(同志社大)
- M-016 Webページのレイアウト調整システムの提案◎若松祐樹・早川智一・疋田輝雄(明大)
- M-017 OpenFlowを利用したUDPにおける低遅延再送方式の検討◎鈴木 悟・栗原公紀・藤山佳輝・原嶋秀次(東芝)
- M-018 OpenFlowを利用した動的グループ化による動画配信ネットワークの負荷軽減
◎出村友秀・井上慶春・島田秀輝・佐藤健哉(同志社大)
- M-019 無線ネットワーク環境における映像品質制御手法の提案◎猪野基雄・橋本浩二・柴田義孝(岩手県大)

[センサ・ネットワークと省電力]

- 9月5日(金) 13:00～16:00 7N会場(3A棟3F 3A304) 座長 稲村 浩(NTTドコモ)
- M-020 MANETの実証実験のためのリアルタイムなネットワークポロジ可視化システムの開発
◎筒井悠史・大田知行・角田良明(広島市大)
- M-021 MANETにおける自律分散クラスタリングとP2Pオーバーレイネットワークを用いた経路構築手法
◎中原翔馬・大田知行・角田良明(広島市大)
- M-022 小エリア環境観測システムの観測ノードの設置条件に関する検討◎盛 裕之・吉田将司(サレジオ高専)
- M-023 天井照明の光度制御を用いた通信手法の検討◎長光翔一・間 博人・奥西亮賀・村上広記・三木光範(同志社大)
- M-024 Android端末におけるブロードキャストインテント発行による電力消費に関する一考察◎中村優太(工学院大)・早川 愛(お茶の水女子大)・半井明大・竹森敬祐(KDDI研)・小口正人(お茶の水女子大)・山口実靖(工学院大)
- M-025 色表現制御によるAndroid端末のディスプレイによる消費電力の低減
◎坂本寛和・中村優太・野村 駿・濱中真太郎・小林亜樹・山口実靖(工学院大)

N 分野：教育・人文科学 (第4分冊)

[教育システムの設計・開発・実証]

- 9月5日(金) 09:30～12:00 6L会場(3A棟2F 3A203) 座長 中平 勝子(長岡技術科大)
- N-001 パズルを用いたビジュアルプログラミング教材の実装と評価◎山本一秀(同志社大)・石黒紀悠(Bellerbys College)・齋藤雄輔(奈良先端大)・芳賀博英(同志社大)
- N-002 CGを用いた個人適応型漢字学習システムの開発◎車川隆洋・根本奈津美(東京情報大)・崎山卓哉(JMC)・松下孝太郎・鈴木英男・ケネスジェームス マッキン・永井保夫・布広永示(東京情報大)
- N-003 e-Learningシステムにおける特徴語を用いた適応型テストの検討◎宮川裕介・泉 隆(日大)
- N-004 ロボットを用いた初心者のためのプログラミング教材の開発
◎野口孝文(釧路高専)・梶原秀一(室蘭工大)・千田和範・稲守 栄(釧路高専)

- N-005 拡張現実感技術を用いた教育環境の多態性に関する考察
◎馬 文鵬 (鳴門教育大)・皆月昭則 (釧路工大)・林 秀彦 (鳴門教育大)
- N-006 ゲームフィクションを活用したリーディング学習アプリケーションの構築
◎宮岸祐成・宮崎佳典 (静岡大)・長谷川由美 (近畿大)・大城敬人 (静岡大)
- N-007 タブレット端末を活用した英語教育支援システムの設計◎日野友貴・坂本泰伸 (東北学院大)

【情報技術の社会・教育への応用】

- 9月5日 (金) 13:00～15:30 7L 会場 (3A 棟 2F 3A203) 座長 長 慎也 (明星大)
- N-008 同一ゲーム特性における学習期間が及ぼす教育効果の検証◎初谷拓郎・杉本拓也・伊與田光宏 (千葉工大)
- N-009 建築環境分野における研究・開発支援のためのユーザインタフェースの構築
◎隈 裕子・菊池浩史・中谷祐介 (サイバー大)・尾崎明仁 (九大)
- N-010 外国人の初級日本語文の授受表現における助詞誤りの検出◎細田裕樹・絹川博之・杉野勝也 (電機大)
- N-011 情報環境学部の「情報科教育法」への取り組み (その5)◎土肥紳一・今野紀子 (電機大)
- N-012 地方自治体の SNS 活用に関する問題の一考察◎上野 亮・飯島泰裕 (青学大)
- N-013 スマートフォンアプリケーションによる出産に対する女性の意識・行動変容に関する研究
◎土田 葉・渡邊宏尚 (釧路工大)・上川原ひろみ・斉藤 唯 (釧路総合病院)・
 三宮直子 (白糠町役場)・皆月昭則 (釧路工大)
- N-014 3DCG 教材を用いた学習方法の考察:医療技術シミュレーション教育の発展を目指して
◎王 宜明 (鳴門教育大)・皆月昭則 (釧路工大)・林 秀彦 (鳴門教育大)

○分野：情報システム (第4分冊)

【SNS およびビッグデータ】

- 9月3日 (水) 13:00～15:00 2N 会場 (3A 棟 3F 3A304) 座長 鳥羽 美奈子 (日立)
- O-001 Twitter の発言における著者性別推定システムの検討◎木村颯斗・大山 実 (電機大)
- RO-001 Twitter からの為替予測に特化したドメイン辞書構成法の提案◎石垣藍陸・沼尾雅之 (電通大)
- RO-002 SNS を俯瞰する都市型レイアウト形成システム◎川村真人・高井昌彰 (北大)
- RO-003 協調 Web 検索におけるグループ内ウェアネス向上のための検索過程のリアルタイム共有
◎塩見和則・高田秀志 (立命館大)
- O-002 ビジネスにおけるデータサイエンスの潮流と今後の展望◎坂巻英一 (宮城大)
- O-003 エネルギーマネジメントに向けた電力消費パターンのモデル化検討
◎小川雄喜・樋熊利康 (三菱)・久代紀之 (九工大)

【センシングとセキュリティ】

- 9月3日 (水) 15:30～17:30 3N 会場 (3A 棟 3F 3A304) 座長 西 宏之 (崇城大)
- RO-004 プローブ要求を利用したスマートフォンユーザー向け屋内位置推定手法◎横堀哲也・沼尾雅之 (電通大)
- O-004 行動センシングによる認知症の早期発見システム◎阿部雄己・井上雅裕 (芝浦工大)
- RO-005 農作業情報取得のための土壌水分センサを用いた灌水量の推定
◎中西 惇・安井顕誠・梶原祐輔・島川博光 (立命館大)
- O-005 骨格情報を用いた姿勢改善の提案◎杉本拓也・初谷拓郎・伊與田光宏 (千葉工大)
- O-006 駒の利きを盤面上の地形で可視化する将棋初心者支援システム
◎三好竜志・高井昌彰 (北大)・高井那美 (北海道情報大)
- RO-006 オフィス空間における場のセキュリティを考慮したリスクアセスメント
◎米田翔一・谷本茂明 (千葉工大)・佐藤周行 (東大)・金井 敦 (法大)
- RO-007 医療クラウドサービスの間接的利用の不安因子について
◎福田洋治 (愛知教育大)・白石善明 (神戸大)・廣友雅徳 (佐賀大)・毛利公美 (岐阜大)

【安全・安心】

- 9月3日 (水) 09:30～12:00 1P 会場 (3A 棟 3F 3A301) 座長 井ノ口 宗成 (新潟大)
- O-007 インターネットを中心とした情報通信技術の普及と犯罪動向との相関性に関する一考察
◎石川和樹・森本祥一 (専大)
- O-008 犯罪状況の発生を自動検知する知的防犯カメラの研究開発◎鳥袋航一・崎浜 翔・與儀憲吾・長山 格 (琉球大)
- RO-008 災害時のインフラ喪失に対する耐性をもった公共防災情報端末の実現
◎矢代武嗣・小林真輔 (YRP ユビキタス・ネットワークキング研)・
 越塚 登・坂村 健 (YRP ユビキタス・ネットワークキング研 / 東大)
- RO-009 スマートフォン向け岐阜県防災情報システムアプリの開発
◎白石裕輝・西中智樹・廣瀬康之・藤本雅人 (岐阜工業高専)・
 浅井博次・藤井勝敏・棚橋英樹 (岐阜県情報技術研)
- O-009 GIS を用いた津波発生時における自動車避難経路の分析◎山本守和・登川幸生 (日大)
- O-010 大規模災害時の情報提供を目的としたツイート分類手法◎六瀬聡宏・内田 理 (東海大)・鳥海不二夫 (東大)
- O-011 集団意思決定を考慮した歩行者の挙動に関するシミュレーションモデルの構築:
 テマパークにおいて混雑情報を提供した際のマルチエージェントシミュレーション
◎藤野直輝 (早大)・小島一晃 (帝京大)・村松慶一・松居辰則 (早大)

※ このプログラムは、インターネットで申し込まれた登録データを元に作成されています。(所属は略称表記)

※ 著者の○、◎はそれぞれ講演者を示し、◎は「FIT ヤングリサーチャー賞」受賞候補の資格対象であることを示します。(2014年12月31日時点で32歳以下)

※ 講演番号の分野の前に「R」が付いているものは、FIT 査読付き論文の採択論文です。

【情報システムと社会】

- 9月3日(水) 13:00～15:00 2P会場(3A棟3F 3A301) 座長 富澤 眞樹(前橋工科大)
- O-012 カープローブデータによる渋滞ボトルネック検出方式の提案と評価
.....◎秋山高行・大橋洋輝・山本正明・佐藤暁子(日立)
- O-013 システム設計における推論の見える化とその適用事例
.....○久代紀之・松田将大(九工大)・高原邦夫(ナガセテクノエンジニアリング)
- O-014 ソーシャルビジネスの認知度向上のための情報発信法に関する一考察◎李 牧・森本祥一(専大)
- O-015 Twitterにおけるリンク構造を利用したスパムアカウント抽出手法の検討◎菊池 望・吉村博幸(千葉大)
- O-016 OpenStreetMapの貢献者とコミュニティ活動の分析
.....○早川知道(OpenStreetMap Foundation Japan/名工大)・伊藤孝行(名工大)
- O-017 遠隔医療データのエラー検出に関する研究◎梶栗芳夫・甲斐珠子(九大)
Ahmed Ashir(九大/Grameen Communications)・Islam Rafiqul(Grameen Communications)・金子邦彦・福田 晃(九大)

【情報システムの運用管理】

- 9月3日(水) 15:30～17:30 3P会場(3A棟3F 3A301) 座長 荻野 紫穂(武蔵大)
- O-018 次世代統合認証基盤の構築に向けた大学サービスの利用環境の解析
.....◎藤田翔也・松平拓也・高田良宏・笠原慎也(金沢大)
- RO-010 オープン・システム上での障害発生部位特定方法の提案◎篠原昭夫・泉 隆(日大)
- RO-011 【FIT論文賞受賞論文】
予備系システムのダウンサイジング手法及び評価◎市原利浩・原田篤史・樋口 毅(三菱)
- O-019 監視システムにおける障害箇所特定◎山田耕一・川岸諒子(三菱)
- O-020 仮想化システム向け統合プラットフォームにおけるディザスタリカバリ設定簡単化方式
.....◎永見明久・寺山充実・坂田匡通(日立)
- O-021 サーバ仮想化環境におけるサイジング方式の検討◎寺山充実(日立)

【ビジネスモデルと情報システム】

- 9月4日(木) 10:00～12:00 4P会場(3A棟3F 3A301) 座長 丸山 文宏(富士通研)
- O-022 オンライン講義の公開に関するプラットフォーム◎児玉晴男(放送大/総研大)
- O-023 共生のための協働型ビジネスモデル◎小松昭英(ものづくりAPS推進機構)
- RO-012 【FIT論文賞受賞論文】
多品種対応ドメインを用いたモデル駆動開発の実現◎根路銘崇(電通大/日本IBM)・沼尾雅之(電通大)
- O-024 情報システムのプロジェクトマネジメント◎小松昭英(ものづくりAPS推進機構)
- O-025 純粋関数型言語 Haskell を用いたシステム開発方法論に関する一考察◎青木唯一・須栗裕樹(宮城大)
- O-026 設備機器システムのテストにおけるCPUエミュレータの活用◎黒岩丈瑠(三菱/九工大)・久代紀之(九工大)

【スマートホーム関連技術】

- 9月4日(木) 15:30～17:30 5P会場(3A棟3F 3A301) 座長 茂木 学(NTT)
- O-027 分電盤電流波形より家庭内機器の消費電力を推定する電力見える化手法の検討
.....◎石山文彦・井上洋思・渡辺俊雄・大山 孝(NTT)
- O-028 消費電力の時系列から得た統計的特徴に基づく家電機器の動作状態推定方法の検討
.....◎井上洋思・石山文彦・渡辺敏雄・大山 孝(NTT)
- O-029 電源中の非定常変動電流の検出方式に関する検討◎榎熊利康・小川雄喜(三菱)
- O-030 個別照度の実現性を向上するタスクアンビエント型知的照明システムの検討
.....◎松下昌平・三木光範・中林弘光・間 博人(同志社大)
- O-031 マルチエリア型人感センサを用いた照明の調光レベルの検討
.....◎伊藤克也・三木光範・松下昌平・間 博人(同志社大)
- O-032 知的照明システムにおける照度の実現可能範囲の可視化◎北村一峰・三木光範・池上久典・間 博人(同志社大)

【推薦・情報サービス】

- 9月5日(金) 09:30～11:30 6P会場(3A棟3F 3A301) 座長 石川 冬樹(NII)
- O-033 "The Origin and Future of Species" on Location Services◎佐藤 順(放送大)
- O-034 ポリシーとイメージチェンジを両立させる衣服コーディネート支援◎吉田拓也・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- O-035 印象変更のための差集合を用いたコーディネート推薦◎福本真奈美・吉田拓也・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- O-036 栽培情報のウェブ閲覧履歴を用いた購入要因に関する消費者クラスターの判別
.....◎亀田 力・中西 惇・梶原祐輔・鳥川博光(立命館大)
- O-037 ユーザの潜在的な嗜好・要望・目的に適う段階的な旅行地の推薦
.....◎加藤桃子・安井顕誠・原田史子・鳥川博光(立命館大)
- O-038 GAを用いた会話型ご当地キャラクタによる地域観光ガイドサイトの構築◎中島真太郎・東海林智也(函館高専)

【センシングと情報システム】

- 9月5日(金) 13:00～16:00 7P会場(3A棟3F 3A301) 座長 児玉 公信(情報システム総研)
- O-039 PC活用支援のための自由視線入力システムの開発◎比嘉 岬・長山 格(琉球大)
- O-040 日常生活のセンシングによる実施時機変更が容易な行動の推定◎高岡伸明(立命館大)
- RO-013 環境計測から得られる環境音データのサービス利活用への挑戦—環境音データの分類法について—
.....◎河本 満・幸島明男・車谷浩一(産総研)
- O-041 土壌センサによる圃場内水分量のモデリング◎稲田脩二・中西 惇・梶原祐輔・鳥川博光(立命館大)
- O-042 大規模な知的照明システムにおける照度センサ近傍照明抽出手法
.....◎池上久典・三木光範・榎原佑樹・間 博人(同志社大)
- O-043 ディスプレイ輝度に応じた選好照度の検証と輝度を考慮した知的照明システム
.....◎松本大樹・三木光範・池上久典・間 博人(同志社大)
- RO-014 UAPSにおける農産物無人販売所システムの開発◎徳増 匠・大谷 真(湘南工科大)

FIT2014 第13回情報科学技術フォーラム 論文査読者一覧

- | | | |
|-------------------------|-----------------|---------------------|
| 浅香 俊治
(ルネサスエレクトロニクス) | 佐藤 聡 (筑波大) | 宮下 健輔 (京都女子大) |
| 安里 彰 (富士通) | 三功 浩嗣 (KDDI 研) | 宮田 一乘 (北陸先端大) |
| 天笠 俊之 (筑波大) | 塩浦 昭義 (東北大) | 宮本裕一郎 (上智大) |
| 荒川 豊 (奈良先端大) | 柴田 知秀 (京大) | 村上登志男 (学習院大) |
| 安藤 友樹 (名大) | 柴田裕一郎 (長崎大) | 村崎 和彦 (NTT) |
| 伊沢 亮一 (NICT) | 白石 善明 (神戸大) | 本岡 毅 (JAXA) |
| 石川 孝明 (早大) | 新谷 虎松 (名工大) | 森井 昌克 (神戸大) |
| 石島 悌 (大阪府産総研) | 須永 宏 (大阪工大) | 森本 容介 (放送大) |
| 泉 知論 (立命館大) | 数原 良彦 (NTT) | 森山 甲一 (阪大) |
| 伊藤 京子 (阪大) | 関 良明 (東京都市大) | 矢口 勇一 (会津大) |
| 伊藤 康一 (東北大) | 関屋 大雄 (千葉大) | 山井 成良 (農工大) |
| 井上 智生 (広島市大) | 高橋 尚子 (國學院大) | 八横 博史 (電機大) |
| 井上 浩明 (NEC) | 高橋 寛 (愛媛大) | 山田 武士 (NTT) |
| 今井 雅 (弘前大) | 竹村 司 (富士火災海上保険) | 山田 雅之 (中京大) |
| 入江 豪 (NTT) | 刀川 眞 (室蘭工大) | 山室 健 (NTT) |
| 入江 英嗣 (電通大) | 田中 貴紘 (名大) | 山本 岳洋 (京大) |
| 内澤 啓 (山形大) | 田仲 正弘 (NICT) | 山元 規靖 (福岡工大) |
| 梅澤 猛 (千葉大) | 谷沢 昭行 (東芝) | 山本 泰生 (山梨大) |
| 江口 浩二 (神戸大) | 谷本 茂明 (千葉工大) | 吉浦 紀晃 (埼玉大) |
| 遠藤 守 (名大) | 田村 雅寿 (富士通研) | 吉岡 克成 (横浜国大) |
| 大川 猛 (宇都宮大) | 蝶野 慶一 (NEC) | 吉岡 真治 (北大) |
| 大須賀昭彦 (電通大) | 全 眞嬉 (東北大) | 吉田 尚史 (駒澤大) |
| 大野 和則 (東北大) | 塚田 晃司 (和歌山大) | 吉田 稔 (徳島大) |
| 岡本 秀輔 (成蹊大) | 手塚 太郎 (筑波大) | 吉野 孝 (和歌山大) |
| 岡本 昌之 (東芝) | 東本 崇仁 (東理大) | 米倉 達広 (茨城大) |
| 岡本 学 (NTT) | 戸田 浩之 (NTT) | 米田 友洋 (NII) |
| 岡本 吉央 (電通大) | 戸田 真志 (熊本大) | 若原 徹 (法大) |
| 奥 健太 (立命館大) | 中島 康彦 (奈良先端大) | 渡邊 伸行 (金沢工大) |
| 小関 健太 (NII) | 中野 浩嗣 (広島大) | |
| 鬼塚 真 (NTT) | 中原 啓貴 (鹿兒島大) | 他 1名 |
| 小野 成志 (武蔵学園) | 中村 一博 (日本工大) | |
| 柿崎 淑郎 (電機大) | 中村 素典 (NII) | 以上 計131名 (50音順・敬称略) |
| 笥 康明 (慶大) | 西 宏之 (崇城大) | |
| 梶山 朋子 (青学大) | 沼尾 正行 (阪大) | |
| 柏崎 礼生 (阪大) | 長谷川 忍 (北陸先端大) | |
| 片岡 信弘 (元東海大) | 秦 康範 (山梨大) | |
| 河合 吉彦 (NHK 放送技研) | 服部 宏充 (立命館大) | |
| 川喜田裕之 (NHK) | 林 勇吾 (立命館大) | |
| 河内 亮周 (東工大) | 平山 勝敏 (神戸大) | |
| 川村 隆浩 (東芝) | 深田 秀実 (小樽商科大) | |
| 北村 泰彦 (関西学院大) | 福田 直樹 (静岡大) | |
| 木下 哲男 (東北大) | 福田 洋治 (愛知教育大) | |
| 國宗 永佳 (信州大) | 福原 知宏 (産総研) | |
| 栗原 聡 (電通大) | 藤田 和弘 (龍谷大) | |
| 黒川 茂莉 (KDDI 研) | 藤田 欣也 (農工大) | |
| 桑原 和宏 (立命館大) | 藤田 悟 (法大) | |
| 後藤 順哉 (中大) | 細川 利典 (日大) | |
| 後藤田 中
(国立スポーツ科学センター) | 堀越 力 (湘南工科大) | |
| 小西 達裕 (静岡大) | 松田 昌史 (NTT) | |
| 小森 政嗣 (大阪電通大) | 光原 弘幸 (徳島大) | |
| | 峯 恒憲 (九大) | |
| | 宮澤 一之 (三菱) | |

FIT 委員名簿

FIT 運営委員会

委員長 (ISS)	安浦寛人 (九大)
副委員長 (IPSJ)	中田登志之 (NEC)
委員 (ISS)	佐藤敦 (NEC), 坂井修一 (東大), 美濃導彦 (京大), 境田慎一 (NHK), 堀田政二 (農工大), 数井君彦 (富士通研), 谷口行信 (NTT)
委員 (HCG)	中村裕一 (京大), 川原靖弘 (放送大)
委員 (IPSJ)	徳田英幸 (慶大), 住田一男 (東芝), 安本慶一 (奈良先端大), 清木康 (慶大), 菊池浩明 (明大)
実行委員長	坂井修一 (東大/FIT2014), 住田一男 (東芝/FIT2015)
プログラム委員長	安本慶一 (奈良先端大/FIT2014), 佐藤敦 (NEC/FIT2015)

FIT2014 実行委員会

委員長	坂井修一 (東大)
幹事	数井君彦 (富士通研/ISS), 池内克史 (東大/IPSJ)
会計幹事	櫻井和之 (NEC/ISS), 安本慶一 (奈良先端大/IPSJ)
委員 (ISS)	境田慎一 (NHK), 小林隆志 (東工大), 天野英晴 (慶大), 戸田智基 (奈良先端大), 滝沢穂高 (筑波大), 丸山文宏 (富士通研)
委員 (HCG)	水科晴樹 (NICT), 宮崎慎也 (中京大)
委員 (IPSJ)	安本慶一 (奈良先端大/IPSJ), 大沢英一 (はこだて未来大), 庄野逸 (電通大), 川島英之 (筑波大), 藤田桂英 (農工大), 大石岳史 (東大), 三武裕玄 (東工大), 島岡政基 (セコム), 稲村浩 (NTT ドコモ), 長慎也 (明星大)
委員 (現地)	大田友一 (筑波大), 亀田能成 (筑波大)

FIT2014 プログラム委員会

委員長	安本慶一 (奈良先端大)
幹事	境田慎一 (NHK/ISS), 大沢英一 (はこだて未来大/IPSJ)
委員 (ISS)	数井君彦 (富士通研), 入江英嗣 (電通大), 松原繁夫 (京大), 黄瀬浩一 (大阪府大), 松尾翔平 (NTT), 吉野孝 (和歌山大), 小西達裕 (静岡大), 茂木学 (NTT)
委員 (IPSJ)	池内克史 (東大), 喜田拓也 (北大), 天笠俊之 (筑波大), 荒牧英治 (京大), 北原鉄朗 (日大), 関嶋政和 (東工大), 今泉貴史 (千葉大), 大内一成 (東芝), 末代誠仁 (桜美林大)

FIT2014 現地実行委員会

委員長	大田友一 (筑波大)
副委員長	北川博之 (筑波大)
幹事	天笠俊之 (筑波大), 亀田能成 (筑波大), 北原格 (筑波大)
委員	亀山啓輔 (筑波大), 佐久間淳 (筑波大), 佐藤聡 (筑波大), 津川翔 (筑波大), 日野英逸 (筑波大), 古賀弘樹 (筑波大), 延原肇 (筑波大), 海老原格 (筑波大), 山口友之 (筑波大)

FIT2014 研究会担当委員

委員 (ISS)	全真嬌 (東北大), 小林隆志 (東工大), 竹内広宜 (日本 IBM), 入江英嗣 (電通大), 勝勝夫 (日立), 天野英晴 (慶大), 森秀樹 (東洋大), 新谷隆彦 (電通大), 榎剛史 (東大), 戸田智基 (奈良先端大), 松原繁夫 (京大), 持橋大地 (統計数理研), 山崎匡 (電通大), 渡邊高志 (東北大), 滝沢穂高 (筑波大), 黄瀬浩一 (大阪府大), 松尾翔平 (NTT), 吉野孝 (和歌山大), 中尾敏康 (NTT), 小西達裕 (静岡大), 磯和之 (NTT), 栗林稔 (神戸大), 森井昌克 (神戸大), 茂木学 (NTT), 丸山文宏 (富士通研), 石川冬樹 (NII), 野田五十樹 (産総研)
委員 (HCG)	田中貴紘 (名大), 水科晴樹 (NICT), 伊藤昌毅 (東大), 宮崎慎也 (中京大), 若月大輔 (筑波技術大)
委員 (IPSJ)	喜田拓也 (北大), 庄野逸 (電通大), 西崎真也 (東工大), 長谷川勇 (スクウェア・エニックス), 片桐孝洋 (東大), 菅谷みどり (芝浦工大), 天笠俊之 (筑波大), 曾剛 (名大), 吉瀬謙二 (東工大), 福田浩章 (芝浦工大), 川島英之 (筑波大), 荒牧英治 (京大), 岡崎直観 (東北大), 伊藤彰則 (東北大), 北原鉄朗 (日大), 藤田桂英 (農工大), 保木邦仁 (電通大), 関嶋政和 (東工大), 大石岳史 (東大), (日立), 石井大祐 (早大), 三武裕玄 (東工大), 水野慎士 (愛知工大), 小松孝徳 (明大), 今泉貴史 (千葉大), 島岡政基 (セコム), 小松文子 (情報処理推進機構), 高田敏弘 (NTT), 大内一成 (東芝), 稲村浩 (NTT ドコモ), 屋代智之 (千葉工大), 木原民雄 (昭和女子大), 長慎也 (明星大), 末代誠仁 (桜美林大), 須川賢洋 (新潟大), 森本康彦 (東京学芸大), 富澤眞樹 (前橋工科大)

この度のFIT開催にあたりましては、筑波大学様よりキャンパスを会場としてご提供頂き誠にありがとうございました。ここに厚くお礼申し上げます。

FIT 運営委員会